

營業所、審査官カ請求人又ハ被請求人ナルトキハ其ノ官氏名

- 二 審判事件又ハ抗告審判事件ノ表示
- 三 一定ノ申立及理由

特許權ノ範圍確認審判ニシテ特許發明又ハ登録實用新案ニ係ラサルモノカ特許權ノ範圍ニ屬スルヤ否ヲ確認セムトスルモノナルトキハ其ノモノノ説明ヲ附シタル圖面ヲ前項ノ請求書ニ添附スヘシ其ノ圖面ヲ調製スルコト能ハサルモノニ在リテハ説明書ヲ添附スヘシ

第六十九條 特許法第三十八條ノ規定ニ依ル審判ノ請求書ニハ前條ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載シ補償金額ノ計算ニ關スル書類ヲ添附スヘシ

- 一 使用ヲ要スル特許發明ノ名稱及特許番號
- 二 使用セラルヘキ特許發明又ハ實用新案ノ名稱及特許番號若ハ登録番號並其ノ登録ノ年月日

第七十條 答辯書又ハ辯駁書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 審判番號又ハ抗告審判番號

二 請求人及被請求人ノ氏名、審査官カ請求人又ハ被請求人ナルトキハ其ノ官氏名

- 三 審判事件又ハ抗告審判事件ノ表示
- 四 答辯又ハ辯駁ノ要旨及理由

第七十一條 審判又ハ抗告審判ノ請求書ヲ受理シタルトキハ之ニ番號ヲ附シ帳簿ニ其ノ番號、審判事件又ハ抗告審判事件ノ表示、當事者及代理人ノ氏名並請求書差出ノ年月日ヲ記載シ其ノ番號ヲ當事者ニ通知スヘシ

第七十二條 數人ノ所有ニ係ル特許權ニ付特許權者ニ對シ審判又ハ抗告審判ヲ請求セムトスルトキハ其ノ特許權者ノ全員ヲ以テ被請求人ト爲スヘシ

第七十三條 第六十四條ノ規定ハ審判及抗告審判ニ之ヲ準用ス

- 第七十四條 參加請求書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 審判番號又ハ抗告審判番號
 - 二 當事者
 - 三 審判事件又ハ抗告審判事件ノ表示
 - 四 參加人及其ノ代理人ノ氏名、住所、居所又ハ營業所

五 利害關係

六 參加ノ申立

第七十五條 參加ニ付異議ノ申立アリタルトキハ當事者及參加請求人ヲ審訊シタル後參加ノ許否ヲ決定スヘシ

第七十六條 特許局ニ於テ特許法第二十三條ノ規定ニ依リ審判又ハ抗告審判ニ關スル手續ヲ承繼人ニ對シテ續行セムトスルトキハ其ノ旨ヲ當事者及關係人ニ通知スヘシ

第七十七條 口頭審理ヲ爲ストキハ審判長ハ期日ヲ定メ之ヲ當事者ニ通知スヘシ

第七十八條 口頭審理ニ於テハ日本語ヲ用ウヘシ但シ日本語ニ通セサル者ハ通事ヲ用ウルコトヲ得

第七十九條 口頭審理ニ於テハ調書ヲ作り審判長及之ヲ作りタル官吏署名捺印スヘシ

第八十條 特許局ハ當事者ノ雙方又ハ一方ノ同一ナル審判又ハ抗告審判ニ付其ノ審理若ハ審決ヲ併合シ又ハ之ヲ分離スルコトヲ得

第八十一條 審判又ハ抗告審判ノ請求人カ其ノ請求ヲ取下ケタルトキハ特許局長ハ其ノ旨ヲ相手方ニ

通知スヘシ

第八十二條 審決又ハ決定アリタルトキハ特許局長ハ其ノ審決又ハ決定ノ謄本ヲ當事者ニ送達スヘシ

第八十三條 審決ニハ左ノ事項ヲ記載シ審判官之ヲ署名スヘシ

- 一 審判番號又ハ抗告審判番號
- 二 當事者及代理人ノ氏名、住所、居所又ハ營業所
- 三 審判事件又ハ抗告審判事件ノ表示
- 四 當事者ノ申立ノ要領
- 五 審決ノ主文及理由
- 六 審決ノ年月日

第八十四條 大審院ニ於テ審決ヲ破毀シ其ノ事件ヲ特許局ニ差戻シタル場合ニ於テハ抗告審判ノ規定ニ依リ更ニ審判ヲ爲シ再審査ノ査定ニ對スル抗告審判ニ於テ單ニ其ノ査定ヲ破毀シ更ニ審査ニ付スヘシトノ審決アリタルトキハ特許局長ハ審査官ヲシテ更ニ査定ヲ爲サシムヘシ

第八十五條 審判、抗告審判又ハ出訴ノ費用額ノ決定ヲ受ケムトスル者ハ請求書ニ費用計算書其ノ他

必要ノ書類ヲ添附シテ之ヲ特許局長ニ差出スヘシ

第五節 特許證、特許標記及特許料
第八十六條 特許證ハ第七號乃至第十三號ノ書式ニ依リ之ヲ作り特許局長之ニ署名捺印スヘシ

特許證ニハ明細書及必要ノ圖面ヲ添附スヘシ但シ秘密ヲ要スル特許發明ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十六條ノ二 特許權ノ改訂又ハ分割許可ノ無効ノ審決確定シ又ハ判決アリタルトキハ特許局長ハ新ニ特許證ヲ下付スヘシ

第八十七條 特許證ヲ差出スヘキ場合ニ於テ之ヲ差出スコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ證明シ別ニ定ムル手数料ヲ納付シテ特許證ノ差出ノ免除ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ特許局長ハ新ニ特許證ヲ下付スヘシ

第八十八條 特許證カ亡夫又ハ毀損シタルトキハ特許證主又ハ其ノ承繼人ハ其ノ事由ヲ證明シテ特許證ノ再下付ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ毀損ニ因ル場合ニ於テハ請求書ニ其ノ特許證ヲ添附スヘシ
第八十九條 前三條ノ場合ニ於テ特許局長カ新ニ特許證ヲ下付シタルトキ又ハ特許權ノ存續期間ノ延長ヲ許可スヘシトノ決定アリタル場合ニ於テ其ノ査定審決又ハ決定書ノ送達アリタル日ヨリ、權利確定ノ査定又ハ之ニ對スル審決ニ在リテハ其ノ確定ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ特許權ノ分割ヲ許可スヘシトノ査定若ハ審決アリタル場合ニ於テ其ノ分割ニ依リ發生スヘキ特許權ノ當該年分ノ特許料亦同シ

第九十三條 特許料又ハ追加特許料ヲ納付セムトスル者ハ納付書ニ收入印紙ヲ貼付シテ之ヲ特許局長ニ差出スヘシ

第九十四條 特許法第五十八條第二項ノ規定ニ依リ特許料又ハ追加特許料ノ納付ノ猶豫又ハ減免ヲ請求セムトスル者ハ請求書ニ所轄市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ヲ添附シ之ヲ特許局長ニ差出スヘシ
前項ノ證明書ニハ請求人ノ身分、職業、財産並其ノ納付スヘキ稅額ヲ記載シ特許料又ハ追加特許料ヲ納付スヘキ資力ナキコトヲ證明スヘシ

許證ヲ下付シタルトキ又ハ特許權ノ改訂若ハ分割許可登錄アリタルトキハ舊特許證ハ之ヲ無効トス此場合ニ於テハ特許局長ハ官報及特許公報ヲ以テ其ノ旨ヲ公告スヘシ前條但書ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第九十條 特許權ノ改訂若ハ分割ヲ許可スヘシトノ査定若ハ審決アリタルトキ、特許ノ無効又ハ特許權ノ改訂若ハ分割許可無効ノ審決確定シタルトキ若ハ判決アルタルトキ又ハ特許權ハ消滅シタルトキハ特許證主又ハ特許證複本ノ所有者ハ遲滞ナク其特許證及其ノ複本ヲ返納スヘシ

特許法第四十八條ノ規定ニ依リ特許力無効トナリタルトキ又ハ第八十七條若ハ第八十八條ノ場合ニ於テ特許證ヲ差出スコト能ハサル事由消滅シ又ハ特許證ヲ發見シタルトキ亦前項ニ同シ

第九十一條 特許標記「特許」ノ文字及其ノ特許番號ヲ表示スヘシ
特許法第五十六條第四項ノ場合ニ於ケル特許標記ハ前項ニ依ル記載ニ「一部」ノ文字ヲ附加スヘシ
第九十二條 第一年乃至第三年分ノ特許料又ハ追加

附則

第九十五條 本則ハ特許法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第九十六條 第九十一條ノ規定ハ本則施行前ニ附シタル特許標記ニ之ヲ適用セス
第九十七條 本則施行前審決又ハ判決ヲ爲シタル審判又ハ出訴ニ關スル費用ノ負擔及費用額ノ決定ニ關シテハ本則施行後仍從前ノ例ニ依ル

第六章 意匠法

明治四二年四月法律第二四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル意匠法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

意匠法

第一條 物品ニ應用スヘキ形狀、模様、色彩又ハ其ノ結合ニ係リ新規ナル工業的意匠ヲ案出シタル者ハ本法ニ依リ意匠ノ登錄ヲ受クルコトヲ得
第二條 職務上又ハ契約上爲シタル意匠ニ付登錄ヲ受クルノ權利ハ勤務規程又ハ契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ職務ヲ執行セシムル者又ハ使

用者ニ屬ス

職務ノ執行又ハ契約ノ履行ニ依ル勤務中公務員又ハ被用者ノ爲シタル考案ニシテ職務上又ハ契約上爲シタルモノニ非サル意匠ニ付案出前豫メ登録ヲ受ケルノ權利又ハ意匠權ヲ讓渡セシムルコトヲ定メタル勤務規程又ハ契約ノ條項ハ之ヲ無効トス本條ニ於テ公務員ト稱スルハ刑法第七條第一項ノ公務員ヲ謂フ

第三條 本法ニ於テ新規ト稱スルハ左ノ各號ニ該當セサルモノヲ謂フ

- 一 登録出願前帝國内ニ於テ公然知ラレ若ハ公然用キラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ
 - 二 登録出願前容易ニ應用スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ帝國内ニ頒布セラレタル刊行物品ニ記載セラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ
- 同一物品ニ應用スヘキ意匠ニシテ自己ノ登録意匠ノミニ類似スルモノハ新規ト看做ス

第四條 左ニ掲グル意匠ニ付テハ之ヲ登録セス

- 一 菊花御紋章ト同一又ハ類似ノ形狀又ハ模様ヲ有スルモノ

第八條 意匠權ハ登録ニ依リ發生ス

意匠權者ハ登録出願ノ際指定シタル物品ニ付業トシテ其ノ意匠ヲ應用シ又ハ之ヲ應用シタル物品ヲ販賣若ハ擴布スルノ權利ヲ專有ス

同一物品ニ應用スヘキ互ニ相類似スル意匠ノ意匠權ハ最先ニ發生シタル意匠權ト合體スル者トス同一又ハ類似ノ意匠ニ關シテハ意匠權ハ其ノ出願ニ係ル實用新案權ニ依リ制限ヲ受ケルモノトス

第九條 意匠權ノ存續期間ハ十年トス

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ原權利ノ範圍内ニ於テ登録意匠ヲ實施スルノ權利ヲ有ス

- 一 同一又ハ類似ノ意匠ニ對スル二以上ノ登録中其ノ一カ無効ト爲リタル場合ニ於テ善意ナル原意匠權者
 - 二 前號ノ原意匠權ニ付善意ニ實施ノ權利ヲ得テ登録ヲ受ケタル者
- 特許法第三十六條及第三十七條ノ規定ハ前項ノ權利ニ之ヲ準用ス
- 第十一條 意匠權ハ其ノ意匠ヲ應用スル物品ニ依リ分割シテ之ヲ移轉スルコトヲ得

二 秩序若ハ風俗ヲ紊リ又ハ世人ヲ欺瞞スルノ虞アルモノ

第五條 同一物品ニ應用スヘキ同一又ハ類似ノ意匠ニ付各別ニ登録ヲ受ケルノ權利ヲ有スル者二人以上アルトキハ最先ニ出願ヲ爲シタルモノニ限り登録ス其ノ同日ノ出願ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ之ヲ登録セス

第六條 意匠ノ登録ヲ受ケルノ權利ハ之ヲ移轉スルコトヲ得但シ擔保ニ供スルコトヲ得ス

登録ヲ受ケルノ權利ノ承繼ハ登録出願前ニ在リテハ登録ヲ出願シ登録出願後ニ在リテハ出願人ノ名義變更ヲ届出ツルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス但シ同日ノ出願又ハ届出ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七條 實用新案ノ登録ノ出願ヲ爲シ登録スヘカラストノ査定ヲ受ケタル者其ノ最初ノ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ實用新案ニ係ル意匠ニ付登録ヲ出願シタルトキハ實用新案ノ登録ヲ出願シタル日ニ於テ出願シタルモノト看做ス

第十二條 意匠ノ登録カ第一條、第二條、第四條、

第五條、第六條第二項又ハ第二十三條ノ規定ニ反シタルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ登録カ登録ヲ受ケルノ權利ヲ冒認シタル者ニ對シ爲シタルモノナルトキ亦同シ

第十三條 登録スヘシト査定アリタルトキハ意匠原簿ニ登録シ意匠登録證ヲ下付ス

第十四條 登録スヘシト査定ヲ受ケタル者又ハ意匠登録證主ハ意匠料トシテ每件左ノ金額ヲ納付スヘシ

- 一 第一年乃至第三年分 登録ヲ受ケルトキ一時 金三圓
- 二 第四年乃至第十年 每件 金二圓

同一物品ニ應用スヘキ互ニ相類似スル意匠ニ付テハ其ノ内ノ一ハ前項ノ意匠料ヲ、其ノ他ハ各意匠ニ付一時金一圓ヲ納付スヘシ

第十五條 意匠ノ登録ヲ出願スル者ハ各意匠ニ付命令ノ定ムル類別内ニ於テ其ノ意匠ヲ應用スヘキ物品ヲ指定スヘシ

第十六條 意匠登録ノ出願ヲ爲ス者ハ出願中及登録後三年以内其ノ意匠ヲ祕密ニセムコトヲ請求スルコトヲ得

第十七條 意匠登録ノ出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ査定セシム

第十八條 審査官ハ第四條、第五條、第六條第二項及第二十三條ノ規定ニ依リ出願ニ係ル意匠カ登録スヘキモノナリヤ否ニ付査定スヘシ但シ第一條又ハ第二條ノ規定ニ該當セサルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ理由トシテ登録拒絶ノ査定ヲ爲スヘシ

第十九條 登録拒絶ノ査定ニ不服アル者ハ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ不服理由書ヲ差出シ再審査ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ前審査ニ干與セル審査官ヲシテ更ニ之ヲ査定セシム
前條但書ニ依ル査定ニ不服アル者再審査ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ審査官ハ其ノ理由ニ付テモ亦審査スヘシ

第二十條 審判ハ左ニ掲クル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得

一條ノ規定ハ意匠ニ關シ之ヲ準用ス

第二十三條 外國人ニシテ帝國内ニ住所又ハ營業所ヲ有セサル者ハ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ規定アル場合ノ外意匠權又ハ意匠ニ關スル權利ヲ享有スルコトヲ得ス

意匠ニ關シ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第二十四條 他人ノ登録意匠ト同一若ハ類似ノ意匠ヲ業トシテ同一ノ物品ニ應用シタル者又ハ其ノ物品ヲ業トシテ販賣若ハ擴布シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

他人ノ登録意匠ト同一若ハ類似ノ意匠ヲ應用シタル同一物品ヲ業トシテ輸入シタル者又ハ其ノ物品ヲ業トシテ販賣若ハ擴布シタル者ハ罰前項ニ同シ前二項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
一 詐偽ノ所爲ヲ以テ意匠ノ登録ヲ受ケタル者
二 登録意匠ヲ應用セサル物品又ハ其ノ容器、包裝等ニ意匠登録ノ標記ヲ付シ若ハ之ニ紛ハ

一 第十二條ノ規定ニ依ル登録ノ無効
二 意匠權ノ範圍ノ確認

審判ノ請求ハ審査官又ハ利害關係人ニ限り之ヲ爲スコトヲ得但シ審査官ハ前項第二號ノ審判及第二條、第五條又ハ第六條第二項ノ規定ニ反ストノ理由ニ依ル前項第一號ノ審判ヲ請求スル事ヲ得ス
審査官ノ請求ニ依ル審判ニ關シテハ其ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第二十一條 審判ノ審決ニ不服アル者ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得

第二十二條 特許法第八條、第十二條乃至第十五條第十六條第一項、第十七條乃至第二十五條、第二十九條、第三十二條、第三十三條、第四十條、第四十一條、第四十三條、第四十五條、第四十九條第二項、第五十條、第五十一條、第五十三條、第五十六條、第五十八條第一項、第五十九條乃至第六十一條、第六十六條乃至第六十八條、第七十條乃至第七十九條、第八十二條、第八十三條第一項第八十四條、第八十五條及第八十七條乃至第九十

シキ表示ヲ爲シタル者又ハ其ノ物品ヲ販賣若ハ擴布シタル者

三 登録意匠ヲ應用セサル物品ヲ販賣又ハ擴布スル爲廣告、看板、引札等ニ其ノ物品カ登録意匠ヲ應用シタルモノナルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

第二十六條 第二十四條ノ犯罪ニ因リ沒收スルコトヲ得ヘキ物ニ付判決言渡前被害者ヨリ請求アリタルトキハ之ヲ相當ノ代價ニ見積リ被害者ニ交付スル言渡ヲ爲スヘシ

損害ノ額カ交付ヲ受ケタル物ノ見積代價ニ超過スルトキハ被害者ハ其ノ差額ニ限り賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事ニシテ特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若クハ官廳ニ對シ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

第二十八條 特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 特許辨理士ニ非スシテ意匠ニ關スル代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條ノ規定ハ本法施行前無効ト爲リタル意匠ノ登録ニ關シテハ之ヲ適用セズ

特許法第九十九條、第一百二條第二項、第一百五條及第一百六條ノ規定ハ意匠ニ關シ之ヲ準用ス

●同 施行細則

明治四十二年一月農令第四三號 改正 四五五號附則

意匠法施行細則左ノ通改正ス

意匠法施行細則

第一條 意匠ノ登録ヲ受ケムトスル者ハ一意匠ニ付

願書ニ添附スヘシ

第五條 祕密ニスヘキ意匠ハ意匠權者ノ承諾ヲ得タル者若ハ裁判所ノ請求アリタル場合又ハ其ノ意匠ニ關スル審査、再審査、審判若ハ抗告審判ニ付利害關係ヲ有スル者ヨリ請求アリタル場合ノ外之ヲ意匠者以外ノ者ニ示スコトヲ得ス

第六條 祕密ニスヘキ登録意匠ニ付利害關係人カ登録標記ヲ附シタル意匠又ハ之ヲ認識スルニ足ルモノヲ差出シ其ノ登録ノ存否、登録番號、登録ノ年月日、意匠ヲ應用スヘキ物品又ハ意匠權者ノ氏名住所、居所若ハ營業所ノ通知ヲ受ケムコトヲ請求スルトキハ特許局長ハ之ヲ許可スルコトヲ得

第七條 意匠法第七條ノ規定ニ依ル登録願書ニハ實用新案ノ登録ノ出願ニ對スル最初ノ査定ノ謄本ヲ添付スヘシ

第八條 特許法施行細則第五十三條ノ規定ハ意匠法第五條及第六條第二項但書ノ規定ニ依リ關係人ノ協議ヲ必要トスル場合ニ之ヲ準用ス

第九條 登録出願ニ係ル意匠ヲ應用スヘキ物品カ第十三條ニ定メタル二以上ノ類似ニ互ルニ依リ願書

第十三條ニ定メタル類別毎ニ一通ノ願書ヲ作り之ヲ特許局ニ差出スヘシ

願書ニハ圖面三通ヲ添付スヘシ

第二條 雛形又ハ見本カ貼付シ得ヘキモノナルトキハ之ヲ紙面ニ貼付シタルモノ三箇ヲ差出シ圖面ノ差出ニ代ユルコトヲ得寫眞ヲ紙面ニ貼付シタルモノ三箇ヲ差出ストキ亦同シ

前項ニ依リ差出ス寫眞ニハ臺紙ヲ附スヘカラス

第三條 同一物品ニ應用スヘキ自己ノ登録意匠又ハ出願中ノ意匠ニ類似スル意匠ニ付登録ヲ受ケムトスル者ハ類似意匠トシ登録ヲ出願スヘシ

第三條ノ二 實用新案ノ登録ヲ出願シタル者ハ其ノ出願ニ對シ最初ノ査定ヲ受ケサル場合ニ限り其ノ出願ヲ意匠登録願ニ變更ノ請求ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前出願ヲ訂正スヘシ

前項ニ依リ變更シタル意匠登録願ハ最初ノ出願ノ日ニ於テ爲シタルモノト看做ス

第四條 意匠法第十六條ノ規定ニ依リ其ノ意匠ヲ祕密ニセムコトヲ請求スル者ハ圖面其ノ他其ノ意匠ヲ表示スル物件ヲ密封シ「祕密意匠」ト朱書シ之ヲ

訂正セムトスルトキハ他類ニ屬スル物品ニ付前願書ト同一ノ願書ヲ差出シ同時ニ前出願ヲ訂正スヘシ

第十條 前三條ノ規定ニ依リテ出願シタル意匠ニ付登録スヘシトノ査定ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ類似意匠ノ登録番號又ハ願書番號ヲ査定ノ主文中ニ記載スヘシ

第十一條 登録證ハ第四號乃至第七號ノ書式ニ依リ之ヲ作り特許局長之ニ署名捺印スヘシ

第十二條 意匠登録ノ標記ハ「登録意匠」ノ文字及其ノ登録番號ヲ表示スヘシ

意匠法第二十二條ニ基ク特許法第五十六條第四項ノ場合ニ於ケル意匠登録ノ標記ハ前項ニ依リ記載ニ「一部」ノ文字ヲ附加スヘシ

第十三條 出願人ハ左ノ類別ニ從ヒ意匠ヲ應用セムトスル物品ヲ指定スヘシ

第一類 被服、被服地
衣服、袴、帶、襟、肩掛、領卷等
第二類 頭飾、服飾、裝身具

櫛、簪、根掛、胸飾、領飾、腕環、指環、指環、鈕、襟針、徽章等

第三類 時計及其ノ附屬品

袂時計、置時計、掛時計、鎖、下ケ物等

第四類 傘、杖、鞭

第五類 携帶品

紙入、貨幣入、名刺入、煙草入、煙管、煙管筒、手提靴等

第六類 家具、飲食器、室内裝飾品、商品ノ容器包裝類

棚、箆筒、机、椅子、卓子、寢臺、額、屏風、衝立、暖爐、火鉢、花瓶、膳、椀、皿、鉢、杯、菓子器、茶器、珈琲具、壺、罐等

第七類 敷物

緞通、油團、花莖等

第八類 文房具

硯、筆筒、筆架、硯屏、文鎮、墨臺、水滴、印材、肉池、文臺、硯箱、筆、墨、「インキ」壺、「ペン」軸等

第九類 燈器

第十九類 他類ニ屬セサル漆器、假漆器、油漆

塗器ノ類

第二十類 他類ニ屬セサル金屬又ハ石材ノ製品

第二十一類 他類ニ屬セサル木、竹、甲、角、

牙、介類ノ製品

第二十二類 他類ニ屬セサル物品

第十四條 第一年乃至第三年分ノ意匠料又ハ類似意匠ノ意匠料ハ登録スヘシトノ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ

第十五條 特許法施行細則第一條乃至第三十九條、

第四十四條、第四十五條、第四十八條乃至第五十二條、第五十七條、第六十條、第六十七條乃至第六十八條 第七十條乃至第八十五條、第八十七條乃至第九十條及第九十三條ノ規定ハ意匠ニ關シ之ヲ準用ス

附 則

第十六條 本則ハ意匠法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條 第十二條ノ規定ハ本則施行前ニ附シタル

意匠登録ノ標記ニ之ヲ適用セス

第十八條 特許法施行細則第九十七條ノ規定ハ意匠

燭臺、手燭、燈籠、洋燈、瓦斯燈、電燈、提燈、燈蓋、火屋等

第十類 建築物ノ附屬品

障子、襖、屏、欄間、欄干、引手、釘隠、柵等 第十一類 他類ニ屬セサル織物、編物、組物、及其ノ製品

袱紗、手巾、卓被、「レース」羽織紐、帶締紐、

時計紐、飾紐等

第十二類 冠物

帽子、頭巾、笠等

第十三類 履物及其ノ附屬品

下駄、草履、靴、鼻緒、爪掛等

第十四類 扇、團扇

第十五類 樂器、玩具、遊戲具

第十六類 菓子及其ノ他ノ食品

第十七類 紙、皮革及他類ニ屬セサル其ノ製品」

紋紙、紋革、擬草紙、襖紙、壁紙、表紙、色

紙、短冊、書簡箋、書筒筒等

第十八類 他類ニ屬セサル陶器、磁器、土器、

玻璃器、七寶製品、煉瓦、瓦

ニ關シ之ヲ準用ス

第十九條 本則施行前登録シタル意匠又ハ登録スヘシトノ査定アリタル意匠ヲ應用スヘキ物品ノ類別ハ本則施行後仍從前ノ例ニ依ル

第七章 實用新案法

明治四二年四月法律第二六號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル實用新案法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

實用新案法

第一條 物品ニ關シ其ノ形狀、構造又ハ組合ハセニ係リ實用アル新規ノ工業的考案ヲ爲シタル者ハ本法ニ依リ實用新案ノ登録ヲ受クルコトヲ得

第二條 職務上又ハ契約上爲シタル實用新案ニ付登録ヲ受クルノ權利ハ勤務規程又ハ契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外其ノ職務ヲ執行セシムル者又ハ使用者ニ屬ス

職務ノ執行又ハ契約ノ履行ニ依ル勤務中公務員又ハ被用者ノ爲シタル考案ニシテ職務上又ハ契約上

爲シタルモノニ非サル實用新案ニ付案出前豫メ登録ヲ受クルノ權利又ハ實用新案權ヲ讓渡セシムルコトヲ定メタル勤務規程又ハ契約ノ條項ハ之ヲ無効トス

本條ニ於テ公務員ト稱スルハ刑法第七號第一項ノ公務員ヲ謂フ

第三條 本法ニ於テ新規ト稱スルハ左ノ各號ニ該當セサルモノヲ謂フ

一 登録出願前同一又ハ類似ノ物品ニ關シ帝國内ニ於テ公然知ラレ若ハ公然用キラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

二 登録出願前同一又ハ類似ノ物品ニ關シ容易ニ應用スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ帝國内ニ頒布セラレタル刊行物ニ記載セラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

第四條 左ニ掲グル實用新案ニ於テハ之ヲ登録セス

一 菊花御紋章ト同一又ハ類似ノ形狀ヲ有スルモノ

二 秩序若ハ風俗ヲ紊リ又ハ衛生ヲ害スルノ虞アルモノ

實用新案權者ハ其ノ登録ヲ受ケタル物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有ス同一又ハ類似ノ考案ニ關シテハ實用新案權ハ其ノ出願前ノ出願ニ係ル特許權又ハ意匠權ニ依リ制限ヲ受クルモノトス

第九條 實用新案權ノ存續期間ハ三年トス

前項ノ期間ハ三年間之ヲ延長スルコトヲ得

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ原權利ノ範圍内ニ於テ登録實用新案ヲ實施スルノ權利ヲ有ス

一 同一又ハ類似ノ實用新案ニ對スルニ以上ノ登録中其ノ一カ無効ト爲リタル場合ニ於テ善意ナル原實用新案權者

二 前號ノ原實用新案權ニ付善意ニ實施ノ權利ヲ得テ登録ヲ受ケタル者

特許法第三十六條及第三十七條ノ規定ハ前項ノ權利ニ之ヲ準用ス

第十一條 實用新案ノ登録カ第一條、第二條、第四條、第五條、第六條第二項又ハ第二十一條ノ規定ニ反シタルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ登録カ登録ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ニ對シ

第五條 同一又ハ類似ノ實用新案ニ付各別ニ登録ヲ受クルノ權利ヲ有スル者二人以上アルトキハ最先ニ出願ヲ爲シタルモノニ限り登録ス其ノ同日ノ出願ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ之ヲ登録セス

第六條 實用新案ノ登録ヲ受クルノ權利ハ之ヲ移轉スルコトヲ得但シ擔保ニ供スルコトヲ得ス

登録ヲ受クルノ權利ノ承繼ハ登録出願前ニ在リテハ登録ヲ出願シ登録出願後ニ在リテハ出願人ノ名義變更ヲ届出ツルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス但シ同日ノ出願又ハ届出ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七條 發明特許又ハ意匠登録ノ出願ヲ爲シ特許又ハ登録スヘカラストノ査定ヲ受ケタル者其ノ最初ノ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ發明又ハ意匠ニ係ル實用新案ニ付登録ヲ出願シタルトキハ發明特許又ハ意匠登録ヲ出願シタル日ニ於テ出願シタルモノト看做ス

第八條 實用新案權ハ登録ニ依リ發生ス

爲シタルモノナルトキ亦同シ

第十二條 登録スヘシトノ査定アリタルトキ又ハ實用新案權存續期間延長ノ請求アリタルトキハ實用新案原簿ニ登録シ實用新案登録證ヲ下附ス

第十三條 特許局ハ實用新案公報ヲ發行シ登録實用新案及之ニ關スル必要ナル事項ヲ記載スヘシ但シ秘密ヲ要スル實用新案ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 登録スヘシトノ査定ヲ受ケタル者ハ其ノ登録ヲ受クル際每件登録料金十五圓ヲ納付スヘシ實用新案權存續期間ノ延長ヲ請求スル者ハ每件登録料金三十圓ヲ納付スヘシ

第十五條 實用新案登録ノ出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ査定セシム

第十六條 審査官ハ第四條、第五條、第六條、第二項及第二十一條ノ規定ニ依リ出願ニ係ル實用新案カ登録スヘキモノナルヤ否ニ付査定スヘシ但シ第一條又ハ第二條ノ規定ニ該當セサルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ理由トシテ登録拒絶ノ査定ヲ爲スヘシ

第十七條 登録拒絶ノ査定ニ不服アル者ハ査定ノ送

達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ不服理由書ヲ差
出シ再審査ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ請求アリタルトキハ前審査ニ干與セサル審
査官ヲシテ更ニ之ヲ査定セシム
前條但書ニ依ル査定ニ不服アル者再審査ノ請求ヲ
爲シタル場合ニ於テハ審査官ハ其ノ理由ニ付テモ
亦審査スヘシ
第十八條 審判ハ左ニ掲グル事項ニ付之ヲ請求スル
コトヲ得

- 一 第十一條ノ規定ニ依ル登録ノ無効
- 二 實用新案權ノ範圍ノ確認

審判ノ請求ハ審査官又ハ利害關係人ニ限り之ヲ爲
スコトヲ得但シ審査官ハ前項第二號ノ審判及第二
條、第五條又ハ第六條第二項ノ規定ニ反ストノ理
由ニ依ル前項第一號ノ審判ヲ請求スル事ヲ得ス
審査官ノ請求ニ依ル審判ニ關シテハ其ノ手續ヲ省
略スルコトヲ得

第十九條 審判ノ審決ニ不服アル者ハ審決ノ送達ヲ
受ケタル日ヨリ六十日以内ニ抗告審判ヲ請求スル
コトヲ得

實用新案ノ登録ヲ受ケタル物品ト同一又ハ類似ノ
モノヲ業トシテ輸入シタル者又ハ其ノ物品ヲ業ト
シテ販賣、擴布若ハ使用シタル者ハ前項ニ同シ
前二項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下
ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 詐偽ノ所爲ヲ以テ實用新案ノ登録ヲ受ケタ
ル者

二 實用新案ノ登録ヲ受ケサル物品又ハ其ノ容
器、包装等ニ實用新案登録ノ標記ヲ付シ若ハ
之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ其ノ物品
ヲ販賣若ハ擴布シタル者

三 實用新案ノ登録ヲ受ケサル物品ヲ販賣又ハ
擴布スル爲廣告、看板、引札等ニ其ノ物品カ
實用新案ノ登録ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ
紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

第二十四條 第二十二條ノ犯罪ニ因リ沒收スルコト
ヲ得ヘキ物ニ付判決言渡前被害者ヨリ請求アリタ
ルトキハ之ヲ相當ノ代價ニ見積リ被害者ニ交付ス
ル官渡ヲ爲スヘシ

第二十條 特許法第八條、第十一條第一項及第三項、
第十二條乃至第十五條、第十六條第一項、第十七
條乃至第二十六條、第二十九條、第三十二條、第
三十三條、第四十條、第四十一條、第四十三條乃
至第四十六條、第四十九條第二項、第五十條、第
五十一條、第五十三條、第五十六條、第五十七條
第五項、第六十條、第六十六條乃至第六十八條、
第七十條乃至第七十九條、第八十二條、第八十三
條第一項及第八十四條乃至第九十一條ノ規定ハ實
用新案ニ關シ之ヲ準用ス

第二十一條 外國人ニシテ帝國內ニ住所又ハ營業所
ヲ有セサル者ハ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ規定
アル場合ノ外實用新案權又ハ實用新案ニ關スル權
利ヲ享有スルコトヲ得ス

實用新案ニ關シ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段
ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第二十二條 實用新案ノ登録ヲ受ケタル物品ヲ業ト
シテ偽造、模造シタル者又ハ偽造品、模造品ヲ業ト
シテ販賣、擴布若ハ使用シタル者ハ三年以下ノ懲
役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

損害ノ額カ交付ヲ受ケタル物ノ見積代價ニ超過ス
ルトキハ被害者ハ其ノ差額ニ限り賠償ノ請求ヲ爲
スコトヲ得

第二十五條 法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人
又ハ通事ニシテ特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁
判所若ハ官廳ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ
三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラ
サル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ輕減又ハ免除ス
ルコトヲ得

第二十六條 特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシ
テ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セ
ス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ四十圓以下ノ罰
金ニ處ス

第二十七條 特許辨理士ニ非スシテ實用新案ニ關ス
ル代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三百
圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條ノ規定ハ本法施行前無効ト爲リタル實用新案

ノ登録ニ關シテハ之ヲ適用セス
特許法第九十九條、第一百二條第二項、第一百五條及第
百六條ノ規定ハ實用新案ニ關シ之ヲ準用ス

●同 施行規則

明治四二年一〇月農令第四五號
改正 四五年第七號

實用新案法施行規則左ノ通改正ス

實用新案法施行規則

第一條 實用新案ノ登録ヲ受ケムトスル者ハ一實用
新案ニ付一物品毎ニ一通ノ願書ヲ作り之ヲ特許局
ニ差出スヘシ

願書ニハ圖面ニ通テ添附スヘシ

第二條 圖面ニハ實用新案ノ説明ニ必要ナル部分ヲ
示シ之ニ其ノ説明及登録請求ノ範圍ヲ記載スヘシ
但シ其ノ説明及登録請求ノ範圍ハ之ヲ別紙ニ記載
シ圖面ノ一部トシテ差出スコトヲ得

第三條 實用新案法第七條ノ規定ニ依ル登録願書ニ
ハ發明特許又ハ意匠登録ノ出願ニ對スル最初ノ查
定ノ謄本ヲ添附スヘシ

第八條 登録證ハ第五號乃至第八號ノ書式ニ依リ之
ヲ作り特許局長之ニ署名捺印スヘシ

登録證ニハ圖面ヲ添附スヘシ但シ軍事上祕密ヲ要
スル實用新案ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條 實用新案登録ノ標記ハ「登録新案」ノ文字及
其ノ登録番號ヲ表示スヘシ

實用新案法第二十條ニ基ク特許法第五十六條第四
項ノ場合ニ於ケル實用新案登録ノ標記ハ前項ニ依
ル記載ニ「一部」ノ文字ヲ附加スヘシ

第十條 登録料ハ登録スヘシトノ査定ノ送達ヲ受ケ
タル日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ

第十一條 特許法施行細則第一條乃至第四十一條、
第四十五條、第四十八條乃至第五十二條、第五十五
條乃至第五十七條、第六十條、第六十七條乃至第
六十八條、第七十條乃至第八十五條、第八十七條
乃至第九十條及第九十三條ノ規定ハ實用新案ニ關
シ之ヲ準用ス

附則

第十二條 本則ハ實用新案法施行ノ日ヨリ之ヲ施行
ス

第四條 審査又ハ再審査ニ關シ必要アルトキハ特許
局長ハ出願人又ハ請求人ニ對シ解説書ノ提出ヲ命
スルコトヲ得

第五條 特許法施行細則第五十三條ノ規定ハ實用新
案法第五條及第六條第二項但書ノ規定ニ依リ關係
人ノ協議ヲ必要トスル場合ニ之ヲ準用ス

第六條 發明特許又ハ意匠登録ヲ出願シタル者ハ其
ノ出願ニ對シ最初ノ査定ヲ受ケサル場合ニ限り其
ノ出願ヲ實用新案登録願ニ變更ノ請求ヲ爲スコト
ヲ得此ノ場合ニ於テハ前出願ヲ訂正スヘシ

前項ニ依リ變更シタル實用新案登録願ハ最初ノ出
願ノ日ニ於テ爲シタルモノト看做ス

第七條 實用新案權存續期間延長ノ請求ヲ爲サムト
スル者ハ其ノ存續期間滿了ノ日ヨリ一月前ニ請求
書ニ登録料ニ相當スル收入印紙ヲ貼附シ登録證ヲ
添附シ之ヲ特許局ニ差出スヘシ

前項ノ期限後ト雖モ存續期間滿了以前ニ在リテハ
別ニ定ムル手数料ヲ納付シ前項ノ請求書ヲ差出ス
コトヲ得

第十三條 第九條ノ規定ハ本則施行前ニ附シタル實
用新案登録ノ標記ニ之ヲ適用セス

第十四條 特許法施行細則第九十七條ノ規定ハ實用
新案ニ關シ之ヲ準用ス

第八章 商標法

明治四二年四月法律第二五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商標法改正法律ヲ裁可シ
茲ニ之ヲ公布セシム

商標法

第一條 自己ノ生産、製造、加工、選擇、證明、取
扱又ハ販賣ノ營業ニ係ル商品ナルコトヲ表彰スル
爲メ商標ヲ專用セムトスル者ハ本法ニ依リ商標ノ
登録ヲ受クルコトヲ得

登録ヲ受クルコトヲ得
又ハ其結合ニシテ特別顯著ナルモノナルコトヲ
要ス

商標ハ之ニ施スヘキ色ヲ限定シテ登録ヲ受クルコ
トヲ得

第二條

- 左ニ掲クル商標ニ付テハ之ヲ登録セズ
- 一 菊花御紋章ト同一又ハ類似ノ圖形ヲ有スルモノ
- 二 國旗、軍旗、勳章、褒章、記章若ハ外國ノ國旗ト同一又ハ類似ノモノ
- 三 秩序若ハ風俗ヲ紊リ又ハ世人ヲ欺瞞スルノ虞アルモノ
- 四 同一商品ニ慣用スル標章ト同一又ハ類似ノモノ
- 五 世人ノ周知スル他人ノ標章ト同一又ハ類似ニシテ同一商品ニ使用スルモノ
- 六 白地ニ赤十字ノ記章又ハ赤十字若ハ「ジエネヴァ」十字ノ稱號若ハ文字ト同一又ハ類似ノモノ
- 七 政府、道、府縣若ハ政府ノ認可ヲ得タルモノノ開設スル博覽會、共進會又ハ外國ニ於ケル官設ノ博覽會若ハ官許ノ萬國博覽會ノ賞牌賞狀若ハ褒狀ト同一又ハ類似ノ圖形ヲ有スルモノ但シ其ノ賞牌、賞狀又ハ褒狀ヲ受領シタル者カ其ノ商標ノ一部トシテ之ヲ使用セムトスルモノ

- スルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 八 他人ノ肖像、氏名、商號又ハ法人若ハ組合ノ名稱ヲ有スルモノ但シ其ノ承諾ヲ得タルモノハ此ノ限ニアラス
- 九 登録失効後一年ヲ經過セサル他人ノ商標ト同一又ハ類似ノモノ但シ其ノ登録失効前一年以上使用セサリシ商標ト同一又ハ類似ノモノハ此ノ限ニ在ラス

第三條

同一商品ニ使用スヘキ同一又ハ類似ノ商標ニ付各別ニ登録ヲ受クルノ權利ヲ有スル者二人以上アルトキハ最先ニ出願ヲ爲シタルモノニ限り登録ス其ノ同日ノ出願ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ之ヲ登録セズ

明治三十二年七月一日前ヨリ同一商品ニ付同一若ハ類似ノ商標ヲ善意ニ使用シタル者其ノ商標ニ付登録ヲ出願シタル場合ニ於テハ前條第五號及前項ノ規定ニ拘ラス其ノ商標ヲ登録スルコトヲ得

同一商品ニ使用スヘキ自己ノ商標ニシテ互ニ相類似スルモノハ聯合商標トシテ出願シタル場合ニ限り之ヲ登録ス

第四條

商標ノ登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限り之ヲ移轉スルコトヲ得

前項ノ權利ノ承繼ハ出願人ノ名義變更ヲ届出ツルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス但シ同日ノ届出ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五條

商標權ハ登録ニ依リ發生ス

商標權者ハ登録出願ノ際指定シタル物品ニ付其ノ商標ヲ専用スルノ權利ヲ有ス

第六條

商標權ノ效力ハ普通ニ使用セラルル方法ヲ以テ自己ノ氏名、商號、法人若ハ組合ノ名稱ヲ表示シ又ハ其ノ商品ノ普通名稱、產地、品位、品質效能、用途、製法、時期、數量、形狀若ハ價格ヲ表示スルモノニ及ハス但シ商標登録後惡意ヲ以テ同一ノ氏名、商號、法人若ハ組合ノ名稱ヲ使用シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條

商標權ノ存續期間ハ二十年トス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

外國ノ登録商標トシテ登録ヲ受ケタルモノハ其ノ

本國ニ於ケル商標權ト共ニ消滅ス但シ其ノ存續期間ハ二十年ヲ超ユルコトヲ得ス

第八條

商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限り之ヲ移轉スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ商標權ハ其ノ商標ヲ使用スル商品ニ依リ分割シテ之ヲ移轉スルコトヲ得

聯合商標ノ商標權ハ分離シテ移轉スルコトヲ得ス

第九條

左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ特許局長ハ職權ヲ以テ又ハ利害關係人ノ請求ニ依リ商標ノ登録ヲ取消スコトヲ得

- 一 商標權者其ノ登録商標ニ世人ヲ欺瞞スヘキ附記又ハ變更ヲ爲シテ之ヲ使用シタルトキ
- 二 商標權者正當ノ事故ナクシテ帝國内ニ於テ登録後其ノ商標ヲ使用セスシテ一年ヲ經過シ又ハ其ノ使用ヲ中止シテ三年ヲ經過シタルトキ但シ聯合商標ニ付テハ其ノ一ヲ使用シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 三 商標權ノ移轉アリタル場合ニ於テ其ノ相續ニ依ルモノヲ除ク外一年以内ニ商標權移轉ノ登録ヲ請求セサルトキ

外國ノ登録商標トシテ登録ヲ受ケタルモノニ付テハ前項第二號ノ規定ヲ適用セス

第一項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第十條 商標權者其ノ營業ヲ廢止シタルトキハ商標權ハ消滅スルモノトス

第十一條 商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録カ第一條乃至第三條、第四條第二項又ハ第二十二條ノ規定ニ反シタルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

第十二條 登録スヘシトノ査定又ハ審決アリタルトキハ之ヲ商標原簿ニ登録シ商標登録ヲ下付ス

第十三條 特許局ハ商標公報ヲ發行シ登録商標及之ニ關スル必要ナル事項ヲ記載指定スヘシ

第十四條 商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録ヲ受ケル者ハ其ノ登録ヲ受ケル際每件商標料金二十圓ヲ、聯合商標ニ在リテハ每件金十圓ヲ納付スヘシ

第十五條 商標ノ登録ヲ出願スル者ハ各商標ニ付命令ノ定ムル類別内ニ於テ其ノ商標ヲ使用スヘキ商

判ヲ請求スルコトヲ得ス

第十九條 審判ノ審決又ハ再審査ノ査定ニ不服アル者ハ審決又ハ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得

第二十條 營利ヲ目的トセサル業務ニ係ル商品ニ使用スル商標ヲ專用セムトスルトキハ本法ニ依リ登録ヲ受ケルコトヲ得

前項ノ商標ニ付テハ商標ニ關スル規定ヲ準用ス

第二十一條 特許法第八條、第十二條乃至第十五條第十六條第一項、第十七條乃至第三十五條、第三十三條、第四十九條第二項、第五十條、第五十三條、第六十條、第六十六條乃至第六十八條、第七十條乃至第七十九條、第八十二條、第八十三條第一項第二項、第八十四條、第八十五條及第八十七條乃至第九十一條ノ規定ハ商標ニ關シ之ヲ準用ス

第二十二條 外國人ニシテ帝國内ニ住所又ハ營業所ヲ有セサル者ハ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ規定アル場合ノ外商標權又ハ之ニ關スル權利ヲ享有スルコトヲ得ス

商標ニ關シ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定

品ヲ指定スヘシ

第十六條 商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録ノ出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ査定セシム

第十七條 登録スヘカラストノ査定ニ不服アル者ハ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ不服理由書ヲ差出シ更ニ審査ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ前審査ニ干與セサル審査官ヲシテ更ニ査定セシム

第十八條 審判ハ左ニ掲グル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得

一 第十一條ノ規定ニ依ル登録ノ無効

二 商標權ノ範圍ノ確認

審判ノ請求ハ審査官又ハ利害關係人ニ限り之ヲ爲スコトヲ得但シ審査官ハ前項第二號ノ審判及第二條第八號若ハ第九號、第三條又ハ第四條第二項ノ規定ニ反ストノ理由ニ依ル前項第一號ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

登録商標カ第二條第八號若ハ第九號、第三條又ハ第四條第二項ノ規定ニ反シタル場合ニ於テ商標公報ニ掲載シタル日ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ審

定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第二十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 他人ノ登録商標若ハ之ヲ付シタル容器、包裝等ヲ同一商品ニ使用シタル者又ハ其ノ商品ヲ交付販賣シ若ハ交付、販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持スル者

二 他人ノ登録商標若ハ之ヲ付シタル容器、包裝等ヲ同一商品ニ使用セシムルノ目的ヲ以テ交付、販賣シ又ハ交付、販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持スル者

三 同一商品ニ使用シ又ハ使用セシムルノ目的ヲ以テ他人ノ登録商標ヲ偽造又ハ模造シタル者

四 同一商品ニ使用セシムルノ目的ヲ以テ偽造若ハ模造ノ商標ヲ交付、販賣シ又ハ之ヲ同一商品ニ使用シタル者

五 偽造者ハ模造ノ商標ヲ使用シタル同一商品ヲ交付、販賣シ又ハ交付若ハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持スル者

六 他人ノ登録商標ト同一若ハ類似ノ商標ヲ使用シタル商品ヲ交付若ハ販賣ノ目的ヲ以テ輸入シタル者又ハ其ノ商品ヲ交付、販賣シ若ハ交付、販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持スル者

七 他人ノ登録商標ヲ偽造又ハ模造スル爲其ノ用具ヲ製作、交付、販賣若ハ所持スル者

八 同一商品ニ關シ他人ノ登録商標ト同一又ハ類似ノモノヲ營業ニ用キル廣告、看板、引札物價表又ハ其ノ他ノ取引書類ニ使用シタル者

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 詐偽ノ所爲ヲ以テ商標ノ登録ヲ受ケタル者

二 登録ヲ受ケサル商標ニ登録標記ヲ付シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シ之ヲ商品ニ使用シタル者又ハ其ノ商品ヲ交付若ハ販賣シ又ハ交付若ハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持スル者

三 登録ヲ受ケスシテ登録標記又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル商標ヲ廣告、看板、引札等ニ使用シタル者

第二十五條 第二十三條ノ犯罪ニ因リ沒收スルコトヲ得ヘキ物ニ付判決言渡前被害者ヨリ請求アルタルトキハ之ヲ相當ノ代價ニ見積リ被害者ニ交付スル言渡ヲ爲スヘシ

損害ノ額カ交付ヲ受ケタル物ノ見積代價ニ超過スルトキハ被害者ハ其ノ差額ニ限り賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事ニシテ特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十七條 證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 特許理辨士ニ非スシテ商標ニ關スル代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅命ヲ以テ之ヲ定ム

舊法ニ依リ登録ヲ受ケタル商標ニ付テハ其ノ存續期間内ハ本法第二條第六號乃至第八號ノ規定ヲ適用セズ第九條ニ定ムル期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

特許法第九十九條、第一百五條及第百六條ノ規定ハ商標ニ關シ之ヲ準用ス

同 施行細則

明治四十二年一〇月農令第四四號 改正 四五年第五號

商標法施行細則左ノ通改正ス

商標法施行細則

第一條 商標ノ登録ヲ受ケムトスル者ハ一商標ニ付テ第二十條ニ定メタル類別毎ニ一通ノ願書ヲ作り之ヲ特許局ニ差出スヘシ

願書ニハ商標見本ヲ添附スヘシ

第二條 商標ニ施スヘキ色ヲ限定シテ登録ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ其ノ色ヲ指定シ著色シタル見本

ヲ添附スヘシ

第三條 登録出願ニ係ル商標印版ノ調製ヲ依頼セントスル者ハ其ノ紹介ヲ特許局ニ請求スルコトヲ得

第四條 商標法第三條第三項ノ規定ニ依リテ出願シタル聯合商標ニ付登録スヘシトノ査定ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ聯合商標ノ登録番號又ハ願書番號ヲ査定ノ主文中ニ記載スヘシ

第五條 商標ノ見本ハ強靱ナル紙料ヲ以テ之ヲ作ルヘシ見本ハ五通之ヲ差出スヘシ但シ特許局長ニ於テ必要ト認ムルトキハ更ニ其ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第六條 商標ノ登録出願ヨリ生シタル權利ヲ承繼シタル者ノ差出ス出願人ノ名義變更ノ届書ニハ其ノ承繼人タルコト及營業ヲ讓受ケタルコトヲ證明スルニ足ル書面ヲ添附スヘシ

第七條 特許法施行細則第五十三條ノ規定ハ商標法第四條第二項但書ノ規定ニ依リ關係者ノ協議ヲ必要トスル場合ニ之ヲ準用ス

第八條 商標法第三條第二項ノ規定ニ依リ商標ノ登録ヲ受ケムトスル者ハ善意ニ其ノ商標ヲ使用シタ

ル事實ヲ證明スヘシ

第九條 共同シテ使用スル商標ノ登録ヲ受ケムトスルトキハ願書ニ營業ヲ共ニスル事實ヲ證明スルニ足ル書面ヲ添附スヘシ

第十條 商標法第二條第七號乃至第九號ニ該當スル商標ノ登録ヲ受ケムトスル者ハ其ノ各號ノ但書ノ規定ニ依リ登録ヲ受ケタルコトヲ得ヘキ事實ヲ證明スヘシ

第十一條 外國ノ登録商標トシテ帝國ニ於テ其ノ登録ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ其ノ本國ノ登録證其ノ他本國ノ登録ニ依ル商標及其登録ノ年月日ヲ證明スルニ足ル書面ヲ添附スヘシ

外國ノ登録商標トシテ登録ヲ受ケタル商標ニ付其ノ本國ニ於テ商標權存續期間更新ノ登録出願カ許可セラレタル後帝國ニ於テ其ノ商標權存續期間更新ノ登録ヲ出願セムトスル者ハ願書ニ其ノ本國ニ於テ許可ヲ得タル旨ヲ證明スルニ足ル書面ヲ添附スヘシ

第十二條 特許局長必要ト認ムルトキハ商標ノ登録出願人ニ對シ商標ニ關スル説明書ノ差出ヲ命スル

キハ前項ニ依リ差出シタル登録證ノ裏面ニ其ノ旨ヲ記載シ特許局長署名捺印シテ之ヲ還付スヘシ

第十六條 商標ノ印版ハ木版、細網版其ノ他活版印刷ニ適スルモノヲ用キ長サ及幅各曲尺三寸三分(十)「サンチメートル」以内、厚サ七分九厘二毛(二)「サンチメートル」(四)トシ文字ヨリ成ル商標ノ印版ノ長サ及幅ハ各二寸一分四厘五毛(六)「サンチメートル」(五)以内トスヘシ印版ハ一箇ノ直角四邊形ノ版面ニ彫刻シテ之ヲ作ルヘシ

第十七條 特許法施行細則第二十條及第二十一條ノ規定ハ商標ノ印版ニ之ヲ準用ス

第十八條 登録證ハ第四號乃至第八號ノ書式ニ依リ之ヲ作り特許局長之ニ署名捺印スヘシ

第十九條 商標法第二十條ノ規定ニ依リ標章ノ登録ヲ受ケムトスル者カ主務官廳ノ認可ヲ得テ設立シタルモノナキトキハ願書ニ其ノ認可ヲ得タル旨ヲ證明スルニ足ル書面ヲ添附スヘシ

第二十條 出願人ハ左ノ類別ニ從ヒ商標ヲ使用セムトスル商品ヲ指定スヘシ

第七類 商標 第八章 商標法 同施行細則

コトヲ得

第十三條 登録出願ニ依ル商標ヲ使用スヘキ商品カ第二十條ニ定メタルニ以上ノ類別ニ互ルニ依リ願書ヲ訂正セムトスルトキハ他類ニ屬スル商品ニ付前願書ト同一ノ願書ヲ差出シ同時ニ前出願ヲ訂正スヘシ

第十四條 商標權存續期間更新ノ登録ヲ受ケムトスル者ハ其ノ期間滿了ノ日ヨリ三月前ニ願書ニ登録證ヲ添附シ之ヲ特許局ニ差出ヘスシ

前項ノ期限後ト雖商標權存續期間滿了以前ニ在リテハ別ニ定ムル手数料ヲ納付シ前項ノ願書ヲ差出スコトヲ得

第十五條 登録スヘシトノ査定又ハ審決アリタルトキハ出願人又ハ請求人ハ其ノ査定又ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ商標料ヲ納付シ且前項ノ場合ニ於テ出願ニ係ル商標カ登録商標ト聯合商標ナルトキハ商標料納付ノ際其ノ登録商標ノ登録證ヲ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ出願ニ係ル商標ヲ登録シタルト

第一類 化學品、藥劑及醫療補助品

酸類、鹼類、亞爾加里、漂白粉、樹脂、膠、磷、酒精、個里設林、規那鹽、莫兒比涅、丁幾劑、舍利別、煎劑、水劑、浸劑、丸藥、膏藥、散藥、錠藥、煉藥、生藥、藥油、香精、石灰、硫黃、礦水、麝香、打粉、食鹽、艾、防腐劑、防臭劑、驅蟲劑、繡帶、綿紗、綿撒絲、脫脂綿、海綿、「ラブラート」等

第二類 染料、顏料、媒染料及塗料

藍玉、藍靛、紫根、紅、朱、丹、綠青、燒青、洋靛、鉛白、胡粉、金銀粉、藤黃、染齒料、綠礬、明礬、漆、假漆、油漆、澁、靛墨、革油、防鏽料、防水材料等

第三類 香料、燻料及他類ニ屬セサル化粧品

香水、香油、白粉、髮膏、香袋、線香、炷香、化粧下等

第四類 石鹼

第五類 他類ニ屬セサル洗料、磨料

洗粉、齒磨、洗液、磨液等

第六類 他類ニ屬セサル金屬及其ノ半加工品

銑鐵、鍛鐵、鋼鐵、條鐵、鐵葉、軌條、鐵板、鐵線、銅、銅板、銅線、鉛、鉛板、亞鉛、亞鉛板、錫「アルミニウム」「ニッケル」、水銀、合金等

第七類 他類ニ屬セサル金屬製品

鑄物、打物、彫鏤品、編物等

第八類 利器及尖刃器

鎔、鋸、鑿、錐、鑿、斧、鉞、小刀、剃刀、庖丁、鉋、鑿、針、釘、鳶嘴等

第九類 貴金屬、其ノ模造物「アルミニウム」金、「ニッケル」銀、「ブリタニヤ、メタル」及他類ニ屬セサル其ノ製品並彫鏤品

金、銀四分之一、紫銅其ノ他貴金屬ノ合金、鍍品「モール」等

第十類 寶石類、其ノ模造物及他類ニ屬セサル其ノ製品並彫鏤品

金剛石、珊瑚、眞珠、瑪瑙、水晶、黃玉、碧玉等

第十一類 礦物類

第十二類 石材、其ノ模造物及他類ニ屬セサル其

犁、鋤、鍬、稻拔、唐箕、耙、釘拔、鐵槌、繩墨、鋤廻シ、「スコップ」、「シヨールベル」、鶴嘴等

第二十類 運搬用機械、器具及其ノ各部

荷車、馬車、人力車、自働車、自轉車、小兒用車、船舶、鐵道用車輛、車輪、「タイヤ」等

第二十一類 時計、其ノ附屬品及其ノ各部

第二十二類 樂器

第二十三類 銃砲、彈丸及爆發物類

大砲、小銃、獵銃、短銃、火藥、綿火藥、「ダイナマイト」、雷管、煙火、水雷等

第二十四類 蠶稱、野蠶種及繭

第二十五類 眞綿、木棉綿、麻、苧、羽毛ノ類及其ノ粗製品

第二十六類 生絲、絹絲、野蠶絲、天蠶絲、琴絲、金絲及銀絲

第二十七類 綿絲

第二十八類 毛絲

第二十九類 麻絲及第二十六類乃至第二十八類ニ屬セサル絲類

第三十類 絹織物

第七類 商事 第八章 商標法 同施行細則

ノ製品

第十三類 漆喰及土砂類

漆喰、「セメント」、石膏、土瀝青、土砂、火山灰等

第十四類 他類ニ屬セサル陶器、磁器、七寶製品、土器、瓦、煉瓦類

第十五類 玻璃及他類ニ屬セサル其ノ製品並珐瑯質品

玻璃板、玻璃管、玻璃壺、玻璃珠等

第十六類 護膜及他類ニ屬セサル其ノ製品

第十七類 他類ニ屬セサル機械、器具及其ノ各部

汽罐、汽機、發電機、電動機、變壓器、織機、紡績機、裁縫機、印刷機、揚水機、消火器、潛水器、調帶等

第十八類 理化學、醫術、測定、寫眞、教育用ノ

器械器具、蓄音機、眼鏡、算數器類及其ノ各部

電信機、電話機、電氣開閉器、電池、試驗管、外科用器械、度量衡器、感光膜、製圖器、體操

用器具、望遠鏡、顯微鏡、被複電線、電氣絕緣

用碍子、電氣器械器具用炭素等

第十九類 農工器具

第三十一類 木綿織物

第三十二類 毛織物

第三十三類 麻織物

第三十四類 第三十類乃至第三十三類ニ屬セサル織物

第三十五類 他類ニ屬セサル絲類ノ編物、組物、撥物、「レース」、「リボン」類、他類ニ屬セサル刺繡品及各種ノ紐類

第三十六類 被服、手巾、釦鈕及裝身用「ピン」類

衣服、冠、帽子、「カラ」、「カフス」、領飾、襟、襯衣、「ツボン」下、手袋、足袋、「ハンカチーフ」

手拭、「タオル」、袷紗、風呂敷等

第三十七類 寢具及他類ニ屬セサル室内裝置品

寢臺、蒲團、枕、蚊帳、座蒲團、屏風、額、卓

被、窓掛、敷物等

第三十八類 清酒

第三十九類 他類ニ屬セサル各種ノ酒類

葡萄酒、麥酒、「ブランドイ」、「ベルモット」、「ウ

キスキー」、味淋、白酒、燒酎、濁酒、龜ノ歳、

直シ等

一九四

第四十類 氷及清涼飲料

曹達水、蜜柑水、「ラムネ」、「サイダー」等

第四十一類 醬油、「ソース」及酢類

第四十二類 砂糖、蜜類

白砂糖、黑砂糖、「サラメ」、氷砂糖、糖蜜、蜂蜜等

第四十三類 菓子及麵類

干菓子、蒸菓子、掛ケ物、飴、砂糖漬等

第四十四類 茶、珈琲、「チョコレート」、珈琲入角砂糖ノ類

第四十五類 他類ニ屬セサル食料品及加味品

肉類、越幾斯類、卵、鰹節、海苔、昆布、荒布、佃煮、罐詰、味噌、嘗物、漬物、胡椒等

第四十六類 獸乳、其ノ製品其ノ模造品

凝乳、乳油、乳餅、乳粉等

第四十七類 穀菜類、種子、果物、穀粉、澱粉及其ノ製品

米、麥、粟、黍、稗、豆、蕒、乾薑、球根、麴種「モヤシ」、「ベーキングパウダー」、「イースト、パウダー」、麥粉、葛粉、麩類、湯葉、蒟蒻、凍豆腐、凍蒟蒻等

干鰯、餅粕、油粕、肉粉、骨粉、血粉、糠、糠酸肥料、調合肥料、硫酸安母尼亞等

第五十七類 木竹材、木皮、竹皮及經木類

第五十八類 他類ニ屬セサル木、竹、藤、木皮、竹皮ノ類ノ製品及其ノ漆塗品、蒔繪品ノ類

指物、挽物、曲物、編物、組物、桶、經木真田等

第五十九類 甲、角、牙、介類、他類ニ屬セサル其ノ製品其ノ模造品並「セルロイド」及他類ニ屬セサル其ノ製品

第六十類 藁、草及他類ニ屬セサル其ノ製品並麥稈、墨表、筵、蓆、笠、繩、麥稈真田等

第六十一類 傘、杖、履物及其ノ附屬品

傘、蝙蝠傘、杖、靴、下駄、草履、雪駄、鼻緒、爪掛等

第六十二類 扇子及團扇類

第六十三類 燈器及其ノ各部

洋燈、燭臺、提燈、電燈球、燈蓋、電燈承口、電燈織條、瓦斯「バーナー」、瓦斯「マントル」、弧光燈用炭棒、懷中電燈、燭心等

第六十四類 別子及鬆類

第七類 商標法 第八章 商標法 同施行細則

第四十八類 煙草類

第四十九類 煙具及袋物

煙管、煙袋、煙管筒、薄荷「パイプ」、懷中物等

第五十類 紙、他類ニ屬セサル其ノ製品、各種ノ元結及水引

日本紙、西洋紙、板紙、凝草紙、壁紙、油紙、澁紙、書簡筒、帳文匣、一開張、帳簿等

第五十一類 文房具

筆、墨、印肉、印材、「インキ」、印刷用「インキ」、石筆、鉛筆、「ペン」、「ペン」軸、硯、「インキ」壺、文鎮、筆筒、筆架、石盤、紙綴具、鉛筆削等

第五十二類 皮革及他類ニ屬セサル其ノ製品並各種ノ鞞類

毛皮、柔革、馬具、文匣、革帶、唐弓絃等

第五十三類 燃料類

石炭、「コークス」、薪、炭、附木、懷爐灰等

第五十四類 摺附木

第五十五類 油、蠟類

石油、種油、魚油、蠟、蠟燭、脂肪等

第五十六類 肥料

第六十五類 玩具遊戲具造花及簪ノ類

鞞、碁、將碁、人形、獨樂、弓、球突具、押槍、骨牌等

第六十六類 圖畫、寫真「ブツク」、書籍、新聞紙、雜誌類

第六十七類 他類ニ屬セサル商品

第二十一條 特許法施行細則第一條乃至第三條、第五條乃至第三十九條、第四十八條乃至第五十二條、第五十七條、第六十條、第六十七條乃至第六十八條、第七十條乃至第八十五條、第八十七條乃至第九十條及第九十三條ノ規定ハ商標ニ關シ之ヲ準用ス

第二十二條 本則ノ規定ハ標章ニ關シ之ヲ準用ス

附則

第二十三條 本則ハ商標法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十四條 特許法施行細則第九十七條ノ規定ハ商標ニ關シ之ヲ準用ス

第二十五條 本則施行前登錄シタル商標又ハ登錄スヘシトノ査定アリタル商標ヲ使用スヘキ商品ノ類別ハ本則施行後仍從前ノ例ニ依ル

第七類 商標法 第八章 商標法 同施行細則

一九七

第八類

租

稅

第八類 租 稅

第一章 國稅徵收法	一
同施行規則	七
第二章 地租條例	一五
同施行規則	二二
地租徵收ニ關スル件	二四
第三章 地租納期、免訴制	二五
地租ノ特別納期、災害地租免除法、改 租延納年賦金免除ニ關スル制、造林地免 租取扱方、災害地租免除法施行方	三〇
第四章 所得稅法	三九
同施行規則	四五
第五章 營業稅法	四三
同施行規則	五三
第六章 登録稅法	六〇
同施行規則	七六
第七章 相續稅法	七八
同施行規則	八六

第八章 織物消費稅法

第八章 織物消費稅法	八九
同施行規則	九二
第九章 通行稅法	九六
同施行規則	九八
第十章 酒造稅法	一〇四
同施行規則	一〇
第十一章 醬油稅則	一〇
同施行規則	一三
第十二章 砂糖消費稅法	一六
同施行規則	二〇
第十三章 賣藥稅法	二六
同施行規則	三〇
第十四章 印紙稅法	三二
第十五章 關稅定率法	三五
第十六章 煙草專賣法	三八
同施行規則	五一
第十七章 鹽專賣法	五八
同施行規則	六四

第八類 租 稅

第一章 國稅徵收法

明治三〇年三月法律第二一號
改正 三五年第三六號、三八年第四六號、
四四年第三七號、大正三年第一二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國稅徵收法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國稅徵收法

第一章 總則

- 第一條 國稅ノ徵收ハ關稅其ノ他別ニ法律ヲ以テ定ムルモノノ外總テ此ノ法律ニ依ル
- 第二條 國稅ノ徵收ハ總テ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス
- 第三條 納稅人ノ財産上ニ質權又ハ抵當權ヲ有スル者其ノ質權又ハ抵當權ノ設定カ國稅ノ納期限ヨリ一箇年前ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ證明シタルトキハ該物件ノ價額ヲ限トシ其ノ債權ニ對シテ國稅ヲ先取セサルモノトス
- 第四條 納稅人國稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納

處分ヲ受ケ又ハ他ノ債務ニ因リ強制執行若ハ破產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ未タ納期ノ到ラサルモ既ニ納稅義務ノ確定シタル國稅ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ納稅人タル會社カ解散ヲ爲シタルトキ亦同シ

納稅人他ノ公課ニ付滯納處分ヲ受ケタルニ因リ國稅ノ徵收ヲ爲ストキハ國稅ハ其ノ滯納處分費ニ對シテ先取セサルモノトス

第四條ノ一 納稅人左ノ場合ニ該當スルトキハ未タ

- 納期ノ到ラサルモ既ニ納稅義務ノ確定シタル國稅ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得
- 一 國稅ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ
 - 二 府縣稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ
 - 三 強制執行ヲ受クルトキ
 - 四 破產ノ宣告ヲ受ケタルトキ
 - 五 競賣ノ開始アリタルトキ
 - 六 法人カ解散ヲ爲シタルトキ
 - 七 納稅人脫稅又ハ逋稅ヲ謀ルノ所爲アリト認ムルトキ

第四條ノ二 前條第二號乃至第五號ノ場合ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ府縣稅其ノ他ノ公課ノ督促手數料延滞金及滞納處分費、強制執行費用、破産手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先チテ之ヲ徵收セス
 督促手數料延滞金及滞納處分費ハ國稅其ノ他總テノ公課及債權ニ先チテ之ヲ徵收ス但シ第四條ノ一第二號乃至第五號ノ場合ニ於ケル府縣稅其ノ他ノ公課ノ督促手數料延滞金及滞納處分費、強制執行費用、破産手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先チテ之ヲ徵收セス

第四條ノ三 相續開始ノ場合ニ於テハ國稅、督促手數料延滞金及滞納處分費ハ相續財產又ハ相續人ヨリ之ヲ徵收ス但シ戶主ノ死亡以外ノ原因ニ依リ家督相續ノ開始アリタルトキハ被相續人ヨリモ之ヲ徵收スルコトヲ得

國籍喪失ニ因ル相續人又ハ限定承認ヲ爲シタル相續人ハ相續ニ因リテ得タル財產ヲ限度トシテ國稅、督促手數料延滞金及滞納處分費ヲ納付スルノ義務ヲ有ス
 第四條ノ四 共有物、共同事業又ハ共同事業ニ因リ

ニ不明ナルトキハ書類ノ要旨ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

第二章 徵收

第五條 市町村ハ其ノ市町村内ノ地租及勅令ヲ以テ命シタル國稅ヲ徵收シ其ノ稅金ヲ國庫ニ送付スルノ責任アルモノトス

前項徵收ノ費用トシテ其ノ徵收金額ノ百分ノ三ニ相當スル金額及納稅告知書一通ニ付金二錢ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ其ノ市町村ニ交付ス

第六條 國稅ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏又ハ市町村ハ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ指定シ之ヲ告知スヘシ

第七條 納稅人非常ノ災害ニ罹リ政府ニ於テ其ノ被害調査ノ爲時日ヲ要スルトキハ其ノ間稅金ノ徵收ヲ爲ササルコトアルヘシ

第八條 市町村ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ稅金ヲ失ヒタルトキハ其ノ事實ヲ證明シ大藏大臣ニ稅金送付ノ責任ノ免除ヲ請フコトヲ得
 前項ノ申出アリタルトキハ大藏大臣ハ其ノ事實ヲ

生シタル物件ニ係ル國稅、督促手數料延滞金及滞納處分費ハ納稅者連帶シテ其ノ義務ヲ負擔ス
 第四條ノ五 同年ノ地租、營業稅、所得稅、醬油稅及同酒造年度ノ酒造稅ニシテ既納ノ稅金過納ナルトキハ爾後ノ納期ニ於テ徵收スヘキ同一稅目ノ稅金ニ充ツルコトヲ得

第四條ノ六 納稅義務者納稅地ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ納稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲メ納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ其ノ納稅管理人ヲ變更シタルトキ亦同シ但シ他ノ法令ニ特別ノ規定アルモノハ各其ノ法令ニ依ル

第四條ノ七 納稅ノ告知、督促及滞納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住所又ハ居所ニ送達ス名宛人カ相續財團ニシテ財產管理人アルトキハ財產管理人ノ住所又ハ居所ニ送達ス
 納稅管理人アルトキハ納稅ノ告知及督促ニ關スル書類ニ限リ其ノ住所又ハ居所ニ送達ス

第四條ノ八 書類ノ送達ヲ受タヘキ者其ノ住所又ハ居所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ帝國內ニ住所、居所アラサルトキ若ハ其ノ住所、居所共

審查シ其ノ免除ヲ爲スコトヲ得

第九條 國稅ノ納期限ヲ過キ其ノ稅金ヲ完納セサル者アルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ指定シ之ヲ督促スヘシ但シ第四條ノ一ニ依リ國稅ノ徵收ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手數料延滞金ヲ徵收ス

第三章 滞納處分

第十條 左ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ納稅者ノ財產ヲ差押フヘシ

- 一 納稅者督促ヲ受ケ其ノ指定ノ期限マテニ督促手數料延滞金及稅金ヲ完納セサルトキ
- 二 第四條ノ一第一號及第七號ノ場合ニ於テ納稅者納期ノ到ラサル國稅納付ノ告知ヲ受ケ稅金ヲ完納セサルトキ

第十一條 收稅官吏滞納處分ノ爲財產ノ差押ヲ爲ストキハ其ノ命令ヲ受ケタル官吏タルノ證據ヲ示スヘシ

第十二條 差押フヘキ財產ノ價格ニシテ督促手數料延滞金滞納處分費及第三條ニ依リ控除スヘキ債務

額ニ充テ殘餘ヲ得ル見込ナキトキハ滯納處分ノ執行ヲ止ム

第十三條 收稅官吏滯納者ノ財產ヲ差押フルニ當リ質權ノ設定セラレタル物件アルトキハ質權設定時期ノ如何ニ拘ラス其ノ質權者ハ質物ヲ收稅官吏ニ引渡スヘシ

第十四條 收稅官吏財產ノ差押ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者其ノ財產ニ就キ所有權ヲ主張シ取戻ヲ請求セムトスルトキハ賣却決行ノ五日前マテニ所有者タルノ證據ヲ具ヘテ收稅官吏ニ申出ヘシ

第十五條 滯納處分ヲ執行スルニ當リ滯納者財產ノ差押ヲ免ルル爲故意ニ其ノ財產ヲ讓渡シ讓受人其ノ情ヲ知り讓受ケタル場合ニ於テ政府ハ其ノ行爲ノ取消ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 左ニ掲グル物件ハ之ヲ差押フル事ヲ得ス

- 一 滯納者及其ノ同居ノ家族ノ生活上缺クヘカヲサル衣服、寢具、家具及廚具
- 二 滯納者及其ノ同居家族ニ必要ナル一箇月間ノ食料及薪炭
- 三 實印其ノ他職業ニ必要ナル印

第二十條 收稅官吏財產ノ差押ヲ爲ストキハ滯納者ノ家屋、倉庫及筐匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉、筐匣ヲ開カシメ若ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得滯納者ノ財產ヲ占有スル第三者其ノ財產ノ引渡ヲ拒ミタルトキ亦同シ

第二十一條 收稅官吏前條ノ處分ヲ爲ストキハ滯納者若ハ前條ニ掲ケタル第三者又ハ其ノ家族雇人ヲシテ立會ハシムヘシ若シ立會フヘキ者不在ナルトキ又ハ立會ニ應セサルトキハ成丁者二人以上又ハ市町村吏員市制町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ區戸長及其ノ附屬吏員若ハ警察官吏ヲ證人トシテ立會ハシムヘシ

第二十二條 動産及有價證券ノ差押ハ收稅官吏占有シテ之ヲ爲ス但シ差押物件運搬ヲ爲スニ困難ナルトキハ市町村長、滯納者又ハ第三者ヲシテ保管ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ封印其ノ他

出ヨリ日沒マテニ限ル

第二十三條 ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスヘシ

第二十四條 差押物件ノ保管證ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス

四 祭祀禮拜ニ必要ナル認ムル物及石碑、墓地

五 系譜其ノ他滯納者ノ家ニ必要ナル日記書付類

六 職務上必要ナル制服、祭服、法衣

七 勳章其ノ他名譽ノ章票

八 滯納者及其ノ同居家族ノ修學上必要ナル書籍器具

九 發明又ハ著作ニ係ル物ニシテ未ダ公ニセサルモノ

第十七條 左ニ掲グル物件ハ他ニ督促手数料、延滯金滯納處分費及稅金ヲ償フニ足ルヘキ物件ヲ提供スルトキハ滯納者ノ選擇ニ依リ差押ヲ爲ササルモノトス

一 農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬竝其ノ飼料

二 職業ニ必要ナル器具及材料

第十八條 差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然及法定ノ果實ニ及フモノトス

第十九條 滯納處分ハ裁判上ノ假差押又ハ假處分ノ爲ニ其ノ執行ヲ妨ケララルコトナシ

第二十三條 ノ一 債權ノ差押ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ之ヲ債務者ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ政府ハ督促手数料、延滯金滯納處分費及稅金額ヲ限度トシテ債權者ニ代位ス

第二十三條 ノ二 債權及所有權以外ノ財產權ノ差押ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ之ヲ權利者ニ通知スヘシ

前項ノ財產權ニシテ其ノ移轉ニ付登記又ハ登録ヲ要スルモノニ在リテハ差押ノ登記又ハ登錄ヲ關係官廳ニ囑託スヘシ其ノ抹消又ハ變更ニ付テモ亦同シ

第二十三條 ノ三 不動産又ハ船舶ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏ハ差押ノ登記ヲ所轄登記所ニ囑託スヘシ其ノ抹消又ハ變更ノ登記ニ付テモ亦同シ差押ノ爲不動産ヲ分割又ハ區分シタルトキハ收稅官吏ハ分割又ハ區分ノ登記ヲ所轄登記所ニ囑託スヘシ其

ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスヘシ

第二十三條 ノ一 債權ノ差押ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ之ヲ債務者ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ政府ハ督促手数料、延滯金滯納處分費及稅金額ヲ限度トシテ債權者ニ代位ス

第二十三條 ノ二 債權及所有權以外ノ財產權ノ差押ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ之ヲ權利者ニ通知スヘシ

前項ノ財產權ニシテ其ノ移轉ニ付登記又ハ登録ヲ要スルモノニ在リテハ差押ノ登記又ハ登錄ヲ關係官廳ニ囑託スヘシ其ノ抹消又ハ變更ニ付テモ亦同シ

第二十三條 ノ三 不動産又ハ船舶ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏ハ差押ノ登記ヲ所轄登記所ニ囑託スヘシ其ノ抹消又ハ變更ノ登記ニ付テモ亦同シ差押ノ爲不動産ヲ分割又ハ區分シタルトキハ收稅官吏ハ分割又ハ區分ノ登記ヲ所轄登記所ニ囑託スヘシ其

ノ合併又ハ變更ノ登記ニ付テモ亦同シ

第二十三條ノ四 差押ノ解除ニ關シテハ登録稅ヲ納ムルコトヲ要セス

第二十四條 差押ヘタル動産、有價證券、不動産及

第二十三條ノ一ニ依リ收稅官吏カ第三債務者ヨリ

給付ヲ受ケタル物件ハ通貨ヲ除クノ外公賣ニ付ス

公賣ノ手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公買ニ付スルモ買受人ナキカ又ハ其ノ價格見積價

格ニ達セサルトキハ其ノ見積價格ヲ以テ政府ニ買

上クルコトヲ得

債權及所有權以外ノ財産權ニ付テハ前二項ノ規定

ヲ準用ス

第二十五條 見積價格僅少ニシテ其ノ公賣費用ヲ償

フニ足ラサル物件ハ随意契約ヲ以テ之ヲ賣却スル

コトヲ得

第二十六條 滞納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關ス

ル官吏、公吏、雇員ハ直接ト間接トヲ問ハス其ノ

賣却物件ヲ買受クルコトヲ得ス

第二十七條 滞納處分費ハ財産ノ差押、保管、運搬、

公賣ニ關スル費用及通信費トス

第二十八條 物件ノ賣却代金、差押ヘタル通貨及第

二十三條ノ一ニ依リ第三債務者ヨリ給付ヲ受ケタ

ル通貨ハ督促手数料、延滞金滞納處分費及税金ニ

充テ尙殘餘アルトキハ之ヲ滞納者ニ交付ス

賣却シタル物件買權、抵當權ノ目的物タルトキハ

其ノ代金ヨリ先ツ督促手数料、延滞金滞納處分費

及税金ヲ控除シ次ニ其ノ債務額ニ充ツルマテテ債

權者ニ交付シ尙殘餘アルトキハ之ヲ滞納者ニ交付

ス但シ第三條ニ掲ケタル買權、抵當權ノ目的タル

物件ニ關シテハ其ノ代金ヨリ先ツ督促手数料、延

滞金滞納處分費ヲ徵シ次ニ其ノ債務額ニ充ツルマ

テ債權者ニ交付シ次ニ税金ヲ控除シ尙殘餘アルト

キハ之ヲ滞納者ニ交付ス

第二十九條 會社ニ對シ滞納處分ヲ執行スル場合ニ

於テ會社財産ヲ以テ督促手数料、延滞金滞納處分

費及税金ニ充テ仍不足アルトキハ無限責任社員ニ

就キ之ヲ處分スルコトヲ得

第三十條 此ノ法律ニ依リ債權者又ハ滞納者ニ交付

スヘキ金錢ハ之ヲ供託スルコトヲ得

第三十一條 滞納處分ヲ終了シ若ハ之ヲ中止シタル

トキハ納稅義務及督促手数料、延滞金滞納處分費

納付ノ義務ハ消滅ス

第三十二條 滞納者又ハ滞納者ノ財産ヲ占有スル者

其ノ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ契約ヲ爲シタル

トキハ一月以上二年以下ノ【重禁錮】ニ處ス

差押物件ノ保管者ノ保管ニ係ル物件ヲ藏匿脱漏費

消若ハ故意ニ毀損シタルトキ亦同シ

情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幫助シ又ハ虛偽ノ契約ヲ

承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス

前各項ノ場合ニ於テ刑法ニ罰條アルモノハ本條ヲ

適用セス

第五章 附則

第三十三條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施

行ス

【沖繩縣及】東京府管内小笠原島、伊豆七島ニハ當

分ニテ施行セス

市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ本法中市町村

ニ關スル條項ヲ適用スヘキ公共團體ハ勅令ヲ以テ

之ヲ指定ス

【北海道水產物營業人組合ハ本法ニ於テ市町村ニ

準ス

第三十四條 明治二十二年法律第九號國稅徵收法同

年法律第三十二號國稅滞納處分法及同二十三年法

律第四號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

●同 施行規則

明治三五年四月勅令第一三五號

改正 三八年第六七號四年第二二八號

朕國稅徵收法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國稅徵收法施行規則

第一條 收稅官吏國稅ヲ徵收セムトスルトキハ納稅

人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ記載シ

タル納稅告知書ヲ發スヘシ但シ金庫ニ納付セシム

ル場合ノ外口頭ヲ以テ告知スルコトヲ得

第二條 市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ收稅官吏書

面ヲ以テ其ノ金額ヲ市町村ニ通知スヘシ

市町村ハ前項ノ通知ニ依リ納稅人ニ對シ其ノ納金

額、納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ

發スヘシ

第三條 國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期ノ到ラサル税金ヲ徵收セムトスルトキハ納期日ヲ定メ第一條ノ告知又ハ第二條ノ通知ヲ爲スト同時ニ其ノ旨告知又ハ通知スヘシ
納稅告知ヲ爲シタル後國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期日前之ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏ハ納期日ノ變更ヲ納稅人ニ告知スヘシ
前項ノ國稅ニシテ市町村ノ徵收スルモノナルトキハ納稅人ニ告知スルト同時ニ其ノ旨市町村ニ通知スヘシ
第四條 市町村ニ於テ税金ヲ徵收シタルトキハ領收證ヲ納稅人ニ交付スヘシ
第五條 市町村ニ於テ徵收シタル税金ハ納付書ヲ添ヘ漸次之ヲ金庫ニ送付スヘシ但シ納期後三日ヲ過クルコトヲ得ス
第六條 市町村ニ於テ國稅徵收法第八條ニ依リ税金送付ノ責任ヲ免除ヲ請ハムトスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ申請書ヲ提出スヘシ地方長官前項ノ申請書ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ意見ヲ具シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七條 市町村ハ納期內ニ税金ノ納付ヲ了ラサル者アルトキハ直ニ其ノ氏名、住所若ハ居所及納金額滯納ノ事由ヲ所轄稅務署ニ報告スヘシ
第八條 國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ徵收スル事ヲ得ル國稅ハ左ニ掲ケル者ニシテ納期ニ到リ税金ノ徵收ヲ完ウルコト能ハスト認ムルモノニ限ル
一 納稅ノ告知ヲ爲シタル諸稅
二 造石數査定濟ノ酒類、酒精、酒精含有飲料並醬油ノ造石及造石數査定濟ノ麥酒稅
三 當該年分ノ自家用醬油製造稅
第九條 納稅義務者納稅管理人ヲ定メ若ハ變更シタルトキハ其ノ氏名及住所若ハ居所ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ
納稅管理人其ノ氏名、住所又ハ居所ヲ變更シタルトキハ之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ
市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ係ルトキハ前二項ノ申告ハ其ノ市町村ヲ經由スヘシ
第十條 國稅徵收法ニ依ル書類ノ送達ハ使丁又ハ郵便ニ依ルヘシ
第十一條 國稅徵收法第九條ニ依リ納稅ノ督促ヲ爲

第十二條 質權又ハ抵當權ノ設定セラレタル財産ヲ差押フルトキハ收稅官吏ハ督促手數料、延滞金滯納處分費及税金額其ノ他必要ト認ムル事項ヲ其ノ債權者ニ通知スヘシ

第十三條 民事訴訟法ニ依リ假差押ヲ受ケタル財産ヲ差押フルトキハ之ヲ執行裁判所又ハ執達吏若ハ強制管理人ニ通知スヘシ假處分ヲ受ケタル財産ヲ差押フルトキ亦之ニ準ス

第十四條 差押フヘキ財産管轄區域外ニ在ルトキハ收稅官吏ハ其ノ財産所在地ノ收稅官吏ニ滯納處分ノ引繼ヲ爲スヘシ

第十五條 差押フヘキ財産數人ノ共有ニ係ルトキハ滯納者ニ屬スル持分ニ就キ滯納處分ヲ爲シ其ノ持分ノ定メナキモノハ持分相均シキモノトシテ處分スヘシ

第十六條 收稅官吏財産ヲ差押ヘタルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル差押調書ヲ作り之ニ署名捺印スヘシ

サムトスルトキハ收稅官吏ハ納稅者ニ對シ督促狀ヲ發スヘシ

督促狀ヲ發シタルトキハ手數料トシテ金十錢ヲ徵收ス

第十一條ノ二 前條ニ依リ督促ヲ受ケタル場合ニ於テハ税金額百圓ニ付一日三錢ノ割合ヲ以テ納期限ノ翌日ヨリ税金完納又ハ財産差押ノ日ノ前日迄ノ日數ニ依リ計算シタル延滞金ヲ徵收ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合又ハ滯納ニ付酌量スヘキ情狀アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 納稅告知書一通ノ税金額二十圓未滿ナルトキ

二 納期ヲ繰上ケ徵收ヲ爲ストキ

三 納稅者ノ住所若ハ居所カ帝國內ニ在ラサル爲又ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナル爲公示送達ノ方法ニ依リ納稅ノ告知又ハ督促ヲ爲シタルトキ督促狀ニ指定シタル期限迄ニ税金及督促手數料ヲ完納シタルトキ又ハ前項ニ依リ計算シタル金額カ十錢未滿ナルトキハ延滞金ヲ徵收セス

(別冊)
地租條例

第一條 地租ハ左ノ稅率ニ依リ毎年之ヲ賦課ス
 宅地 地價百分ノ二箇半
 田畑 地價百分ノ四箇五
 其他ノ土地 地價百分ノ五箇半
 北海道ニ於ケル宅地以外ノ土地ノ地租ハ當分左ノ
 稅率ニ依ル
 田畑 地價百分ノ三箇二
 其他ノ土地 地價百分ノ四箇
 本條例ニ於テ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケタル
 價額ヲ謂フ
 第二條 地租ハ年ノ豐凶ニ由リテ増減セス
 第三條 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス
 第一類 田、畑、宅地、鹽田、鑛泉地
 第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地
 第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地
 目變換ト謂フ
 第一類地ヲ第二類地ニ變換スルモノヲ地類變換ト
 謂フ

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾
 ト謂フ
 第一類地又ハ第二類地ノ山崩、川缺、押堀、石砂
 入、川成、海成、湖水成等ノ如キ天災ニ罹リ地形
 ヲ變シタルモノヲ荒地ト謂フ
 第四條 左ニ掲グル土地ニ付テハ其地租ヲ免ス
 一 國府縣郡市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公
 共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地
 但有料借地ハ此限ニ在ラス
 二 府縣郡市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公共
 團體力公用又ハ公共ノ用ニ供スルヘキモノト定
 メタル其所有地但命令ノ定ムル期間内ニ公用
 又ハ公共ノ用ニ供セサルトキハ此限ニ在ラス
 三 府縣社地、鄉村社地、招魂社地、但有料借
 地ハ此限ニ在ラス
 四 墳墓地
 五 用惡水路、溜池、隄塘、井溝
 六 鐵道用地、軌道用地、運河用地
 七 保安林
 八 公衆ノ用ニ供スル道路

府縣郡市町村其他ノ公共團體ハ前項ノ土地ニ租稅
 其他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス但所有者以外ノ者
 前項第一號又ハ第二號ノ土地ヲ使用收益スル場合
 ニ於テ其土地ニ對シ使用者ニ租稅其他ノ公課ヲ課
 スルハ此限ニ在ラス
 軌道用地ノ區域ニ關シテハ私設鐵道法第四十一條
 ノ規定ヲ準用ス
 第五條 【土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用キ六尺ヲ間ト爲シ
 方一間ヲ以テ步ト爲シ三十步ヲ畝ト爲シ十畝ヲ段
 ト爲シ十段ヲ町ト爲ス但宅地ハ方一間ヲ以テ坪ト
 爲シ坪ノ十分一ヲ合ト爲シ合ノ十分一ヲ勻ト爲
 ス】
 第六條 地價ヲ定メ又ハ地價ヲ修正スルトキハ地盤
 ヲ丈量ス
 第七條 地價ハ左ノ場合ニ該當スルニ非サレハ之ヲ
 修正セス
 一 地目又ハ地類ヲ變換シタルトキ
 二 開墾シタルトキ
 三 開拓墾下年期明ニ至ルトキ
 四 荒地免租年期明ニ至リ原地價ニ復シ難ク若

クハ他ノ地目ニ變シタルトキ又ハ低價年期明
 ニ至リ原地價ニ復シ難キトキ
 第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其
 旨ヲ布告スヘシ
 第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ認定シ其所得ヲ審
 査シ尙ホ其土地ノ情況ニ應シ之ヲ定ム
 第十條 地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキハ
 政府ニ届出ヘシ
 地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキハ直ニ其
 地價ヲ修正ス但第十六條第六項ノ場合ハ此限ニ在
 ラス
 第十一條 地租ヲ課スル土地ヲ地租ヲ課セサル土地
 ト爲シ又ハ地租ヲ課セサル土地ヲ地租ヲ課スル土
 地ト爲シタルトキハ政府ニ届出ヘシ但之ニ關シ豫
 メ政府ノ許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲シタルモノニ付
 テハ此限ニ在ラス
 地租ヲ課セサル土地ヲ地租ヲ課スル土地ト爲シタ
 ルトキハ其地ノ現況ニ依リ直ニ其土地ノ地價ヲ定
 ム但第十六條第四項ノ場合ハ此限ニ在ラス
 第十二條 地租ハ左ノ期限ニ依リ之ヲ徵收ス

一 宅地

第一期 其年七月一日ヨリ 地租額二分ノ一
 同七月三十一日限

第二期 翌年一月一日ヨリ 地租額二分ノ一
 同一月三十一日限

二 田

第一期 其年三月十六日ヨリ 地租額四分ノ一
 翌年一月十五日限

第二期 翌年二月一日ヨリ 地租額四分ノ一
 同二月末日限

第三期 翌年三月一日ヨリ 地租額四分ノ一
 同三月三十一日限

第四期 翌年五月一日ヨリ 地租額四分ノ一
 同五月三十一日限

三 其他ノ土地

第一期 其年九月一日ヨリ 地租額二分ノ一
 同九月三十日限

第二期 其年十一月一日ヨリ 地租額二分ノ一
 同十一月三十日限

特殊ノ事情アル地方ニシテ前項ノ納期ニ依リ難キ
 モノニ付テハ命令ヲ以テ特別ノ納期ヲ設クルコト
 ヲ得

第十三條 地租ハ左ニ掲グル者ヨリ之ヲ徴收ス

一 質權ノ目的タル土地ニ付テハ質權者

ノ場合又ハ荒地免租年定期若クハ新開免租年定期
 ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 開墾ヲ爲サントスルトキハ政府ニ届出ヘ

シ
 前項ノ開墾地ハ開墾着手ノ年ヨリ十年目ニ其成功
 ノ部分ニ對シ地價ヲ修正ス
 但地類變換ヲ爲シタル後五年以内ニ開墾シタルモ
 ノニ在リテハ其成功ノ部分ニ對シ直ニ其地價ヲ修
 正ス

十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲サントスルト
 キハ政府ニ願出繳下年期ノ許可ヲ受ケヘシ繳下年
 期ハ三十年以内トス但年期中ハ原地價ニ依リ地租
 ヲ徴收ス

官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ハ其素地相當
 ト認ムル所ノ地價ヲ定メ尙ホ十年以内ノ繳下年期
 ヲ許可ス但年期中ハ現定地價ニ依リ地租ヲ徴收ス
 官有ノ水面ヲ埋立テ又ハ干拓シ民有ニ歸セシ土地
 ハ五十年以内ノ新開免租年定期ヲ許可ス
 地目ヲ變換スル爲メ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スルモ
 ノハ本條第三項ニ準シ三十年以内ノ地價据置年期

二 百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目
 的タル土地ニ付テハ地上權者

三 其他ノ土地ニ付テハ所有者

前項ニ於テ質權者、地上權者、所有者ト稱スルハ
 土地臺帳ニ質權者、地上權者、所有者トシテ登錄
 セラレタル者ヲ謂フ

第十四條 地價ヲ修正シタル土地ニ付テハ其年ヨリ
 修正地價ニ依リ地租ヲ徴收ス但其年ニ係ル地租ノ
 全部又ハ一部ノ納期開始後地價ヲ修正シタルトキ
 ハ翌年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徴收ス

第十五條 地租ヲ課スル土地ニシテ地租ヲ課セサル
 土地トナリタルトキハ其届出アリタル後又ハ其事
 實ヲ認メタル後ニ開始スル納期ヨリ地租ヲ徴收セ
 ス

地租ヲ課セサル土地ニシテ地租ヲ課スル土地トナ
 リタルトキハ地價設定後ニ開始スル納期ヨリ地租
 ヲ徴收ス但地價設定後ニ開始スル納期ニ於テ前年
 分地租ヲ徴收スヘキ場合ニ於テハ其納期分ノ地
 價ニ依リ地租ヲ徴收セス

前二項ノ規定ハ荒地免租年定期若クハ低價年定期許可

ヲ許可スルコトアルヘシ

第十七條 前條ニ依リ開墾ノ届出ヲ爲シタル土地又
 ハ開墾繳下年期若クハ地價据置年期ノ許可ヲ受ケ
 タル土地ニシテ開墾成功シ又ハ地目變換シタルト
 キハ其旨政府ニ届出ヘシ此場合ニ於テハ其年ヨリ
 開墾又ハ變換シタル地目ニ依リ其地租ヲ徴收ス但
 其年ニ係ル地租ノ全部又ハ一部ノ納期開始後届出
 アリタルトキハ翌年分地租ヨリ開墾又ハ變換シタ
 ル地目ニ依リ其地租ヲ徴收ス

前項ノ場合ニ於テ開墾又ハ變換地目ノ稅率カ舊地
 目ノ稅率ト同一ナラサルトキハ舊地目ニ對スル地
 租額ヲ開墾又ハ變換地目ノ稅率ヲ以テ除シ之ヲ開
 墾又ハ變換地目ニ對スル地價トシ修正地價ニ依リ
 地租ヲ徴收スルニ至ル迄其地價ニ依リ地租ヲ徴收
 ス

第十八條 〔廢止〕

第十九條 繳下年期明地價据置年期明新開免租年期
 明ノトキ其地價ヲ定メ又ハ修正ス

第二十條 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十五年以内免租年
 期ヲ定メ年定期明ニ至リ原地價ニ復ス

海嘯ノ爲メ潮水侵入シ作土ヲ損害シタルモノハ其狀況ニ依リ前項ニ準據スルコトアルヘシ

第二十一條 荒地免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十五年以内七割以下ノ低價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

第二十二條 低價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キモノ及ヒ荒地免租年期明ニ至リ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變スルモノハ地價ヲ修正ス

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租繼年期ヲ定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條第二十二條ニ依リ處分ス

第二十四條 川成、海成、湖水成ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ二十年以内免租繼年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尙ホ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川、海、湖ニ歸スルモノトス
第二十四條ノ二 收稅官吏ハ土地ノ檢査ヲ爲シ又ハ納稅義務者若クハ所有者ニ對シ必要ノ事項ヲ尋問スルコトヲ得

號ノ附則

本法ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ明治四十三年分地租ノ徵收ニ關シテハ仍舊法ヲ適用ス宅地以外ノ土地ノ稅率ハ明治四十三年分地租ヨリ之ヲ適用ス
非常特別稅法中地租ニ關スル規定ハ宅地ニ付テハ明治四十三年分地租限其ノ他ノ土地ニ付テハ明治四十二年分地租限之ヲ廢止ス
本法施行前地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタル土地ニシテ地價ヲ修正セサルモノハ本法施行ノ際其ノ地價ヲ修正シ明治四十四年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス
本法施行前地目ヲ變換シ地價ヲ修正シタル土地ニシテ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スルニ至ラサルモノニ付テハ明治四十四年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス
明治二十四年法律第二號、明治三十年法律第五號及宅地組換法ハ之ヲ廢止ス

附則

本法ハ大正四年分地租ヨリ之ヲ適用ス

第二十五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ遁脫スル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ現地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十六條 第十一條ニ違犯スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ且現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十七條 第十條第一項第十六條第一項ニ違犯スル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス其開墾ノ届出ヲ爲ササルモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十八條 第二十五條以下ノ所犯借地人、小作人ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキハ其借地人、小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徵ス

第二十九條 第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條ノ刑ニ當ル者自首スルトキハ其罰金科料ヲ免ス但其追徵スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシム
本令ニ改正ヲ加ヘタル明治四十二年法律第二

●地租條例ヲ北海道ニ施行ス

明治三十九年四月法律第三三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル地租條例ヲ北海道ニ施行スル件ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 北海道ニ地租條例ヲ施行ス
第二條 北海道ニ於ケル地租定率ハ當分地價百分ノ一トス

●地租條例及國稅徵收法ヲ

沖繩縣ニ施行ス

明治三十五年一月勅令第二七五號

朕地租條例及國稅徵收法ヲ沖繩縣宮古郡八重山郡ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
沖繩縣宮古郡八重山郡ニ明治三十六年一月一日ヨリ地租條例及國稅徵收法ヲ施行ス

●同 上

明治三十六年一月勅令第二七八號

朕沖繩縣島尻郡中頭郡國頭郡及那覇區首里區ニ地租條例及國稅徵收法施行ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
沖繩縣島尻郡中頭郡國頭郡及那覇區首里區ニ明治三十七年一月一日ヨリ地租條例及國稅徵收法ヲ施行ス

●同 施行規則

明治四三年一月二日勅令第四四四號

朕地租條例施行規則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地租條例施行規則

- 第一條 土地ニハ番號ヲ附シ每筆其ノ地價ヲ定ム
- 第二條 一筆ノ土地ハ其ノ一部分左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ之ヲ分割ス
 - 一 別地目ト爲ルトキ
 - 二 地租ヲ課スル土地ニシテ地租ヲ課セサル土地ト爲ルトキ
 - 三 地租ヲ課セサル土地ニシテ地租ヲ課スル土地ト爲ルトキ

置年期中變換前ノ地目ト異ナル地目ニ變換シタルトキハ地價ハ之ヲ修正セス

前項ノ場合ニ於テ變換地目ノ稅率カ舊地目ノ稅率ト同一ナラザルトキハ舊地目ニ對スル地租額ヲ變換地目ノ稅率ヲ以テ除シ之ヲ變換地目ニ對スル地價トシ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スルニ至ル迄其ノ地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第六條 官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立テ民有ニ歸セシ土地ニ付歛下年期又ハ新開免租年期ノ許可ヲ請ハザルトキハ直ニ其ノ地價ヲ定ム

第七條 荒地免租年期、免租繼年期又ハ低價年期中土地ノ形狀ヲ變更スルコトアルモ地目變換、地類變換又ハ開墾ト看做サス

第八條 地租條例第十六條第二項ノ場合ニ於テ開墾著手ノ年ヨリ十年目ニ成功セサル部分ノ土地ニ付テハ其ノ後成功シタル部分アル毎ニ其ノ地價ヲ修正ス

第九條 荒地免租年期、免租繼年期又ハ低價年期中再ヒ荒地ト爲リ免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ前ニ受ケタル年期ハ消滅ス

- 四 所有者ヲ異ニスルトキ
- 五 質權ノ目的ト爲ルトキ
- 六 百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的ト爲ルトキ
- 七 行政區劃ヲ異ニスルトキ

第三條 開墾著手後十年以内又ハ開墾歛下年期中ニ於テ地目ヲ變換シタルトキハ開墾ハ之ヲ廢止シタルモノトス

第四條 地租條例第十七條ノ規定ニ依リ開墾地目ニ組換ヘタル土地若ハ官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ニシテ開墾著手後十年以内若ハ歛下年期中地租額ヲ變換シタルトキ又ハ地租條例第十七條ノ規定ニ依リ變換地目ニ組換ヘタル土地ニシテ地價據置年限中地租額ヲ變換シ若ハ變換前ノ地目ト同一ノ地目ニ變換シタルトキハ直ニ其ノ地價ヲ修正ス

第五條 地租條例第十七條ノ規定ニ依リ開墾地目ニ組換ヘタル土地若ハ官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ニシテ開墾著手後十年以内若ハ歛下年期中地目ヲ變換シタルトキ又ハ地租條例第十七條ノ規定ニ依リ變換地目ニ組換ヘタル土地ニシテ地價據

第十條 地目變換、地類變換又ハ開墾ニシテ他ノ法令ニ依リ許可ヲ要スルモノハ其ノ許可ノ出願ヲ以テ地租條例ニ依ル届出ト看做ス

第十一條 地租條例第十六條第三項、第六項又ハ第二十條ノ規定ニ依リ歛下年期、地價據置年期又ハ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ稅務署長ニ申請スヘシ

官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立テ民有ニ歸セシ土地ニ付歛下年期又ハ新開免租年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ民有ニ歸セシ後六十日以内ニ稅務署長ニ申請スヘシ

第十二條 地租條例第二十一條、第二十三條若ハ第二十四條ノ規定又ハ明治三十四年法律第三十號ニ依リ低價年期、荒地免租繼年期又ハ年期延長ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ年期滿了後六十日以内ニ稅務署長ニ申請スヘシ

第十三條 左ノ場合ニ於テハ土地ノ所有者又ハ納稅義務者ハ三十日以内ニ稅務署長ニ届出ツヘシ

- 一 地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキ
- 二 開墾ニ著手シタルトキ、開墾成功シタルト

キ、開墾ヲ廢止シタルトキ、又ハ開墾ノ目的ヲ變更シタルトキ

三 地租ヲ課スル土地ヲ用ゑ水路、溜池、隄塘、井溝、水道用地、軌道用地、軌道用地若ハ公衆ノ用ニ供スル道路ト爲シタルトキ又ハ之カ供用ヲ廢止シタルトキ

四 地租ヲ課スル土地ヲ公用若ハ公共ノ用ニ供シ又ハ之カ供用ヲ廢止シタルトキ

五 地租ヲ課スル土地ヲ地租條例第四條第一項第二號ノ規定ニ依リ公用若ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタルトキ又ハ一年內ニ公用若ハ公共ノ用ニ供セサルトキ

前項ノ場合ニ於テ地價ヲ定メ又ハ修正スヘキトキハ實地ノ情況ニ依リ近傍ノ類地ト其ノ地方ヲ比較シ其ノ地價ヲ見積リ土地ノ測量圖ト共ニ書面ヲ差出スヘシ

第十四條 一筆ノ土地ヲ分割シ又ハ數筆ノ土地ヲ合併セムトスルトキハ土地ノ所有者ハ稅務署長ニ届出ツヘシ

第十五條 荒地免租年期ヲ有スル土地ニシテ其ノ年

第一條 地租ヲ課スル土地ニシテ納期開始前ニ地租ヲ課セサル土地トナリタルトキハ其ノ納期ヨリ地租ヲ徵收セス

地租ヲ課セサル土地ニシテ納期開始前ニ地租ヲ課スル土地トナリタルトキハ其ノ納期ヨリ地租ヲ徵收ス但シ地租ヲ課セサル土地ニシテ其ノ年經過後田地トナリタルトキハ其ノ年分地租ノ翌年ニ於ケル納期ニ於テハ地租ヲ徵收セス

第二條 地租ハ各納稅人ニ付同一市町村內ニ於ケル同一地目ノ地價合計額ニ依リ之ヲ算出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ地目ヲ異ニスルモ地租ノ納期ヲ同フスル土地ハ之ヲ同一地目ノ土地ト看做ス事ヲ得

第三條 市町村ハ地租ノ納期毎ニ其ノ開始前十五日マテニ地價及地租ノ總額並ニ其ノ各納期ニ於ケル納額ヲ所轄稅官廳ニ報告スヘシ但シ前報告後異動ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

納期開始前十五日ヨリ納期開始マテニ地租額ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ異動額ヲ所轄稅官廳ニ報告スヘシ

期明ニ至リ他ノ地目ニ變シタルトキ又ハ低價年期若ハ免租繼年期ヲ有スル土地ニシテ其ノ年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キトキ若ハ他ノ地目ニ變シタルトキハ年期滿了ノ後六十日內ニ土地所有者又ハ納稅義務者ヨリ稅務署長ニ届出ツヘシ

第十六條 納稅義務者其ノ土地所在ノ市區町村內ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ地租ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲其ノ市區町村內ニ住所ヲ有スル者ヲ納稅管理人ト定メ其ノ市區町村長又ハ戶長ニ届出ツヘシ

附則

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●地租徵收ニ關スル件

明治三十七年四月法律第一二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル地租徵收ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

收スヘキ場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第五條 大藏大臣ハ隨時稅務署長又ハ其ノ代理官ヲシテ市町村其ノ他ノ公共團體又ハ戶長役場ニ於ケル國稅諸帳簿ノ整否ヲ監督セシムヘシ

附則

第六條 本法ハ明治三十七年分地租ヨリ之ヲ適用ス

第三章 地租納期、免租

●地租條例第十二條第二項ノ規定ニ依ル地租ノ特別納期

明治四十四年四月勅令第九二號

朕地租條例第十二條第二項ノ規定ニ依ル地租ノ特別納期ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地租條例第十二條第二項ノ規定ニ依ル地租ノ特別納期左ノ如シ

一 宅地

第一期 其ノ年七月一日ヨリ 地租額二分ノ一同八月三十一日限

第二期 翌年一月十日ヨリ 地租額二分ノ一
同二月末日限

二 其ノ他ノ土地

第一期 其ノ年十月一日ヨリ 地租額二分ノ一
同十一月三十日限

第二期 翌年四月一日ヨリ 地租額二分ノ一
同五月三十一日限

鹿兒島縣大島郡

十島村 翌年五月一日ヨリ 地租額全部
同八月三十一日限

其ノ他ノ各村 翌年五月一日ヨリ 地租額全部
同五月三十一日限

沖繩縣

那覇區、首里區、島尻郡、中頭郡、國頭郡

一 宅地、田 其ノ年八月二日ヨリ 地租額全部
同八月三十一日限

二 其ノ他ノ土地 翌年五月一日ヨリ 地租額全部
同五月三十一日限

宮古郡、八重山郡

宮古郡平良村字鹽 翌年五月一日ヨリ 地租額全部
川仲筋、水納 日ヨリ同七月三十一日限

八重山郡八重山村 月三十一日 地租額全部
字波照間、與那國 限

其ノ他ノ地方

一 宅地 翌年三月一日ヨリ 地租額全部
同三月三十一日限

二 田 其ノ年六月一日ヨリ 地租額全部
同六月三十日限

三 畑

第一期 其ノ年六月一日ヨリ 地租額二分ノ一
同六月三十一日限

第二期 翌年五月一日ヨリ 地租額二分ノ一
同五月三十一日限

四 其ノ他ノ土地 翌年五月一日ヨリ 地租額全部
同五月三十一日限

附則

本令ハ明治四十四年分地租ヨリ之ヲ適用ス但シ沖繩縣那覇區、首里區、島尻郡、中頭郡及國頭郡ニ於ケル明治四十四年分畑租ハ明治四十五年三月一日ヨリ同三十一日限及五月一日ヨリ同三十一日限ノ兩期ニ其ノ二分ノ一宛ヲ徵收ス

●災害地地租免除法

大正三年二月十九日法律第一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル災害地地租免除法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 北海道又ハ府縣ノ全部又ハ一部ニ互ル災害又ハ天候不順ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ノ地租額全部

租ハ納稅義務者ノ申請ニ因リ其ノ年分ニ限り之ヲ免除ス

前項ノ申請ハ被害現狀ノ存スル間ニ於テ其ノ事實ヲ證明シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二條 地目變換若ハ開墾成功ノ届出アリタル土地又ハ耕地整理工事完了シ地價ノ配當ノ申出アリタル土地ニシテ土地臺帳ニ登錄セラレサルモノニ付テハ其ノ成功地目カ田畑ナルトキハ現地租ニ付前條ノ規定ヲ準用ス但シ耕地整理ノ場合ニ於テ免除スヘキ地租ノ金額ハ配賦スヘキ地價ニ依リ算出シタルモノトス

第三條 被害ノ調査中ニ其ノ年分地租ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第四條 第一條又ハ第二條ノ規定ニ依リ免除シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ之ヲ控除セス

附則

第五條 本法ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六條 明治三十四年法律第二十七號及明治三十六年法律第三號ハ之ヲ廢止ス

第七條 本法ハ本法施行前一年内ニ北海道又ハ府縣

第八條 明治三十六年法律第三號ニ依リ許可シタル延納年賦金ニシテ未タ徵收セサルモノハ之ヲ免除ス

〔參照〕 明治三十四年四月十三日法律第二十七號ハ水害地方田畑地租免除ニ關スル件、同三十六年六月十六日官報 同第三號ハ災害地地租延納ニ關スル件ナリ

●改租延納年賦金免除制

大正二年二月法律第二號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル改租延納年賦金免除ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
改租延納年賦金ニシテ未タ徵收セサルモノハ之ヲ免除ス

附則

本法ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●造林地租免除申請方

明治四一年一月大藏省令第一號

明治四十年法律第四十三號森林法第十二條ニ依リ造林地ノ地租免除ヲ得ムトスル者ハ所轄稅務署長ニ申請スヘシ

●造林地免租取扱方

明治四一年三月農商務省訓令第四號
府縣 林種別

森林法第十二條ノ造林地免租ニ關シテハ左記各項ニ據リ取扱フヘシ

- 一 府縣知事ハ明治四十一年一月大藏省訓令第一號ニ依リ造林地免租ノ協議ヲ受ケタルトキハ左ノ標準ニ依リ尙ホ造林ノ難易、植栽樹種、地味ノ良否、交通ノ便否等ヲ斟酌シテ免租年限ヲ協定スヘシ
 - 一 喬林ヲ仕立ツル目的ヲ以テ植樹シタルモノハ十五箇年以上三十箇年以内
 - 二 中林ヲ仕立ツル目的ヲ以テ植樹シタルモノハ十箇年以上二十箇年以内
 - 三 矮林ヲ仕立ツル目的ヲ以テ植樹シタルモノハ十箇年以内
 - 四 前各號ノ外利用ヲ目的トセル植樹ニアリテハ三十箇年以内
- 二 府縣知事ハ造林地免租許可地ノ林種面積等左記様式ニ依リ毎年未ノ合計ヲ翌年三月末日限リ本省ニ報告スヘシ但シ報告スヘキ事項ナキトキハ單ニ其ノ旨ヲ報告スヘシ

(様式)

造林免租許可地報告 何年末現在

郡市町村大字	字	地番	地目	地別	面積	林種	樹種	免租年限	備考
合計									

備考

- 一 地別欄ニハ森林法第十二條第一項ノ荒廢ニ屬シタル森林、同第二項ノ原野、山嶽、荒蕪地ノ別ヲ記載スヘシ
- 二 林種欄ニハ喬林、中林、矮林ノ別ヲ記載スヘシ

●災害地租免除法施行方

大正三年三月大藏省令第五號

災害地租免除法施行方左ノ通之ヲ定ム
第一條 災害地租免除法ニ依リ地租免除ヲ受ケムトスル者ハ收穫皆無ニ歸シタル事由、土地ノ番號、地目、段別及地價ヲ記載シタル書面ヲ以テ所轄稅

第八類 租稅 第三章 地租納期、免租 災害地租免除法施行方

- 務署長ニ申請スヘシ但シ段別及地價ニ付テハ各筆ノ記載ヲ省略シ地目別合計額ヲ記載スルモ妨ナシ
- 第二條 前條ノ申請ヲ爲ストキハ收穫皆無ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ作毛ノ存置ヲ爲スコトヲ要ス但シ所轄稅務署長ノ承認ヲ受ケタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 第三條 災害地租免除法ニ依リ耕地整理ノ場合ニ於ケル免除スヘキ地租額ハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル
 - 一 換地ノ全部ニ被害アリタルトキハ現地租額ニ相當スル金額
 - 二 換地ノ一部ニ被害アリタルトキハ其ノ部分ニ相當スル地價ヲ見積リ其ノ見積地價ト換地ノ全部ニ配賦スヘキ地價トノ割合ニ依リ現在稅額ニ對シ算出シタル金額
- 第四條 災害地租免除法ニ依リ免除スヘキ地租ハ免除處分ノ時期如何ニ拘ラス被害ノ年ノ一年分地租トス
- 第五條 稅務署長ニ於テ災害地租免除法ニ依リ地租ノ免除處分ヲナサムトスルトキハ豫メ稅務監督

局長ニ稟議スヘシ
被害區域カ他ノ稅務監督局管内ニ涉ルトキハ稅務監督局長ハ大藏大臣ニ稟議スヘシ

附則

本令ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
災害地租免除法第七條第二項ノ規定ニ依ル申請ニ付テハ第二條ノ規定ヲ適用セス
災害地租免除法第八條ニ依ル延納年賦金ノ免除ニ付テハ特ニ指令ヲ爲サス

第四章 所得税法

明治三十二年二月法律第一七號
改正 三十四年第一七號、三十八年第三四號
大正三年第一三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル所得稅法改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

所得稅法

第一條 帝國內此ノ法律施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一箇年以上居所ヲ有スル者ハ此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 前條ニ該當セサル者此ノ法律施行地ニ資産

ノ利子千分ノ二十

第三種 前二種ニ屬セサル所得 所得金額ヲ左ノ

各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用ス

千圓以下ノ金額	千分ノ二十五
千圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十五
二千圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十五
三千圓ヲ超ユル金額	千分ノ五十五
五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十
七千圓ヲ超ユル金額	千分ノ八十五
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百
一萬五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ百二十
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百四十
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百六十
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百八十
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二百
十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二百二十

株式會社、株式合資會社ニシテ株主又ハ株主及社員ノ數二十人以下ヲ以テ組織シタルモノナルトキハ其ノ所得ニ對シテ第一種甲ノ稅率ヲ適用ス
前項ノ株主又ハ社員ノ數ハ事業年度末日ノ現在ニ

又ハ營業ヲ有シ若ハ公債社債ノ利子支拂ヲ受クルトキハ其ノ所得ニ付テノミ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第三條 所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

第一種 法人ノ所得

甲 合名會社、合資會社、所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用ス

五千圓以下ノ金額	千分ノ四十
五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ五十
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ六十
一萬五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ八十
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ九十
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百十
十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百二十
二十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百三十
乙 株式會社、株式合資會社其ノ他ノ法人千分ノ六十二、五	

第二種 此法律施行地ニ於テ支拂ヲ爲ス公債社債

依ル

前二項ノ場合ニ於テ會社カ無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ其ノ無記名式ノ株券ニ對スル株主ノ

數ハ其ノ無記名式ト爲スコトヲ請求シタル株主ノ數ニ依ル

第一種甲ノ稅率ヲ適用スヘキ場合ニ於テハ法人ノ事業年度ノ月數ヲ以テ十二月ヲ除シタル數ヲ其ノ事業年度ノ所得金額ニ乘シタルモノニ對シ適用シテ算出シタル金額ヲ十二分シ其ノ事業年度ノ月數ヲ乘シテ其ノ稅額ヲ定ム

第三種ノ稅率ヲ適用スヘキ場合ニ於テ戶主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ對シ適用シテ算出シタル金額ヲ戶主及其ノ同居家族ノ所得ニ案分シテ各其ノ稅額ヲ定ム戶主ト別居スル家族二人以上同居スルトキ亦同シ

第四條 第一種ノ所得ハ保險會社ニ在リテハ各事業年度ノ利益金又ハ剩餘金ニ依リ其ノ他ノ法人ニ在リテハ各事業年度總益金ヨリ同年度總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ第二條ニ該當スル法人ノ所得ハ此ノ法律施行地ニ於ケル資産又ハ營業ヨリ生

スルモノニ限ル

前項ノ場合ニ於テ總益金中此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受ケタル配當金又ハ此法律施行地ニ於テ支拂ヲ受ケタル公債社債ノ利子アルトキハ之ヲ控除ス保險會社ノ利益金又ハ剩餘金ノ計算ニ付亦同シ

第四條ノ二 第二種ノ所得ハ其ノ支拂ヲ受クヘキ金額ニ依ル

第四條ノ三 第三種ノ所得ハ左記各號ノ定ムル所ニ依リ之ヲ算出ス

一 俸給、給料、手当、歳費、年金、恩給、退隱料、營業ニ非サル貸金預金ノ利子及第二種所得ニ屬セサル公債社債ノ利子ハ其ノ收入豫算年額

二 田又ハ畑ノ所得ハ前三年間毎年ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタルモノノ平均ニ依リ算出シタル收入豫算年額但シ前三年以來引續キ自作セス、小作セス又ハ小作ニ付セサル田又ハ畑ニ在リテハ近傍類地ノ所得ニ依リ算出シタル收入豫算年額

一 軍人從軍中ノ俸給、手当

二 扶助料及傷痍疾病者ノ恩給、退隱料

三 旅費、學資金及法定扶養料

四 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

五 外國又ハ此ノ法律ヲ施行セサル地ニ於ケル資産、營業又ハ職業ニ依ル所得

六 此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受ケル配當金及割賦賞與金

七 乘馬ヲ有スル義務アル軍人カ政府ヨリ受ケル馬糧、繫畜料及馬匹保續料

第五條ノ二 勅令ヲ以テ指定シタル重要物産ノ製造業ヲ營ム者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ業務ヨリ生スル所得ニ付所得稅ヲ免除ス

第六條 第三種ノ所得ハ四百圓ニ滿タルトキハ所稅ヲ課セス但シ第三條第六項ノ合算額四百圓ニ滿ツルトキ又ハ第四條ノ五ノ規定ニ依ル金額ヲ控除シタル爲四百圓ニ滿タサルニ至リタルトキハ此ノ限リニ在ラス

第七條 第一種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ命令ヲ

三 山林伐採ノ所得ハ前年ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額

四 外國又ハ此ノ法律ヲ施行セサル地ニ於ケル法人ヨリ受ケル配當金ハ前年ノ收入金額

五 其ノ他ノ所得ハ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル收入豫算年額

第四條ノ四 第三種ノ所得中俸給、給料、手当、歳費ニ付テハ收入豫算年額ヨリ其ノ十分ノ一ヲ控除シタルモノヲ以テ所得トス

第四條ノ五 第三種ノ所得ニ付前二條ノ規定ニ依リ算出シタル金額五百圓以下ナルトキハ百五十圓ヲ

七百圓以下ナルトキハ百圓ヲ千圓以下ナルトキハ五十圓ヲ其ノ所得ヨリ控除ス

第三條第六項ノ場合ニ於テハ其合算額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス

第四條ノ六 府縣郡市町村其ノ他ノ公共團體、神社、寺院、祠宇、佛堂及民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人ニハ所得稅ヲ課セス

第五條 第三種ノ所得ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノニハ所得稅ヲ課セス

以テ定ムル期間内ニ各事業年度ニ於ケル財產目錄貸借對照表、損益計算書及第四條ノ規定ニ依リ計算シタル所得ノ明細書ヲ添附シ政府ニ申告スヘシ

但シ第二條ニ該當スル法人ハ此ノ法律施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ關スル損益ヲ計算シタル所得ノ明細書ヲ添附スヘシ

第八條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ毎年四月中ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ政府ニ申告スヘシ

第九條 第一種ノ所得金額ハ第七條ノ申告ニ依リ申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府之ヲ決定シ第三種ノ所得金額ハ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府之ヲ決定ス

調査委員會閉會後第三種ノ所得ヲ有スル者納稅義務アルコトヲ申出テ又ハ納稅義務者所得金額ノ増加アルコトヲ申出テタルトキハ政府其ノ所得金額ヲ決定ス

第十條 稅務署長ハ毎年第三種ノ所得ニ付納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ノ所得金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ製シテ之ヲ所得調査委員會ニ送付

第十條 稅務署長ハ毎年第三種ノ所得ニ付納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ノ所得金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ製シテ之ヲ所得調査委員會ニ送付

スヘシ

第十一條 各稅務署所轄内ニ所得調査委員會ヲ置ク
但シ稅務署所轄内ニ在ル市又ハ北海道沖繩縣ノ區
ニ付テハ命令ヲ以テ特ニ調査委員會ヲ置ク事ヲ得
調査委員ノ定數ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム但シ定數ノ
増減ハ改選期ニ於テスルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 調査委員ハ調査委員選舉人之ヲ選舉ス
第十三條 調査員ノ選舉區域ハ調査委員會ヲ置クヘ
キ區域ニ依リ調査委員選舉人ノ選舉區域ハ市町村
及北海道沖繩縣ノ區ノ區域ニ依ル但シ東京市、京
都市及大阪市ニ在リテハ區ノ區域ニ依ル

第十四條 選舉區域内ニ住居シ前年第三種ノ所得稅
ヲ納メタル者ニシテ第八條ノ申告ヲ爲シタルモノ
ハ調査委員選舉人ヲ選舉シ又ハ調査委員、補關員
若ハ調査委員選舉人ニ選舉セラルルコトヲ得但シ
左ニ記載シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 無能力者
- 二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ了ヘサル
者及家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定
シタル時ヨリ復權ノ決定確定スルニ至ルマテ

長之ヲ執行ス

第十七條 稅務署長ハ調査委員選舉人ノ選舉期日ヲ
定メ之ヲ市區町村長又ハ戸長ニ通知スヘシ
市區町村長又ハ戸長ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキ
ハ少クトモ選舉期日七日前其ノ旨ヲ公示スヘシ

第十八條 選舉ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ
投票ハ一人一票ニ限ル
選舉人ハ自ラ投票所ニ至リ被選舉人一人ノ氏名ヲ
記載シテ投票スヘシ

第十九條 選舉ハ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選
トス投票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り同年月ナ
ルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 調査委員選舉人ノ選舉終了シタルトキハ
市區町村長又ハ戸長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ
第二十一條 稅務署長ハ選舉期日ヲ定メ少クトモ七
日前ニ公示シ調査委員及之ト同數ノ補關員ノ選舉
ヲ行ハシムヘシ

前項ノ選舉ニ關シテハ第十八條及第十九條ノ規定
ヲ準用ス
但シ投票ニ記載スヘキ被選舉人ノ數ハ調査委員又

ノ者
三 國稅滯納處分ヲ受ケタル後一箇年ヲ經サル
者

四 六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又
ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレ復權ヲ得サル
者

五 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタ
ル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受
クルコトナキニ至ルマテノ者

六 第四十六條ノ規定ニ依リ處罰セラレタル後
五年ヲ經サル者

前項ノ場合ニ於テ被相續人ノ爲シタル納稅又ハ申
告ハ其ノ相續人ノ納稅又ハ申告ト看做ス

第十五條 調査委員選舉人ノ定數ハ其ノ選舉區域内
ニ於ケル前年所得稅ヲ納メタル者ニシテ第八條ノ
申告ヲ爲シタル者十人ニ付一人トス但シ申告者二
百人以上ナルトキハ二十人ニ止メ申告者十人未滿
ナルトキハ一人トス

第十六條 調査委員選舉人ノ選舉事務ハ市區町村長
又ハ戸長之ヲ執行シ調査委員ノ選舉事務ハ稅務署

ハ補關員ノ定數ノ二分ノ一トシ一人未滿ノ端數ヲ
生シタルトキハ一人トシテ計算ス

第二十二條 調査委員及補關員ノ選舉終了シタルト
キハ稅務署長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第二十三條 調査委員及補關員ニ選ハレタル者ハ正
當ノ事故ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第二十四條 調査委員及補關員ノ任期ハ選舉ノ日ノ
屬スル月ヨリ四年トス但シ其ノ選舉區域ニ變更ヲ
生シタル場合ニ於テハ其ノ任期ハ終了スルモノト
ス

第二十四條ノ二 調査委員及補關員ノ改選ハ前任者
ノ任期終了ノ月ノ翌月ニ於テ之ヲ行フ

第二十四條ノ三 調査委員ニ關員ヲ生シタルトキハ
投票ノ最多數ヲ得タル補關員ヨリ順次之ヲ補充シ
投票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り同年月ナルト
キハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條ノ四 補關員ヨリ調査委員トナリタル者
ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス
選舉區域ノ變更ニ依リ新ニ選舉セラレタル調査委
員及補關員ノ任期ハ選舉區域變更前ニ於ケル調査

委員及補闕員ノ選舉ノ日ノ屬スル月ヨリ四年ヲ以テ終了ス

第二十四條ノ五 調査委員又ハ補闕員ニ選舉セラレタル者第十四條第一項但書各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ第三種ノ所得ニ付納税義務ヲ有セサルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ

第二十五條 調査委員會ノ開會日數ハ三十日以内トシ地方ノ情況ニ依リ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條 調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第二十七條 調査委員會ハ毎年開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第二十八條 調査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニアラサレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第二十九條 調査委員ハ自己ノ所得金ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第三十條 八月三十日マテニ調査委員會成立セサルトキハ政府其ノ所得金額ヲ決定ス

質問スルコトヲ得

第三十四條ノ二 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認

ムル者ニ金錢又ハ物品ヲ支拂フノ義務ヲ有スト認ムル者ニ對シ其ノ金額、數量、價額又ハ支拂期日ニ付質問スルコトヲ得

第三十五條 政府ハ第一種及第三種ノ所得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第三十六條 納稅義務者政府ノ通知シタル所得金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ申出テ審査ヲ

求ムルコトヲ得

第三十七條 前條ノ請求アリタルトキハ審査委員會ヲ開キ其ノ決議ニ依リ政府之ヲ決定ス

審査委員會ハ收稅官吏三人調査委員四人ヲ以テ之ヲ組織ス

審査委員會ノ所屬區域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

審査委員會ハ前條ノ申立ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ得

第三十一條ノ規定ハ之ヲ審査委員會ノ決議ニ準用ス

調査委員會開會ノ日ヨリ第二十五條ノ期間以内ニ又ハ八月三十日マテニ調査終了セサルトキハ所得金額調査未済ノモノニ限り政府其ノ所得金額ヲ決定ス

第三十一條 政府ハ調査委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキ又ハ再調査ニ付シタル日ヨリ七日以内ニ調査終了セサルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ決定ス

第三十二條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十三條 調査委員ニハ手當及旅費ヲ支給ス

第三十三條ノ二 第三種ノ所得ニ屬スル俸給、給料、手當、歳費、年金、恩給又ハ退職料ノ支拂ヲ爲ス者ハ其ノ支拂ヲ受ケル者ノ氏名、住所及金額ヲ記載シタル調査書ヲ政府ニ提出スヘシ

前項ノ規程ニ依リ調査書ヲ提出シタル者ニ對シテハ命令ノ定ムル金額ヲ交付スルコトヲ得

第三十四條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者、納稅義務アリト認ムル者又ハ前條ノ規定ニ依リ調査書ヲ提出スル義務アル者ニ

對シ

第三十八條 納稅義務者ハ第三十六條ノ審査ヲ求メタル場合ト雖通知ヲ受ケタル所得金額ニ依リ税金ヲ納ムヘシ

第三十九條 所得金額ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第四十條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者收入豫算年額四分ノ一以上ヲ減損シタルトキハ政府ニ申

出テ所得金額ノ更訂ヲ求ムルコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過グルトキハ所得金額ノ更訂ヲ求ム

ルコトヲ得ス

所得金額決定後贈與ヲ爲シタル爲所得金額ヲ減損シタル場合ニハ前項ヲ適用セス

第四十一條 前條ノ請求アリタルトキハ政府ハ其ノ所得金額ヲ査覈シ收入豫算年額ニ對シ四分ノ一以上ノ減損アリタルトキハ所得金額ヲ更訂ス

第四十二條 第一種ノ所得ニ付テハ各事業年度毎ニ所得稅ヲ徵收ス

第二種ノ所得ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ所得稅ヲ徵收シ其ノ都度之ヲ政府ニ納ムヘ

第三種ノ所得ニ付テハ所得税ノ年額ヲ四分シ左ノ四期ニ於テ之ヲ徴收ス但シ納税者納税管理人ヲ定メスシテ帝國外ニ住所若ハ居所ヲ移ストキハ其ノ際直ニ其ノ所得税ヲ徴收スルコトヲ得

第一期 其ノ年九月一日ヨリ三十日限

第二期 其ノ年十一月一日ヨリ十五日限

第三期 翌年一月一日ヨリ十五日限

第四期 翌年三月一日ヨリ十五日限

第二項ノ規定ニ依リ徴收スヘキ所得税ヲ徴收セサルトキ又ハ其ノ徴收シタル税金ヲ納付セサルトキハ國稅徴收法ニ依リ之ヲ支拂者ヨリ徴收ス

第四十三條 第四十條ノ請求アリタルトキハ政府ハ其ノ確定ニ至ルマテ税金ノ徴收ヲ猶豫スルコトヲ得

第四十三條ノ二 第三種ノ所得ニ付二箇以上ノ稅務署管内ニ於テ所得金額ノ決定アリタルトキハ政府ハ納税者ノ住所若ハ住所ナキトキハ居所地以外ニ於ケル所得金額ノ決定ヲ取消スヘシ

及第六十六條ノ例ヲ用キス

附則

第四十八條 此ノ法律ハ明治三十二年分所得税ヨリ之ヲ適用ス

第四十九條 明治二十年勅令第五號所得税法ハ明治三十一年分所得税限リ廢止ス

第五十條 此ノ法律ハ小笠原島及伊豆七島ニ當分之ヲ施行セス

附則 (大正二年一三號)

本法ハ大正二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三種ノ所得ニ付テハ大正二年分所得税ヨリ本法ヲ適用ス但シ大正二年分ニ限リ第八條ノ毎年四月中ハ大正二年五月三十一日迄、第三十條ノ八月三十日ハ九月三十日、第四十二條ノ九月一日ヨリ三十日限ハ十月一日ヨリ十五日限トス

本法施行ノ際現ニ所得調査委員及補關員タル者ノ任期ハ大正二年五月末日ヲ以テ終了ス

ノ地ヲ以テ納税地トシ住所ナキトキハ居所ノ地ヲ以テ納税地トス但シ住所地以外ニ在ル納税者ハ申告シテ居所地ニ於テ所得税ヲ納ムルコトヲ得 此ノ法律施行地ニ住所又ハ居所ナキ者ハ納税地ヲ定メ政府ニ申告スヘシ申告ナキトキハ政府其ノ納税地ヲ指定ス

第四十五條 納税義務者納税地ニ現住セサルトキハ其ノ所得税ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲ニ納税管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ

第四十六條 所得金額ヲ隱蔽シテ逋税シタル者ハ其ノ逋税金高三倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス但自首スル者ハ其ノ税金ヲ追徴シ其ノ罪ヲ問ハス

第四十七條 所得ノ調査又ハ審査ニ干與スル者其ノ調査又ハ審査ニ關スル事項ヲ他ニ漏洩シタルトキハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ニ依リ處罰セラレタル者ハ其ノ職ヲ失フモノトス

第四十七條ノ二 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條

●同 施行規則

明治三十二年三月勅令第七八號 改正 三十五年勅令第二五四號 三十八年勅令五十五號 大正二年第六五號

朕所得税法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム 所得税法施行規則

第一條 所得税法第四條ノ三ニ依リ總收入金額ヨリ控除スヘキモノハ種苗蠶種肥料ノ購買費、家畜其ノ他ノ飼養料、仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費、其ノ借入料、場所物件又ハ業務ニ係ル公課、雇人ノ給料其ノ他其ノ收入ヲ得ルニ必要ナル經費ニ限ル但シ家事上ノ費用及之ト關聯スルモノハ之ヲ控除セス

山林ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ其ノ立竹木ノ所得ハ之ヲ山林伐採ノ所得トス

第二條 第三種ノ所得金額ハ申告、調査又ハ決定當時ノ現況ニ依リ所得税法第五條ノ所得ヲ除キ之ヲ算出スヘシ

第三條 第一種ノ所得ニ付納税義務アル法人ハ每事業年度決算確定ノ日ヨリ七日内ニ所轄稅務署ニ所

得稅法第七條ノ申告ヲ爲スヘシ

株式會社又ハ株式合資會社ハ其ノ事業年度末日ノ現在ニ依リ株主又ハ社員ノ數ヲ併セテ申告スヘシ但シ會社カ無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ其ノ無記名式ト爲スコトヲ請求シタル株主ノ數ヲ附記スヘシ

第四條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ所得ノ種類及金額ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ但シ俸給、給料、手當、歲費ニ付テハ其收入豫算年額ヲ併セテ申告スヘシ

所得稅法第三條第六項ニ依リ同居者ノ所得ヲ合算スヘキ場合ニ於テハ其ノ所得ヲ區分シ同時ニ之ヲ申告スヘシ

第四條ノ二 所得稅法第十一條但書ニ依リ特ニ所得調查委員ヲ置クヘキ市又ハ北海道沖繩縣ノ區ハ大藏大臣之ヲ指定ス

第五條 所得調查委員ノ定數ハ五人トス但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ大藏大臣ハ之ヲ増減スルコトヲ得

第六條 稅務署長ハ調查委員選舉人ノ選舉前選舉資

者ニ限ル

第十一條 調查委員會ノ會長出席セサルトキハ出席シタル調查委員中ノ年長者之ヲ代理スヘシ

第十一條ノ二 調查委員會ノ開會日數ハ各調查委員會ノ區域内ニ於ケル前年所得稅納稅者ノ數ニ從ヒ左ノ如ク之ヲ定ム

- 五千人以上ナルトキ 三十日以内
- 三千人以上ナルトキ 二十五日以内
- 千人以上ナルトキ 二十日以内
- 五百人以上ナルトキ 十五日以内
- 五百人未満ナルトキ 十日以内

第十二條 調查委員會ノ決議ハ會長ヨリ之ヲ稅務署長ニ通知スヘシ

第十三條 稅務署長ハ所得稅法第九條第三十條第三十一條ニ依リ所得金額ヲ決定シ之ヲ納稅義務者ニ通知ス可シ

第十四條 所得稅法第二十六條ニ依リ審査ヲ求ムトスル者ハ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ稅務署長ヲ經由シ稅務監督局長ニ申出ツヘシ

第十五條 各稅務監督局所轄内ニ審査委員會ヲ置ク

格ヲ有スル者ノ住所氏名ヲ其ノ市區町村長又ハ戶長ニ通知スヘシ

第七條 調查委員選舉人ノ選舉ヲ執行スルトキハ市區町村長又ハ戶長ハ其ノ選舉資格ヲ有スル者二人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ

第七條ノ二 調查委員選舉人ノ選舉終了シタルトキハ市區町村長又ハ戶長ハ當選人ノ氏名ヲ稅務署長ニ報告スヘシ

第七條ノ三 稅務署長所得稅法第二十一條ニ依リ調查委員選舉ノ期日ヲ公示シタルトキハ同時ニ之ヲ調查委員選舉人ニ通知スヘシ

第八條 調查委員ノ選舉ヲ執行スルトキハ稅務署長ハ調查委員選舉人二人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ

第九條 調查委員選舉人調查委員及補闕員ノ選舉ニ於テ投票ニ記載シタル人員其ノ選舉スヘキ定數ニ超エタルトキハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次棄却スヘシ

第十條 調查委員又ハ補闕員ヲ辭スルコトヲ得ル者ハ稅務署長ニ於テ已ムヲ得スト認ムヘキ事故アル

第十六條 收稅官吏ヲ以テスヘキ審査委員ハ大藏大臣之ヲ命シ調查委員ヲ以テスヘキ審査委員ハ稅務監督局所轄内ノ調查委員之ヲ選舉ス

第十七條 審査委員ノ選舉事務ハ稅務監督局長之ヲ執行ス

第十八條 審査委員ノ選舉ヲ執行セムトスルトキハ稅務監督局長選舉期日ヲ定メ所轄内調查委員ノ氏名ト共ニ之ヲ各調查委員ニ通知スヘシ

第十九條 審査委員ノ選舉ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル
選舉人ハ自ラ投票所ニ至リ被選舉人一人ノ氏名ヲ記載シテ投票スヘシ

投票ハ郵便ヲ以テ送附スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ投票時間ノ終了スル迄ニ到達セサリシ投票ハ無効トス

第二十條 稅務監督局長ハ所轄内調查委員二人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ

第二十一條 選舉ハ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數同シトキハ年長者ヲ取り同年月ナ

ルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 審査委員ノ選舉終了シタルトキハ稅務監督局長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第二十三條 審査委員ハ稅務監督局所轄内ニ於テ調査委員ノ改選アル毎ニ之ヲ改選ス

第二十四條 審査委員會ハ改選後第一回開會ノ初ニ於テ審査委員會中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第二十五條 審査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニアラサレハ決議スルコトヲ得ス

第二十六條 審査委員會ノ會長出席セサルトキハ出席シタル審査委員中ノ年長者之ヲ代理スヘシ

第二十七條 審査委員ハ自己ノ所得金ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第二十八條 稅務監督局長又ハ其ノ代理官ハ審査委員會ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十九條 審査委員會ノ決議ハ會長ヨリ之ヲ稅務

監督局長ニ通知スヘシ

第三十條 稅務監督局長ハ所得稅法第三十七條ニ依リ所得金額ヲ決定シ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第三十一條 所得稅法第三十三條ノニ依リ調査ヲ提出スル場合ニ於テ手當ニ付テハ前年分支拂金額ヲモ調査ニ記載スヘシ

第三十二條 所得稅法第三十三條ノニ依リ調査ヲ提出スル義務アル者ハ毎年四月中ニ所轄稅務署ニ之ヲ提出シ其ノ年一月一日以後調査提出ノ時迄ニ金額ニ異動アリタルモノニ付テハ異動前ノ金額異動月日及其ノ事由ヲ調査ニ附記スヘシ

第三十三條 前項ノ調査ヲ提出シタル後六月三十日迄ノ間ニ異動アリタルトキハ七月十日迄ニ其ノ異動調査ヲ提出スヘシ

第三十四條 前條ノ調査ヲ提出シタル者ニ對シテハ其ノ請求ニ因リ其ノ調査ニ記載シタル一件一人毎ニ金五厘ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ交付ス

第三十五條 前項ノ金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ明細書ヲ添附シ七月三十一日迄ニ所轄稅務署ニ之ヲ請求スヘシ

第三十六條 前項ノ金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ明細書ヲ添附シ七月三十一日迄ニ所轄稅務署ニ之ヲ請求スヘシ

第三十七條 前項ノ金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ明細書ヲ添附シ七月三十一日迄ニ所轄稅務署ニ之ヲ請求スヘシ

第三十八條 前項ノ金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ明細書ヲ添附シ七月三十一日迄ニ所轄稅務署ニ之ヲ請求スヘシ

第三十九條 前項ノ金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ明細書ヲ添附シ七月三十一日迄ニ所轄稅務署ニ之ヲ請求スヘシ

第四十條 前項ノ金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ明細書ヲ添附シ七月三十一日迄ニ所轄稅務署ニ之ヲ請求スヘシ

第四十一條 前項ノ金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ明細書ヲ添附シ七月三十一日迄ニ所轄稅務署ニ之ヲ請求スヘシ

第四十二條 前項ノ金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ明細書ヲ添附シ七月三十一日迄ニ所轄稅務署ニ之ヲ請求スヘシ

第四十三條 前項ノ金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ明細書ヲ添附シ七月三十一日迄ニ所轄稅務署ニ之ヲ請求スヘシ

第四十四條 前項ノ金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ明細書ヲ添附シ七月三十一日迄ニ所轄稅務署ニ之ヲ請求スヘシ

第四十五條 前項ノ金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ明細書ヲ添附シ七月三十一日迄ニ所轄稅務署ニ之ヲ請求スヘシ

第四十六條 前項ノ金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ明細書ヲ添附シ七月三十一日迄ニ所轄稅務署ニ之ヲ請求スヘシ

第四十七條 前項ノ金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ明細書ヲ添附シ七月三十一日迄ニ所轄稅務署ニ之ヲ請求スヘシ

第四十八條 前項ノ金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ明細書ヲ添附シ七月三十一日迄ニ所轄稅務署ニ之ヲ請求スヘシ

第四十九條 前項ノ金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ明細書ヲ添附シ七月三十一日迄ニ所轄稅務署ニ之ヲ請求スヘシ

第五十條 前項ノ金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ明細書ヲ添附シ七月三十一日迄ニ所轄稅務署ニ之ヲ請求スヘシ

第三十二條 [削除]

第三十三條 所得稅法第三條第六項ノ場合ニ於テ同居者所得金額決定後別居スルモ所得金額決定當時ノ稅率ニ依リ其ノ年ノ所得稅ヲ納ムヘシ

第三十四條 公債社債ノ利子ヲ支拂フ者ハ支拂ノ際所得稅金額ヲ控除スヘシ

第三十五條 所得稅ヲ課セサル法人ニシテ無記名ノ公債證券又ハ社債券ヲ取得シタルトキハ其ノ發行者又ハ讓渡人ノ證明ヲ得テ之ヲ利子支拂ノ取扱所ニ通知シ其ノ所有ヲ證明スヘシ

第三十六條 府縣郡市區町村其ノ他公共ノ團體若ハ組合又ハ會社ニ於テ公債社債ノ利子ニ付所得稅ヲ徵收シタルトキハ直チニ拂込書及計算書ヲ添ヘ之ヲ其ノ所在地ノ金庫ニ拂込ムヘシ

第三十七條 國債利子支拂ノ取扱銀行ニ於テ國債ノ利子ニ付所得稅ヲ徵收シタルトキハ大藏大臣ノ命令ニ依リ之ヲ本店所在地ノ金庫ニ拂込ムヘシ

第三十八條 所得稅法第四十條ノ申出アリタルトキハ稅務署長ハ左記各號ノ定ムル所ニ依リ所得金額

ヲ改算更訂シ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

一 收入豫算ニ減損ヲ生シタルトキハ其ノ減損額カ收入豫算年額ノ四分ノ一ニ達スル場合ニ限リ其ノ收入豫算年額ヨリ之ヲ控除ス但シ俸給、給料、手當又ハ歳費ノ收入豫算年額又ハ減損額ニ付テハ十分ノ九ヲ乘シタルモノニ依リ之ヲ計算ス

二 所得稅法第四條ノ五ニ依リ控除スヘキ金額ハ前號ニ依リ計算シタル後之ヲ控除ス

第三十八條 稅金ノ一部ヲ納付シタル後所得金額ノ變更ニ因リ所得稅金額ヲ減シタル場合ニ於テ既納ノ稅金カ變更シタル所得稅金額ニ超過スルトキハ其ノ超過額ヲ還付シ、不足スルトキハ其ノ不足額ヲ後納期ニ平分シテ徵收ス

第三十九條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者納稅地ノ稅務署管轄以外ニ於テ所得ヲ取得スルトキハ納稅地ヲ其ノ地ノ稅務署ニ申告スヘシ

第四十條 納稅義務者住所以外ノ地ニ於テ所得稅ヲ納メムトスルトキ又ハ所得稅施行地ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ納稅地ヲ定メ其ノ地ノ稅務署

ニ申告スヘシ

第四十一條 納稅義務者納稅地ヲ變更スルトキハ其ノ旨新納稅地ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第四十二條 納稅義務者帝國外ニ住所若ハ居所ヲ移

ストキハ其ノ旨稅務署ニ申告スヘシ

第四十三條 納稅義務者納稅管理人ヲ定メタルトキ

ハ其ノ氏名及住所又ハ居所ヲ納稅地ノ稅務署ニ申告スヘシ

附則 (大正二年第六五號)

本令ハ大正二年法律第十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ大正二年ニ限り第三十一條ノ二ノ毎年四月中ハ大正二年五月三十一日迄、六月三十日ハ七月三十一日、七月十日ハ八月十日、第三十一條ノ三ノ七月三十一日ハ八月三十一日トス

所得稅法施行規則第三十六條第一項ニ依ル拂込書ハ第一號書式ニ計算書ハ第二號書式ニ準シテ調製スヘシ

金庫ニ於テ所得稅法施行規則第三十六條ニ依リ所得稅金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第二號書式ノ領收書ヲ拂込者ニ交付シ同號書式ノ通知書ヲ歲入徵收官ニ送

九 絹、亞麻又ハ毛ノ織物

前項第九號ノ物產ノ製造業ニ付テハ動力ヲ以テ運轉スル機械ヲ使用シ幅鯨尺一尺八寸以上及長鯨尺三十尺以上ノ織物ノミヲ製造スル者ニ限ル

第二條 前條ノ製造業ヲ繼續シ又ハ繼續ト認ムヘキ事實アル者ニ付テハ前ノ製造業者カ所得稅ノ免除期間内ニ在ルトキハ其ノ免除期間ヲ繼承シ免除期間内ニ在ラサルトキハ免除ヲ受クルコトヲ得ス

第三條 第一條ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ所得稅法

第七條又ハ第八條ノ規定ニ依リ所得ヲ申告スルト

キ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ第一條ノ製造業ヨリ生スル所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スルトキハ第一條ノ製造業ヨリ生スル所得ト其ノ他ノ所得トヲ區別シタル計算書ヲ添附スヘシ

第四條 前條ノ申請アリタルトキハ其ノ免除スヘキ所得ヲ調査シテ申請者ノ所得ヨリ之ヲ控除シ所得稅法第三十五條ノ通知ヲ爲ストキ其ノ金額ヲ附記スヘシ但シ控除ノ結果納稅義務ナキニ至リタルトキハ單ニ其ノ旨通知スヘシ

付スヘシ其計算書アルモノハ通知書ニ添付スヘシ

所得稅ヲ免除スヘキ製造業指定ノ件

大正二年勅令第六九號

- 第一條 左ニ掲グル物產ノ製造業ヲ營ム者ニハ所得稅法第五條ノ二ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除ス
- 一 金、銀、鉛、亞鉛、鐵又ハ「ハアルミニウム」ノ地金
 - 二 鐵ノ條、竿、テーパー形アングル形類、軌條、板、線及管(鑄製管ヲ除ク)
 - 三 銅ノ合金ノ條、竿、板及管
 - 四 汽鐘、原動機(機關車ヲ含ム)及動力ヲ以テ運轉スル鐵製ノ機械
 - 五 燐、曹達灰、苛性曹達、硫酸アムモニウム、石炭酸、クロール酸加里及グリセリン
 - 六 製紙用バルブ
 - 七 板硝子
 - 八 コンデンストミル

第五條 第三條ノ申請ヲ爲シタル者ハ收稅官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ帳簿物件ノ検査ヲ受クヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前開始シタル第一條ノ製造業ニ付テハ本令ヲ適用セス

第五章 營業稅法

明治二九年三月法律第三三號

改正 三二年第三三號、三五年第一八號、四三年第三〇號、五四年第三九號、大正三年第二〇號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル營業稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

營業稅法

第一條 左ニ掲グル營業ヲ爲ス者ニハ營業稅ヲ課ス

- 一 物品販賣業
- 一 銀行業
- 一 保險業
- 一 金錢貸付業
- 一 物品貸付業
- 一 製造業

- 一 運送業
 - 一 倉庫業
 - 一 運河業
 - 一 棧橋業
 - 一 船舶碇繋場業
 - 一 貨物陸揚場業
 - 一 鐵道業
 - 一 請負業
 - 一 印刷業
 - 一 出版業
 - 一 寫真業
 - 一 貸席業
 - 一 旅人宿業
 - 一 料理店業
 - 一 周旋業
 - 一 代理業
 - 一 仲立業
 - 一 問屋業
 - 一 信託業
- 第二條 營業税ヲ課スヘキ物品販賣業ハ一定ノ店舗

其ノ他ノ營業場ヲ設ケ物品ノ卸賣又ハ小賣ヲ爲ス者ヲ謂フ
左ノ諸業ハ前項ニ該當セサルモ仍物品販賣業ト見做ス

- 一 一定ノ製造場ナク職工ヲ使役スルコトナク原料ヲ供給シ工錢ヲ支拂ヒ物品ヲ製造セシメテ販賣スル者
 - 二 一定ノ製造場ヲ設ケス物品ヲ製造シテ販賣スルモノ
 - 三 牧場ニ非サル場所ニ於テ飼料ヲ購求シ家畜又ハ家禽ヲ飼養シ之ヲ賣リ又ハ鶏卵、牛乳等其ノ產物ヲ販賣スル者
 - 四 魚介類ヲ養殖シテ之ヲ販賣スル者
 - 五 動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノヲ販賣スル者
- 一箇年ノ賣上金額二千圓未滿ノ者ニハ營業税ヲ課セス
- 第四條ノ營業者其ノ製造場區域内ニ於テ製造品ヲ販賣シ及別ニ營業場ヲ設ケ其ノ製造品ノ卸賣營業ヲ爲スモ物品販賣業トセス

第三條 營業税ヲ課スヘキ金錢貸付業及物品貸付業ハ一定ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ設ケ貸付ノ業ヲ營ム者ヲ謂フ普通ニ物品ト稱セサルモノノ貸付ヲ爲スモ亦同シ

第六條 倉庫ヲ備ヘテ貨物ヲ預リ倉敷料其ノ他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受クル者ヲ倉庫業トシテ營業税ヲ課ス

第四條 營業税ヲ課スヘキ製造業ハ一定ノ製造場ヲ設ケ職工勞役者ヲ使役シテ物品ヲ製造シ又ハ物品製造ノ一部ヲ助成スル者ヲ謂フ

第七條 印刷業、出版業、寫真業ニシテ從業者三人以上ヲ使用セサル者及請負業ニシテ請負金額一箇年二千圓未滿ノ者ニハ營業税ヲ課セス

瓦斯電氣ノ供給ヲ爲ス者及物品ノ修理ヲ爲シ又ハ穀物ヲ精白搗碎シ又ハ染物ヲ爲ス者ハ前項製造業ト見做ス

第八條 貸料又ハ其ノ他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受ケ客室又ハ集會場ヲ貸ス者ヲ席貸業トシテ營業税ヲ課ス但シ建物賃貸價格百圓未滿ノ者ニハ營業税ヲ課セス

資本金千圓未滿ノ者又ハ職工勞役者ヲ通シテ三人以上ヲ使用セサルモノニハ營業税ヲ課セス

第九條 營業税ヲ課スヘキ旅人宿業ハ飲食物ヲ供スルト否トニ拘ラス旅客ヲ宿泊セシメ又ハ人ヲ寄宿セシメ從業者四人以上ヲ使用スル者トス但シ木賃宿ニハ營業税ヲ課セス

第五條ノ一 運賃又ハ手數料ヲ受ケテ旅客貨物ノ運送ヲ爲シ又ハ其ノ取扱ヲ爲ス者ヲ運送業トシテ營業税ヲ課ス但シ從業者三人以上ヲ使用セサル者ニハ營業税ヲ課セス

第十條ノ一 營業税ヲ課スヘキ料理店業ハ從業者四人以上ヲ使用シ客室ヲ設ケテ飲食物ヲ販賣スル者トス

第十條ノ二 營業税ヲ課スヘキ周旋業、代理業、仲

立業、問屋業、信託業ハ一箇年報償金額二百圓以上ノ者トス

第十一條 左ニ掲クル營業ニハ營業稅ヲ課セス
一 政府ヨリ發行スル印紙、切手類ノ賣捌

二 自己ノ採掘又ハ採取シタル鑛物ノ販賣
三 度量衡ノ製作、修覆、販賣
第十二條 營業稅ハ左ノ課稅標準及稅率ニ依リ毎年之ヲ賦課ス

業名	課稅標準	稅率
物品販賣業	賣上物賃貨價	卸賣 <small>甲</small> 萬分ノ八 小賣 <small>乙</small> 萬分ノ十一 萬分ノ三十一
銀行保險業	資本賃貨價	千分ノ四、五
金貨貸付業	資本賃貨價	千分ノ七、十
製印刷業	資本賃貨價	千分ノ六
寫出業	資本賃貨價	千分ノ七、十
運送業、運河業、棧橋業、船舶碇繋場業、貨物陸揚場業	資本賃貨價	千分ノ七、十
倉庫業	賃貨價	千分ノ八、十
鐵道業	收入賃貨價	千分ノ二十
請負業	請負者ノ内職工勞役	一人毎ニ金五十錢
席賃業	賃貨價	一人毎ニ金二十圓
料理店業	賃貨價	一人毎ニ金十五圓
旅人宿業	賃貨價	一人毎ニ金二十圓
周旋業、代理業、仲立業、問屋業、信託業	報償業	一人毎ニ金二十圓

物品販賣業中米、麥、豆、石油、肥料、鹽、煙草薪炭ヲ販賣スル者ノ賣上金額ニハ卸賣、小賣共ニ甲ノ稅率ヲ適用シ滿、白絹絲、白絹布、棉花、綿、白絹絲、白綿布、白麻絲、白麻布、紙、麥稈眞田、麻眞田、經木眞田、花苳、砂糖、麥粉、燐寸、銅鋼鐵地ヲ販賣スル者ノ賣上金額ニハ卸賣ニ在リテハ甲、小賣ニ在リテハ乙ノ稅率ヲ適用シ其ノ他ノ物品ヲ販賣スル者ノ賣上金額ニハ卸賣、小賣共ニ乙ノ稅率ヲ適用ス

迄ニ營業名及課稅標準ヲ詳記シ政府ニ申告スヘシ
第二十一條ノ期間内ニ在ル營業者及他ノ法令ニ依リ營業稅ノ免除ヲ受クル營業者ニ付テモ亦同シ
新ニ開業シタル者ハ其ノ際前項ノ申告ヲ爲スヘシ
第十三條ノ二 納稅義務アル營業者廢業シタルトキハ其ノ際政府ニ申告スヘシ
第十四條 同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ第十二條ノ課稅標準ニ依リ各別ニ營業稅ヲ課ス但シ課稅標準トナルヘキモノヲ共通シテ使用スルトキハ其ノ一二就テ計算ス其ノ稅率異ナルトキハ重キ

ニ從フ

第十五條 物品販賣業、請負業、席貸業、旅人宿業、料理店業、周旋業、代理業、仲立業、問屋業、信託業ハ各店舗其ノ他ノ營業場毎ニ營業稅ヲ課ス前項ニ掲ケサル營業ニシテ店舗其ノ他ノ營業場數箇所アルトキ其ノ資本ヲ區分シタルモノハ各別ニ營業稅ヲ課ス其ノ資本ヲ區分セサルモノハ合算シテ之ヲ課ス但シ内國ト外國トニ涉リ店舗其ノ他ノ營業場數箇所アルモノニシテ資本ヲ區別セサルモノハ内國ニ於ケル課稅標準ヲ見積リ主タル店舗其ノ他ノ營業場内國ニ在ルトキハ合算シテ之ヲ課シ内國ニ在ラサルトキハ各別ニ之ヲ課ス

第十六條 第十三條ニ依リ届出ヘキ課稅標準ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ計算ス但シ新ニ開業シタル者ハ豫算ヲ以テ之ヲ定ム

一 賣上金、收入金、請負金及報償金ハ前年中ノ總額ニ依ル但シ前年中ニ開業シタル者ハ豫算ニ依ル

二 資本金、運轉資本金建物賃賃價格ハ前年中ノ平均額ニ依ル

三 從業者ハ前年中各月ニ於ケル最多數ノ平均ニ依ル但シ一人未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ一人トス

資本金額及運轉資本金額ノ算定方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 製造業ノ資本金額カ前年ノ資本金額ニ對シ五分ノ一以上増加シタルトキハ其ノ増加額ハ二年間之ヲ課稅標準ヨリ控除ス但シ二年繼續シテ資本金ヲ増加シタル場合ニ於テ前年ノ資本金額ニ對シ五分ノ一以上増加シタルトキハ其ノ年ニ限り前前年ニ對スル増加額ヲ控除ス

第十八條 課稅標準ト爲スヘキ建物賃賃價格ハ貸主カ公課、修繕費其他土地又ハ建物ノ維持ニ必要ナル經費ヲ負擔スル條件ヲ以テ店舗其ノ他營業用ノ土地建物ヲ賃賃スル場合ニ於テ貸主ノ收得スヘキ金額ノ前年中ノ平均額ニ依リ之ヲ算定ス

同一區域内ニ在ル土地建物ト雖直接又ハ間接ニ營業ニ使用セサルモノハ賃賃價格ニ計算セス

第十九條 名義ノ何タルヲ問ハス總テ營業ニ從事スル者ハ從業者トシテ之ヲ計算ス但シ營業者ヲ除ク

營業稅ヲ徵收ス但シ他ニ其ノ營業ヲ繼續スル者アルトキハ前條ニ依ル

ノ外十五歳未滿ノ者及營業者ノ家族ヲ除ク

第二十條 營業稅ハ年額ヲ二分シ第一期ハ其ノ年六月一日ヨリ三十一日限第二期ハ其ノ年十一月一日ヨリ三十日限ヲ以テ納期トス但シ廢業スルトキ未納ノ税金ハ即納トス

第二十一條 新ニ營業ヲ開始スル者ハ開業ノ翌年ヨリ其ノ營業稅ヲ徵收ス

左ニ掲ケル營業ヲ開始スル者ハ開業ノ翌年ヨリ尙三箇年間其ノ營業稅ヲ徵收セス但シ此ノ稅法施行以前ヨリ營業スル者ニシテ其ノ開業ノ翌年ヨリ三箇年ニ滿タサルトキハ本項ニ準據スルコトヲ得

銀行業、保險業、倉庫業、製造業、印刷業、出版業、運送業、運河業、棧橋業、船舶碇繋場業、鐵道業

第二十二條 同一ノ場所ニ於テ六箇月以内ニ前ノ營業者ト同一ノ營業ヲ開始スル者ハ其ノ月ヨリ營業稅ヲ徵收ス

第二十三條 營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ムヘキ事實アルトキハ納期ニ於テ現ニ營業スル者ヨリ營業稅ヲ徵收ス

第二十四條 營業者廢業スルトキハ其ノ廢業ノ月迄

營業稅ヲ徵收ス但シ他ニ其ノ營業ヲ繼續スル者アルトキハ前條ニ依ル

第二十五條 第二十二條及第二十三條ノ場合ニ於テ前ノ營業者第二十一條ノ期間内ニアルトキハ其ノ期間ハ後ノ營業者ニ及フモノトス

第二十六條 (削除)

第二十七條 (削除)

第二十八條 (削除)

第二十九條 左ノ場合ニ於テハ營業者ハ政府ニ其ノ由ヲ申立ツルコトヲ得

一、課稅ノ標準タル資本金額、運轉資本金額、賣上金額、收入金額、請負金額、報償金額又ハ建物賃賃價格半額未滿ヲ減シタルトキ

二、課稅ノ標準タル從業者各月ニ於ケル最多數ノ平均ノ平均人員前年中各月ニ於ケル最多數ノ平均人員二分ノ一未滿ニ減シタルトキ

第三十條 政府ハ前條ノ申出ニ由リ營業者ノ狀況ニ照シ營業稅ヲ減額スルノ必要アリト認ムルトキハ税金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第三十一條 政府ハ第二十九條ノ申出ニ對シ翌年一

月ニ於テ課稅標準ヲ查覈シ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ稅金ヲ減額スルコトヲ得

一 課稅ノ標準タル賣上金額、收入金額、請負金額、報償金額ハ前前年中ノ總額資本金額、運轉資本金額、建物賃賃價格ハ前前年中ノ平均ノ半額ニ達セサルトキ

二 課稅ノ標準タル從業者各月ニ於ケル最多數ノ平均人員前年中各月ニ於ケル最多數ノ平均人員ノ二分ノ一ニ達セサルトキ

課稅標準ノ課稅最低限以下ニ減シタル場合ニ於テモ仍其ノ割合ヲ以テ稅金ヲ徵收ス

第三十二條 第一條ニ掲グル營業者ハ貨物ノ仕入、賣上、受入、貸付、廻送、從業者ノ人員及營業ニ關スル金錢ノ出納ヲ明ニスル爲帳簿ヲ備ヘ營業上一切ノ事實ヲ記載スヘシ

第三十三條 收稅官吏ハ營業ニ關スル帳簿、物件ヲ檢査シ又ハ營業者ニ質問スルコトヲ得

第三十四條 第十三條ノ申告ヲ爲サス若ハ虛偽ノ申告ヲ爲シ又ハ故意ヲ以テ第三十二條ノ帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ一圓以上一

方稅ハ第三十六條ノ規定ニ依ルノ限ニ在ラス明治

二十九年九月ニ屬スル府縣稅又ハ地方稅ノ賦課ヲ受ケタル業體ニ對スル此ノ稅法ノ營業稅ハ明治三十年ニ限り年額四分ノ三ヲ徵收ス

第三十九條 第二十條五月ノ納期ハ明治三十年ニ限り七月トス

第四十條 第十五條第二項但書ノ規定ハ此ノ法律施行地ト此ノ法律ヲ施行セサル地トニ涉リ店舖其ノ他ノ營業場數箇所アル場合ニ之ヲ準用ス

本令ニ改正ヲ加ヘタル明治四三年法律第四十五號ノ附則

本法ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
非常特別稅法中營業稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

本令ニ改正ヲ加ヘタル明治四四年法律第三十九號ノ附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
附則 (法律第二號ノ改正)
本法ハ大正四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十四條ノ二 營業稅ヲ遁脫シタル者ハ脫稅金高三倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首スル者ハ其ノ稅金ヲ追徵シ其ノ罪ヲ問ハス

第三十四條ノ三 營業稅ノ調査又ハ審査ニ參與シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關スル事項ヲ他ニ漏洩シタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ規定ニ依リ處罰セラレタル者ハ其職ヲ失フ第三十五條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用キス

第三十六條 府縣ハ此ノ稅法ニ依リ納稅義務ヲ有スル營業者ノ營業ニ對シ本稅十分ノ二以内ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得此ノ附加稅ノ外府縣又ハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ス

附則

第三十七條 此ノ稅法ハ明治三十年一月一日ヨリ施行ス

第三十八條 明治二十九年九月ニ屬スル府縣稅又ハ地

同 施行規則

大正三年一月勅令第三二九號

朕營業稅法施行規則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

營業稅法施行規則

第一條 營業者ノ店舖其ノ他ノ營業場所在地ヲ管轄スル稅務署ヲ以テ營業稅ノ所轄稅務署トス但シ營業稅法第十五條第二項ノ規定ニ依リ合算シテ營業稅ヲ課スヘキモノニ付テハ主タル店舖其ノ他ノ營業場所在地ヲ管轄スル稅務署ヲ以テ所轄稅務署トス

第二條 營業稅法第十三條第一項ノ申告ハ所轄稅務署ニ之ヲ爲スヘシ

左ニ掲ケタル者ハ開業後十日内ニ所轄稅務署ニ營業稅法第十三條第二項ノ申告ヲ爲スヘシ

一 新ニ營業稅法第一條ノ營業ヲ開始スル者
二 營業稅法第十五條ノ規定ニ依リ店舖其ノ他ノ營業場ニ付各別ニ營業稅ヲ課スヘキ者ニシ

テ新ニ店舗其ノ他ノ營業場ヲ増設スル者
三 新ニ營業税法第一條ノ營業ノ種類ヲ増加スル者

第三條 同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ店舗其ノ他ノ營業場ノ同一ナルト否トヲ問ハス營業ノ種類及各店舗其ノ他ノ營業場毎ニ區分シテ營業税法第十二條ノ課稅標準ヲ計算ス但シ課稅標準ト爲ルヘキモノ數種ノ營業ニ共通スル場合ニ於テハ稅率ノ最重キ營業ニ付稅率等シキトキハ其ノ主タル營業ニ付其ノ課稅標準ヲ計算ス

前項但書ノ規定ニ依リ課稅標準ヲ計算シタル營業ヲ廢止シタルトキハ其ノ翌月ヨリ前項但書ノ規定ニ準シ其ノ課稅標準ヲ他ノ營業ニ付計算シ月割ヲ以テ稅金ヲ徵收ス

前項ノ規定ハ第一項但書ノ規定ニ依リ課稅標準ヲ計算セサル營業ヲ繼續シ又ハ其ノ營業ヲ繼續シタルモノト認ムヘキ事實アル場合ニ於テ後ノ營業者ヨリ徵收スヘキ營業稅ニ付之ヲ準用ス

第四條 同一人ニシテ數箇ノ店舗其ノ他ノ營業場ニ於テ同種ノ營業ヲ爲ストキハ各店舗其ノ他ノ營業

場毎ニ營業税法第十二條ノ課稅標準ヲ計算ス但シ數箇ノ店舗其ノ他ノ營業場ニ共通スル課稅標準ハ主タル店舗其ノ他ノ營業場ノ課稅標準ニ之ヲ計算ス

第五條 營業税法第十五條ノ規定ニ依リ合算シテ營業稅ヲ課スヘキ場合ニ於テハ各店舗其ノ他ノ營業場ヲ通シテ同法第十二條ノ課稅標準ヲ計算ス

第六條 合名會社又ハ合資會社ニ於テ課稅標準ト爲スヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル出資金額、各種ノ積立金額其ノ他名義ノ何タルヲ問ハス積立金ノ性質ヲ有スル資産金額及借入金アルトキハ其ノ出資金額ヲ超過スル金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス

第七條 株式會社又ハ株式合資會社ニ於テ課稅標準ト爲スヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル拂込株式金額、出資金額及各種ノ積立金額其ノ他名義ノ何タルヲ問ハス積立金ノ性質ヲ有スル資産金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス但シ保險會社ニ於ケル保險責任準備金及保險支拂備金ハ之ヲ除算ス

第八條 會社ニ於テ資本金額ヲ課稅標準ト爲ス營業規定ニ依リ計算シタル金額ニ依リ之ヲ算出ス
前項ノ規定ニ依リ算出シタル増加額カ其ノ翌年ニ於テ五分ノ一未滿ニ減シタル場合ニ於テハ其ノ前年ニ對スル増加額ハ之ヲ控除ス

第十二條 會社タルト個人タルトヲ問ハス金錢貸付業又ハ物品貸付業ノ課稅標準ト爲スヘキ運轉資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル貸付及貸付クヘキ金額又ハ物品ノ見積價格ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス

第十三條 課稅標準ト爲スヘキ建物賃賃價格ハ直接又ハ間接ニ營業ニ使用スル土地、家屋其ノ他ノ築造物ニ付之ヲ計算ス但シ店舗其ノ他ノ營業場ノ區域外ニ在ルモノハ直接營業ニ使用スル者ニ限ル
營業用ノ土地、家屋其ノ他ノ築造物ハ店舗其ノ他ノ營業場ト區別スルモ敷地ノ接續スルトキ又ハ使用上接續ト認ムヘキ事實アルトキハ同一區域内ニ在ルモノト看做ス

第十四條 課稅標準ト爲スヘキ建物賃賃價格ハ家屋其ノ他ノ築造物ノ使用ニ必要ナル雜作アルモノトシテ計算シタルモノニ依ル

ト之ヲ課稅標準ト爲ササル營業又ハ營業税法第一條ニ掲ケサル營業トヲ兼營スルトキハ前二條ノ規定ニ依リ計算シタル資本金額ヨリ其ノ兼營スル營業ニ對スル見積資本金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅標準ト爲スヘキ資本金額トス

第九條 會社ノ資本金額計算ノ場合ニ於テ繰越缺損金額アルトキハ其ノ缺損事實ノ確實ナルコトヲ證明シタルモノニ限り資本金額ヨリ之ヲ控除ス
前項繰越缺損金額ハ前年中各月末ニ於ケル金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス

第十條 個人ニ於テ課稅標準ト爲スヘキ資本金額ハ他ヨリ借入レタルト否トヲ問ハス前年中各月末ニ於ケル固定資本及運轉資本ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス但シ銀行業ニ在リテハ第六條及前條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ固定資本ハ直接ニ營業ノ用ニ供スル土地、家屋、築造物、船舶、機械、器具等ノ價格ヲ計算ス其ノ價格ハ見積時價ニ依ル

第十一條 營業税法第十七條ノ規定ニ依リ製造業ノ課稅標準ヨリ控除スヘキ增加資本金額ハ前五條ノ

第十五條 從業者ハ營業主ヲ始メ店舗其ノ他ノ營業場ニ居住スルト否トヲ問ハス又ハ使用ノ常時タルト臨時タルトヲ問ハス總テ直接ニ營業ニ從事スル者ヲ計算ス但シ營業主ヲ除ク外十五歳未滿ノ者及營業主ト同一戸籍内ニ在ル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 相續、讓渡其ノ他原因ノ何タルヲ問ハス營業ヲ繼續スル者ハ繼續後十日内ニ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十七條 營業者住所、氏名若ハ名稱ヲ變更シ又ハ店舗其ノ他ノ營業場ヲ移轉シタルトキハ十日内ニ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ他ノ稅務署所轄内ニ移轉シタルトキハ移轉先ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十八條 營業税法第十五條第二項ノ規定ニ依リ合算シテ營業稅ヲ課スヘキ營業ニ付店舗其ノ他ノ營業場ヲ増設シタル者ハ其ノ増設後十日内ニ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十九條 營業者廢業シタルトキハ十日内ニ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第二十條 營業税法第二十六條ノ六第二項ノ規定ニ依リ前ノ營業者ノ爲シタル納稅又ハ申告ヲ後ノ營業者ノ納稅又ハ申告ト看做スヘキ場合ハ前ノ營業者カ前年分營業稅ヲ納付シタル後ニ於テ後ノ營業者カ同法第二十三條ノ規定ニ該當スルニ至リタル場合ニ限ル

第二十一條 營業税法第二十六條ノ六第三項ノ規定ニ依ル法人ノ代表者ノ申告ハ同法第十三條ノ申告ト同時ニ所轄稅務署ニ之ヲ爲スヘシ代表者變更アリタルトキハ之ヲ申告スヘシ

法人ノ代表者ハ一人ニ限ル所轄稅務署ヲ異ニスル場合ニ於テモ同一タルコトヲ要ス

組合營業ニ付テハ組合員ノ一人ニ限り營業税法第二十六條ノ六ノ規定ニ依リ調査委員選舉人ヲ選舉シ又ハ調査委員、補闕員若ハ調査委員選舉人ニ選舉セラルルコトヲ得

前項ノ組合員ニ付テハ法人ノ代表者ニ關スル規定ヲ準用ス

第二十二條 營業税法第二十六條ノ三ノ規定ニ依リ特ニ營業稅調査委員會ヲ置クヘキ市又ハ北海道、沖繩縣ノ區ハ大藏大臣之ヲ指定ス

第二十三條 營業稅調査委員ノ定數ハ五人トス但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ大藏大臣ハ之ヲ増減スルコトヲ得

第二十四條 稅務署長ハ調査委員選舉人ノ選舉資格ヲ有スル者ノ氏名又ハ名稱、營業名及營業稅ヲ課セラレタル店舗其ノ他ノ營業場所在ノ場所ヲ市區町村長又ハ戸長ニ通知スヘシ

選舉資格ヲ有スル者カ法人ナル場合ニ於テハ其ノ代表者ヲ併セテ通知スヘシ

第二十五條 調査委員選舉人ノ選舉ヲ執行スルトキハ市區町村長又ハ戸長ハ其ノ選舉資格ヲ有スル者二人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ

第二十六條 調査委員選舉人ノ選舉終了シタルトキハ市區町村長又ハ戸長ハ當選人ノ氏名又ハ名稱ヲ稅務署長ニ報告スヘシ

第二十七條 稅務署長調査委員選舉ノ期日ヲ公示シタルトキハ之ヲ調査委員選舉人ニ通知スヘシ

第二十八條 調査委員ノ選舉ヲ執行スルトキハ稅務署長ハ調査委員選舉人二人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ

第二十九條 調査委員選舉人、調査委員及補闕員ノ選舉ニ於テ投票ニ記載シタル人員其ノ選舉スヘキ定數ニ超エタルトキハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次棄却スヘシ

第三十條 稅務署長當選シタル調査委員及補闕員ノ氏名又ハ名稱ヲ公示シタルトキハ之ヲ當選人ニ通知スヘシ

第三十一條 一人ニシテ數選舉區ニ於テ調査委員又ハ補闕員ニ當選シタル場合ニ於テハ當選通知ヲ受ケタル日ヨリ七日内ニ選擇ヲ爲シ就職セサル旨ヲ當該稅務署ニ通知スヘシ

第三十二條 法人ノ代表者個人トシテ調査委員ニ當選シ若ハ補充セラレタルトキ又ハ營業税法第二十六條ノ六第一項但書ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキハ法人ハ更ニ代表者ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第三十三條 調査委員又ハ補闕員ヲ辭スルコトヲ得ル者ハ稅務署長ニ於テ正當ノ認ムヘキ事故アルモノニ限ル

第三十四條 調査委員會ノ會長出席セサルトキハ便

宜ノ方法ニ依リ其ノ代理者ヲ定ムヘシ

第二十五條 調査委員會ノ開會日數ハ各調査委員會ノ區域内ニ於ケル前年決定ノ營業稅納稅人員數ニ從ヒ左ノ如ク之ヲ定ム

五千人以上ナルトキ 三十日以内

三千人以上ナルトキ 二十五日以内

千人以上ナルトキ 二十日以内

五百人以上ナルトキ 十五日以内

五百人未満ナルトキ 十日以内

第三十六條 調査委員會ノ決議ハ會長之ヲ稅務署長ニ報告スヘシ

第三十七條 稅務署長ハ營業稅法第二十六條、第二十六條ノ二十七又ハ第二十六條ノ二十八ノ規定ニ依リ課稅標準ヲ決定シ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第三十八條 營業稅法第二十七條ノ規定ニ依リ審査ヲ求ムトスル者ハ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ所轄稅務署長ヲ經由シ稅務監督局長ニ申出ツヘシ
第二十九條 審査委員ノ選舉事務ハ稅務監督局長之

監督局長ハ當選人ノ氏名又ハ名稱ヲ公示シ之ヲ當選人ニ通知スヘシ

第四十五條 審査委員ハ稅務監督局所轄内ニ於テ調査委員ノ改選アル毎ニ之ヲ改選ス但シ關員ヲ生シタルトキハ臨時ニ補闕選舉ヲ執行スヘシ

第四十六條 審査委員會ハ稅務監督局長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第四十七條 審査委員會ハ毎年開會ノ始ニ於テ審査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第四十八條 審査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第四十九條 審査委員會ノ會長出席セサルトキハ便宜ノ方法ニ依リ其ノ代表者ヲ定ムヘシ

第五十條 審査委員ハ自己又ハ其ノ代表スル法人ノ營業ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第五十一條 稅務監督局長又ハ其ノ代理官ハ審査委員會ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

ヲ執行ス

第四十條 審査委員ノ選舉ヲ執行セムトスルトキハ稅務監督局長ハ選舉期日ヲ定メ所轄内調査委員ノ氏名又ハ名稱ト共ニ之ヲ各調査委員ニ通知スヘシ
第四十一條 審査委員ノ選舉ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル
選舉人ハ自ラ投票所ニ至リ被選舉人一人ノ氏名又ハ名稱ヲ記載シテ投票スヘシ
投票ハ郵便ヲ以テ送付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ投票時間ノ終了スル迄ニ到達セサル投票ハ之ヲ無効トス

第四十二條 審査委員ノ選舉ヲ執行スルトキハ稅務監督局長ハ調査委員二人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ

第四十三條 審査委員ノ選舉ニ於テハ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス投票ノ數同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第四十四條 審査委員ノ選舉終了シタルトキハ稅務

第五十二條 審査委員會ノ決議ハ會長之ヲ稅務監督局長ニ報告スヘシ

第五十三條 稅務監督局長ハ營業稅法第二十八條ノ一ノ規定ニ依リ課稅標準ヲ決定シ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第五十四條 營業者ヨリ營業稅法第二十九條ノ申立アリタルトキハ稅務署長ハ課稅標準計算ノ方法ニ依リ其ノ年營業ノ實況ヲ調査シ同法第三十一條第一項第一號又ハ第二號ノ規定ニ該當スルトキハ課稅標準ヲ更訂シ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第五十五條 營業者店舗其ノ他ノ營業場外ニ居住シ又ハ旅行シ店舗其ノ他ノ營業場ニ在ラサル場合ニ於テ營業稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第五十六條 收稅官吏營業稅法第三十三條ノ規定ニ依リ營業ニ關スル帳簿、物件ヲ検査スルトキハ検査章ヲ其ノ營業者ニ示スヘシ

附則

本令ハ大正四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

債權金額 千分ノ六

但シ差押ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十七 相續財產ノ分離

所有權ニ付テハ

不動産價格 千分ノ六

所有權以外ノ權利ニ付テハ

不動産價格 千分ノ一

十八 請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復

不動産每一箇 金二十錢

十九 假登記 不動産每一箇 金二十錢

二十 (削除)

二十一 附記登記

不動産每一箇 金十錢

但シ一件ニ利稅額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

二十二 登記ノ更正、變更又ハ抹消

不動産每一箇 金十錢

但シ一件ニ付稅額金三十錢ヲ超ユルトキハ

三十錢トス

第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

第三條 船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得

船舶價格 千分ノ三

二 第一號以外ノ家督相續又ハ遺產相續ニ因ル所有權ノ取得

船舶價格 千分ノ三

三 遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得

船舶價格 千分ノ五

四 第一號乃至第三號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得

船舶價格 千分ノ二十五

四ノ二 委付

船舶價格 千分ノ三

五 從來保有セル所有權ノ保存

船舶價格 千分ノ三

六 賃借權ノ取得

船舶價格 千分ノ一

存續期間十年以上

船舶價格 千分ノ二

存續期間ノ定メナキモノ

船舶價格 千分ノ一

但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登録稅ヲ計算ス

七 質權、抵當權ノ取得

債權金額 千分ノ六

但シ債權金額ナキトキ又ハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

八 競賣ノ申立

債權金額 千分ノ六

但シ競賣ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

九 假差押、假處分

債權金額 千分ノ四

但シ一件ニ付稅額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

十 抵當アル債權ノ差押

債權金額 千分ノ六

但シ假差押假處分ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十一 請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復

船舶每一箇 金二十錢

十二 假登記

船舶每一箇 金二十錢

十三 (削除)

船舶每一箇 金十錢

十四 附記登記

船舶每一箇 金十錢

十五 登記ノ更正、變更又ハ抹消

船舶每一箇 金十錢

但シ一件ニ付稅額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル
第三條ノ二 鐵道抵當原簿、輕便鐵道原簿又ハ軌道抵當原簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ一
 - 二 強制競賣、強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ一
 - 三 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金二圓
- 第三條ノ三 工場財團登記簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
- 一 抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ一
 - 二 強制競賣、強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ一
 - 三 假差押、假處分 債權金額 千分ノ一
 - 四、登記ノ更正、變更又ハ抹消 千分ノ一

ヲ十噸トシテ計算ス

第五條 土地臺帳ニ左ノ事項ヲ登録スルトキハ土地所有者ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 新規登録 地價 千分ノ二十
- 二 地價ノ設定 地價 千分ノ十
- 三 地價ノ修正 地價 千分ノ十
- 四 開墾 地價 千分ノ十
- 五 開墾後下年期附與 地價 千分ノ十
- 六 地價据置年期付與 地價 千分ノ十
- 七 新開免租年期延長 地價 千分ノ十
- 八 墾下年期、地價据置年期ノ延長 地價 千分ノ十
- 九 低價年期ノ付與 地價 千分ノ一
- 十 地租條例第二十二條ノ地價ノ修正 地價 千分ノ一
- 十一 地價ノ復舊 地價 千分ノ一

第三條ノ四 礦業財團登記簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ一
 - 二 強制競賣、強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ一
 - 三 假差押、假處分 債權金額 千分ノ一
 - 四 登記ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金二圓
- 第四條 船籍ノ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
- 一 新規登録 每十噸 金五十錢
 - 二 轉籍 每十噸 金十錢
 - 三 除籍 每十噸 金五錢
 - 四 登録ノ變更 船舶每一箇 金十錢
- 船舶ノ噸數ハ總噸數ニ依ル但シ十噸未滿ノ端數ハ十噸トシテ計算ス
石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在テハ積石數百

本條中地價未設定ノ土地ハ近傍類地地價ノ比準ニ依ル

第六條 商事會社其ノ他營利ヲ目的トスル法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ但シ第一號第三號第六號第九號ノ場合ニ於テ稅金額十圓未滿ナルトキハ十圓トス

- 一、合資會社、合資會社設立 財產ヲ目的トスル出資ノ價格 千分ノ四
- 二、合名會社、合資會社出資増加 財產ヲ目的トスル増出資ノ價格 千分ノ四
- 三、株式會社設立 拂込株金額 千分ノ五
- 四 株式會社資本増加 増資拂込株金額 千分ノ五
- 五 株式會社第二回以後ノ株金拂込 毎回拂込株金額 千分ノ五
- 六 株式合資會社設立 拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格 千分ノ五

- 七 株式合資會社資本増加
 - 増資拂込株金額及財産目的トスル株金以外ノ出資ノ價格 千分ノ五
- 八 株式合資會社第二回以後ノ株金拂込
 - 毎回拂込株金額 千分ノ五
- 九 合併又ハ組織變更ニ因ル會社ノ設立
 - 拂込株金額及財産目的トスル株金以外ノ出資ノ價格 千分ノ二
- 十 合併ニ因ル會社資本ノ増加
 - 増資拂込株金額及財産目的トスル株金以外ノ出資ノ價格 千分ノ二
- 十一 社債
 - 拂込金額 千分ノ二
 - 十一ノ二 第二回以後ノ社債拂込 千分ノ二
- 十二 支店設置 每一箇所 金十五圓
- 十三 本店又ハ支店ノ移轉 每一件 金七圓
- 十四 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 每一件 金七圓
- 十五 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 每一件 金七圓

- 但シ商法施行法ニ依リ新ニ登記スヘキ事項ノ登記ハ登記事項ノ變更ト看做ス
- 十六 登記ノ更正又ハ抹消 每一件 金七圓
 - 十六ノ二 合名會社、合資會社設立ノ取消 每一件 金五圓
 - 十七 解散 每一件 金五圓
 - 十八 清算人ノ選任、解任又ハ變更 每一件 金一圓五十錢
 - 十九 清算ノ終了 每一件 金一圓五十錢
- 支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ 每一件金一圓ノ登録稅ヲ納ムヘシ
- 財團法人又ハ營利ヲ目的トセサル社團法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
- 一 法人ノ設立、法人設立後ノ事務所設置、事務所ノ移轉 每一件 金一圓五十錢
 - 二 登記事項ノ變更消滅又ハ廢止、登記ノ更正又ハ抹消、解散、清算人ノ選任解任又ハ變更 每一件 金七圓
 - 二 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 每一件 金七圓
 - 三 船舶管理人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 每一件 金七圓
 - 四 商法第五條第七條ニ依ル登記 每一件 金三圓
 - 五 民法第七百九十四條第七百九十五號及第七百九十七條ニ依ル登記 每一件 金三圓
 - 六 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 每一件 金一圓五十錢
 - 七 登記ノ更正又ハ抹消 每一件 金一圓五十錢
- 支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ 每一件金五十錢ノ登録稅ヲ納ムヘシ

- 清算ノ終了 每一件 金三圓
 - 四 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 每一件 金一圓五十錢
 - 五 登記ノ更正又ハ抹消 每一件 金一圓五十錢
 - 六 解散 每一件 金七十錢
 - 七 清算人ノ選任、解任又ハ變更 每一件 金七十錢
 - 八 清算ノ終了 每一件 金七十錢
- 主タル事務所ニアラサル事務所所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金五十錢ノ登録稅ヲ納ムヘシ
- 産業組合、産業組合聯合會又ハ産業組合中央會又ハ漁業組合、漁業組合聯合會ニシテ登記ヲ受クル場合ニハ前二項ノ規定ニ依ル但シ産業組合原簿又ハ産業組合聯合會原簿ノ記載ニ付テハ登録稅ヲ課セス
- 第六條ノ二 左ノ事項ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
- 一 商號ノ新設又ハ取得

- 一 新規登録 金二十圓
- 二 登録換 金十圓

三 取消ノ請求 金一圓

第八條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ醫師、藥劑師、獸醫、蹄鐵工ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 新規登録

- 醫師 金二十圓
- 藥劑師 金十二圓
- 獸醫 金十二圓
- 蹄鐵工 金五圓
- 假開業醫師 金五圓
- 假免許獸醫 金三圓
- 假免許蹄鐵工 金一圓

二 登録事項ノ變更 每一件金五十錢

第九條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ海員ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 新規登録
 - 甲種船長 金十五圓
 - 甲種一等運轉士 金十圓
 - 甲種二等運轉士 金六圓
 - 乙種船長 金十圓

乙種一等運轉士 金四圓

乙種二等運轉士 金三圓

丙種船長 金六圓

丙種運轉士 金二圓

機關長 金十五圓

一等機關士 金十圓

二等機關士 金六圓

三等機關士 金三圓

水先人 金二十圓

二 登録事項ノ變更

每一件 金五十錢

第十條 著作權ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 著作權ノ移轉

相續 每一件 金一圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金五圓

二 著作權ヲ目的トスル質權ノ設定

債權金額 千分ノ六

三 前號ノ權利ノ移轉

四 前二號ノ權利ノ移轉

相續 每一件 金五十錢

相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金二圓

五 滯納處分以外ノ原因ニ依ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限

債權金額 千分ノ四

六 登録ノ更正、變更又ハ抹消

每一件 金五十錢

債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

第十二條 意匠ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 意匠權ノ移轉

相續 每一件 金一圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金二圓

二 實施權ノ設定又ハ保存

每一件 金一圓

相續 每一件 金五十錢

相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金一圓

四 無名又ハ變名著作物ノ著作者ノ實名登録

每一件 金二圓

五 登録ノ更正、變更又ハ抹消

每一件 金二十錢

債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

第十一條 特許ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 特許權ノ移轉

相續 每一件 金一圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金十圓

二 使用權又ハ實施權ノ設定又ハ保存

每一件 金五圓

三 前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定

債權金額 千分ノ六

- 三 前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定
債權金額 千分ノ六
 - 四 前二號ノ權利ノ移轉
相續 每一件 金五十錢
相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金一圓
 - 五 滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限
債權金額 千分ノ四
 - 六 登録ノ更正、變更又ハ抹消
每一件 金二十錢
- 債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
- 第十二條ノ二 實用新案ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
- 一 實用新案權ノ移轉
相續 每一件 金一圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金五圓

- 二 使用權又ハ實施權ノ設定又ハ保存
每一件 金二圓
 - 三 前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定
債權金額 千分ノ六
 - 四 前二號ノ權利ノ移轉
相續 每一件 金五十錢
相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金一圓
 - 五 滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限
債權金額 千分ノ四
 - 六 登録ノ更正、變更又ハ抹消
每一件 金二十錢
- 債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
- 第十三條 商標ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ但シ聯合商標ニ在リテハ各其ノ半額トス
- 一 商標權ノ移轉

- 相續 每一件 金一圓
 - 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金十圓
 - 二 登録ノ更正、變更又ハ抹消
每一件 金五十錢
- 第十四條 鑛業權ニ關シ鑛業原簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
- 一 試掘權ノ設定 每一件 金百圓
 - 二 試掘權ノ變更
增區又ハ増減區 每一件 金四十五圓
減區 每一件 金十圓
 - 三 試掘權ノ移轉
相續 每一件 金十圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金四十五圓
 - 四 採掘權ノ設定
新規登録 每一件 金二百圓
鑛區合併 每一件 金五十圓
設定鑛區

- 五 鑛區分割 每一件 金五十圓
- 鑛區訂正 每一件 金五十圓
- 增區又ハ増減區 每一件 金百圓
- 減區 每一件 金二十圓
- 六 採掘權ノ移轉
相續 每一件 金二十圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金百圓
- 七 抵當權ノ設定
新規登録 債權金額 千分ノ六
鑛業法第三十五條第二項ニ基キ爲シタル承諾及協定ニ因ル設定 每一件 金五圓
- 八 順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更 每一件 金十圓
- 九 抵當權ノ移轉
相續 每一件 金五圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉

- 十 共同鑛業權者ノ脱退 每一件 金十圓
 - 十一 滯納處分以外ノ原因ニ因ル鑛業權又ハ抵當權ノ處分ノ制限 債權金額 千分ノ四
 - 十二 廢業ニ因ル鑛業權ノ消滅 每一件 金五圓
 - 十三 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金十錢
- 債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
- 第十五條 砂鑛業ニ關シ砂鑛業原簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
- 一 砂鑛權ノ設定
 - 新規登録 採取區域河床ハ每二里迄其ノ他ハ每十萬坪迄 金十五圓
 - 砂鑛區合併 每一件 金三圓
 - 砂鑛區分割 設定砂鑛區每一箇

- 二 砂鑛權ノ變更
 - 増區 採取區域河床ハ每二里迄其ノ他ハ每十萬坪迄 金十五圓
 - 減區 每一件 金一圓
 但シ増區ト同時ニ爲ス減區ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 三 砂鑛權ノ移轉
 - 相續 每一件 金五圓
 - 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金十五圓
- 四 抵當權ノ設定
 - 新規登録 債權金額 千分ノ六
 - 砂鑛區ノ合併又ハ分割ノ出願ニ付砂鑛法ニ基キ承諾又ハ協定ニ因ル設定 每一件 金五圓
- 五 順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更 每一件 金十圓
- 六 抵當權ノ移轉
 - 相續 每一件 金五圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

- 七 滯納處分以外ノ原因ニ因ル砂鑛權又ハ抵當權ノ處分ノ制限 債權金額 千分ノ四
 - 八 廢業ニ因ル砂鑛權ノ消滅 每一件 金一圓
 - 九 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金十錢
- 債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
- 第十五條ノ二 漁業權又ハ入漁權ニ關シ免許漁業原簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
- 一 漁業權ノ移轉
 - 相續 每一件 金一圓
 - 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金五圓
 - 二 漁業權ノ持分ノ移轉 千分ノ六

- 相續 每一件 金二十錢
- 相續以外ノ原因ニ因ル移轉
 - 三 入漁權ノ設定 每一件 金一圓
 - 四 入漁權ノ保存 每一件 金三圓
 - 五 入漁權ノ移轉
 - 相續 每一件 金五十錢
 - 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金二圓
 - 六 入漁權ノ持分ノ移轉
 - 相續 每一件 金十錢
 - 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金五十錢
 - 七 質借權ノ取得
 - 相續 每一件 金五十錢
 - 相續以外ノ原因ニ因ル取得 每一件 金二圓
 - 八 先取特權ノ保存又ハ取得
 - 債權金額又ハ工事費用豫算金額 千分ノ六

九 抵當權ノ設定又ハ移轉

設定 債權金額 千分ノ六
相續 每一件 金一圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金二圓

十 競賣、強制管理ノ申立

債權金額 千分ノ六

十一 假差押、假處分

債權金額 千分ノ四

十二 抵當アル債權ノ差押

債權金額 千分ノ六

十三 請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登録ノ回復

每一件 金二十錢

十四 假登録

每一件 金二十錢

十五 附記登録

每一件 金十錢

十六 登録ノ更正、變更又ハ抹消

每一件 金十錢

債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

ヲ得

第十八條 登録稅ハ總テ金一錢以上トス一錢未滿ノ端數ハ一錢トシテ之ヲ計算ス

第十九條 左ニ掲グルモノニハ登録稅ヲ課セス

- 一 政府自己ノ爲ニスル登記又ハ登録
- 二 府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル不動産ノ登記
- 三 社寺、堂宇ノ敷地及墳墓地ニ係ル登記又ハ登録

四 明治六年第十八號布告地所質入書入規則及

同八年第四百十八號布告建物書入質規則ニ從ヒテ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ付テ債權者ヨリ申請スル登記

第十九條ノ二 登記所カ登記申請者ノ申告シタル課稅標準ノ價格ヲ不相當ト認ムルトキハ其ノ價格ヲ認定シ之ヲ登記申請者ニ告知スヘシ

第十九條ノ三 前條ノ認定ヲ不當トスル登記申請者ハ費用ヲ豫納シテ評價人ノ評價ヲ登記所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ登記所ハ二人ノ評價人

第十六條 左ノ場合ニ於テ不動産又ハ船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 府縣郡市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ニ因ル府縣郡市町村ノ權利ノ取得又ハ其ノ府縣郡市町村ニ所有權ヲ移スニ付爲ス所有權ノ保存不動産又ハ船舶ノ價格 千分ノ一
 - 二 市町村ノ一部ニ屬スル財産ヲ無價名義ニ因リ其ノ市町村ニ移ス場合ニ於ケル市町村ノ權利ノ取得又ハ其ノ府縣郡市町村ニ所有權ヲ移スニ付爲ス所有權ノ保存 千分ノ一
 - 三 法人ノ合併ニ因ル法人ノ權利ノ取得 千分ノ五
- 他ノ規定ニ依リ算出シタル稅額カ前項第三號ニ依ル稅額ヨリ少キトキハ其ノ稅額ニ依ル
- 前二項ノ場合ニ於テ稅金額十錢未滿ナルトキハ十錢トス
- 第十七條 登録稅ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得

ヲ選定シ課稅標準ノ價格ヲ評定セシム評價人ノ評價一致セサルトキハ其ノ平均價格ニ依ル

評定價格カ認定價格ヨリ多キトキハ認定價格ニ依リ申告價格ヨリ少キトキハ申告價格ニ依リ課稅標準ノ價格ヲ定ム

第十九條ノ四 前條ノ評價ニ不服アル登記申請者ハ其ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ七日内ニ管轄地方裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

異議ニ付テノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第十九條ノ五 登記申請者カ評價ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ申告價格ニ相當スル稅額ト認定價格ニ相當スル稅額トノ差額ヲ納付シタルトキハ登記所ハ直ニ登記ヲ爲スヘシ

第十九條ノ六 當該事件ニ關係ヲ有スル者ハ評價人タルコトヲ得

第十九條ノ七 評價人ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ旅費及手當ヲ受ク

第十九條ノ八 評價ニ要シタル費用ハ登記申請者ノ負擔トス但シ評定價格ニ超ヘサルトキハ此ノ限ニ

在ラス

第十九條ノ九 評價ノ費用ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

附則

第二十條 本法ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス
第二十一條 現行法律命令ニ規定スル登記料又ハ手
數料等ニシテ本法ニ規定スル登録税ト重複スルモ
ノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

本令ニ改正ヲ加ヘタリ明治四十二年法律第
四十四號ノ附則

本法ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行前砂鑛採取法ニ依リ砂鑛業ニ關スル出願又
ハ届出ヲ爲シ既ニ手數料ヲ納メタル者ハ砂鑛法ニ依
リテ爲ス其ノ事項ノ登録ニ付更ニ登録税ヲ納ムルコ
トヲ要セス砂鑛法第二十七條第一項ニ依ル登録ニ付
亦同シ

本令ニ改正ヲ加ヘタル明治四十三年三月法
律第十一號ノ附則

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
非常特別税法中登録税ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

類ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ

第二條 登録税額五百圓以上ナルトキハ稅務署ニ申
出テ現金ヲ以テ納ムルコトヲ得

第三條 官廳又ハ公署ヨリ登記若ハ假登記又ハ登録
若ハ假登録ヲ登記所ニ囑託スヘキ場合ニ於テハ登
録税ヲ納ムヘキ者其ノ官廳又ハ公署ニ相當印紙又
ハ現金ノ領收證ヲ提出シ其ノ官廳又ハ公署ハ囑託
書ニ其ノ印紙ヲ貼用シ又ハ其ノ證書ヲ添付シテ登
記所又ハ登録官廳ニ送付スヘシ

第四條 土地臺帳ノ登録ニ付登録税ヲ納ムヘキ場合
ニ於テ書類ヲ提出セサルトキハ稅務署ノ通知ニ依
リ相當印紙又ハ現金ノ領收證ヲ稅務署ニ提出スヘ
シ

第五條 土地臺帳ノ登録ニ付登録税ヲ納ムヘキ場合
ニ於テ相當印紙ヲ貼用セス若ハ提出セス又ハ現金
納付ノ手續ヲ爲ササルトキハ納税通知書ヲ發シ現
金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得

第五條ノ二 管海官廳カ船舶法第十四條第二項ニ依
リ抹消ノ登録ヲ爲シ其ノ旨稅務署ニ通知シタルト
キハ稅務署ハ納税告知書ヲ發シ現金ヲ以テ登録税

本令ニ改正ヲ加ヘタル明治四十三年法律第
六十四號ノ附則

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則 (大正三年第二一號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●登録税法中改正施行期日

大正三年一〇月勅令第二二四號

朕大正三年法律第二十一號施行期日ノ件ヲ裁可シ玆
ニ之ヲ公布セシム
大正三年法律第二十一號ハ大正三年十一月十五日ヨ
リ之ヲ施行ス

●同 施行規則

明治三二年五月勅令第二〇五號
改正 三八年第七七號、大正三年第二二五號

朕登録税法施行規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム
登録税法施行規則

第一條 印紙ヲ以テ納ムル登録税ハ登録ニ關スル書

ヲ徵收スヘシ

第六條 登録税法第十九條ノ三ニ依リ評價ノ請求ヲ
爲ス者アルトキハ登記官吏ハ豫納スヘキ費用ヲ指
示スヘシ

登記申請者ノ豫納スヘキ費用ハ評價人ノ手當、旅
費及手續ノ費用ニ相當スル金額トス

第七條 登録税法第十九條ノ七ニ依ル評價人ノ旅費
ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ定メ其ノ支給ニ付テハ内國
旅費規則ヲ準用ス

- 一 鐵道賃一哩ニ付金三錢
- 二 船賃一海里ニ付金四錢
- 三 車馬賃一里ニ付金二十五錢
- 四 宿泊料一夜ニ付金一圓五十錢
- 五 日當一日ニ付金一圓

第八條ニ依リ手當ヲ支給スヘキ日ニ付テハ日給ヲ
支給セス

第八條 登録税法第十九條ノ七ニ依ル評價人ノ手當
ハ評價ニ從事シタル日數ニ應シ一日金一圓以上五
圓以下ノ範圍内ニ於テ登記所ノ見込ヲ以テ之ヲ定
ム

附則 (大正三年二二五號)

本令ハ大正三年十一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

第七章 相續稅法

明治三十八年一月法律第一〇號
改正 四三年第四號、大正三年第二二號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル相續稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

相續稅法

第一條 相續開始シタルトキハ開始地カ帝國内ニ在

ルト否トヲ問ハス又被相續人若ハ相續人カ帝國臣

民タルト否トヲ問ハス本法施行地ニ在ル相續財產

ニハ本法ニ依リ相續稅ヲ課ス

第二條 被相續人ハ本法施行地ニ住所ヲ有スルトキ

ハ左ニ掲ケル財產ヲ以テ本法施行地ニ在ル相續財

產トス

一 本法施行地ニ在ル動產及不動產

二 本法施行地ニ在ル不動產ノ上ニ存スル權利

三 前二號ニ掲ケタルモノ以外ノ財產權

被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有セサルトキハ前

二 其ノ財產ヲ目的トスル留置權、特別ノ先取
特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラルル債
務

三 其ノ財產ニ關スル贈與ノ義務

永代借地權ハ相續稅ノ課稅價格ニ算入セス

公共團體又ハ慈善其ノ他ノ公益事業ニ對シ爲シタ

ル贈與及遺贈ハ課稅價格ニ算入セス

第四條 相續財產ノ價格ハ相續開始ノ時ノ價額ニ依

ル

船舶、地上權、永小作權及定期金ニ付テハ政府ハ

左ノ方法ニ依リ其ノ價格ヲ評定ス

一 船舶ニ付テハ其ノ製造費中ヨリ製造後ノ年

數ニ應シ一年ニ付其ノ二十五分ノ一宛ヲ控除

シタルモノヲ以テ其ノ價額トス但シ製造後二

十年ヲ經過シタルモノハ製造費ノ五分ノ一ヲ

以テ其ノ價額トス

一年ヲ滿タサル端數ハ之ヲ一年トシテ計算ス

二 地上權ニ付テハ左ノ金額ヲ以テ其ノ價額ト

ス
殘存期間十年以下ナルモノ

項第一號及第二號ノ財產ヲ以テ本法施行地ニ在ル
相續財產トス

船舶ノ所在ハ船籍ノ所在ニ依ル

相續開始前一年内ニ本法施行地内ヨリ本法施行地

外ニ轉シタルモノノ住所又ハ船籍ハ本法施行地内

ニ在ルモノト看做ス

第三條 被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有スルトキ

ハ相續開始ノ際本法施行地ニ在ル相續財產ノ價額

ニ相續開始前一年内ニ被相續人カ本法施行地ニ在

ル財產ニ付爲シタル贈與ノ價額ヲ加ヘ其ノ中ヨリ

左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トス

一 公課

二 被相續人ノ葬式費用

三 債務

被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有セサルトキハ相

續開始ノ際本法施行地ニ在ル相續財產ノ價額ニ相

續開始前一年内ニ被相續人カ本法施行地ニ在ル財

產ニ付爲シタル贈與ノ價額ヲ加ヘタルモノヨリ左

ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トス

一 其ノ財產ニ係ル公課

地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格

二 倍

殘存期間三十年以下ナルモノ

地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格

三 倍

殘存期間五十年以下ナルモノ又ハ存續期間ノ

定メナキモノ

地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格

五 倍

殘存期間百年以下ナルモノ

地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格

七 倍

殘存期間百年ヨリ長キモノ

地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格

十二倍

三 永小作權ニ付テハ左ノ金額ヲ以テ其ノ價額

トス
殘存期間十年以下ナルモノ

永小作權ノ目的タル土地ノ賃貸價格

三 倍

殘存期間三十年以下ナルモノ又ハ存續期間ノ定メナキモノ

永小作權ノ目的タル土地ノ賃貸價格 三倍

殘存期間五十年以下ナルモノ

永小作權ノ目的タル土地ノ賃貸價格 五倍

四 有期定期金ハ其ノ殘存期間ニ於ケル總金額ヲ以テ其ノ價格トス但シ一年ノ定期金ノ二十倍ヲ超ユルコトヲ得ス

五 無期定期金ハ其ノ一年ノ定期金ノ二十倍ヲ以テ其ノ價格トス

六 終身定期金ハ目的トセラレタル人ノ年齢ニ依リ左ノ期間ニ於ケル定期金ノ總額ヲ以テ其ノ價格トス

- 二十歳未満ノ者 十年
- 三十歳未満ノ者 八年
- 四十歳未満ノ者 六年
- 五十歳未満ノ者 四年
- 六十歳未満ノ者 二年

適用シテ之ヲ課ス

六十歳以上ノ者 一年

前項ニ於テ土地ノ賃貸價格ト稱スルハ貸主カ公課修繕費、保険料其ノ他土地ノ維持ニ必要ナル經費ヲ負擔スル條件ヲ以テ之ヲ賃貸スル場合ニ於テ貸主ノ收得スヘキ金額ヲ謂フ

第五條 條件附權利、存續期間ノ不確實ナル權利又ハ訴訟中ノ權利ニ付テハ政府ノ認ムル所ニ依リ其ノ價格ヲ評定ス

第三條ニ依リ控除スヘキ債務金額ハ政府カ確實ト認メタルモノニ限ル

第六條 課稅價格カ家督相續ニ在リテハ千圓、遺產相續ニ在リテハ五百圓ニ滿タサルトキハ相續稅ヲ課セス

第七條 軍人、軍屬ノ戰死又ハ戰爭ノ爲受ケタル傷痍疾病ニ起因シタル死亡ニ因リ相續開始シタルトキハ相續稅ヲ課セス但シ傷痍者又ハ疾病者ニシテ負傷又ハ發病後一年ヲ經過シ死亡シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 相續稅ハ課稅價格ヲ左ノ各級ニ區分シ其ノ各區分ニ對シ相續人ノ種類ニ從ヒ遞次ニ各稅率ヲ

課 稅 價 額	家 督 相 續	
	稅	率
五千圓以下ノ金額	千分ノ十 <small>相續人カ被相續人ノ家族タル直系卑屬ナルトキ</small>	千分ノ十五 <small>相續人カ民法第九百八十五條ニ依リ選定セラレタル者ナルトキ</small>
五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ十二	千分ノ二十
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十四	千分ノ二十五
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十七	千分ノ三十
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十	千分ノ三十五
四萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十五	千分ノ四十
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十	千分ノ四十五
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十五	千分ノ五十
十萬圓ヲ超ユル金額ハ其ノ五萬圓毎ニ(百萬圓ニ至リテ止ム)	千分ノ五ヲ加フ	千分ノ五ヲ加フ

課税 價 額	遺 産 相 續		率
	相續人カ直系尊屬ナルトキ	相續人カ配偶者又ハ直系尊屬ナルトキ	
千圓以下ノ金額	千分ノ十五	千分ノ十七	千分ノ二十五
千圓ヲ超ユル金額	千分ノ十七	千分ノ二十	千分ノ三十
五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十	千分ノ二十五	千分ノ三十五
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十五	千分ノ三十	千分ノ四十
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十	千分ノ三十五	千分ノ四十五
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十五	千分ノ四十	千分ノ五十
四萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十	千分ノ四十五	千分ノ五十五
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十五	千分ノ五十	千分ノ六十
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ五十	千分ノ五十五	千分ノ六十五
十萬圓ヲ超ユル金額ハ其ノ五萬圓毎ニ(百萬圓ニ至リテ止ム)	千分ノ五ヲ加フ	千分ノ五ヲ加フ	千分ノ五ヲ加フ

外國ノ法律ニ依リ開始シタル相續ニ關シテハ遺產

相續ニ關スル税率ヲ準用ス但シ相續人二人以上ア

ル場合ニ於テ其ノ適用スヘキ税率相異ルトキハ其ノ最モ低キ税率ヲ適用ス

第九條 相續人ノ廢除若ハ其ノ取消ニ關スル裁判ノ確定前又ハ相續ノ承認若ハ拋棄前ト雖政府ハ必要ニ依リ其ノ推定家督相續人又ハ推定遺產相續人ニ對スル税率ヲ適用シ相續稅ヲ課スルコトヲ得 相續人アルコト分明ナラサルトキハ税率ノ最モ高キ相續人ニ對スル税率ヲ適用シテ相續稅ヲ課ス 前二項ニ依リ課稅シタル後相續人確定シタルトキハ税率ノ適用ヲ改訂シ税金ノ差額ヲ追徵シ又ハ還付ス

第十條 相續稅ヲ課セラレタル後五年以内ニ於テ更ニ相續開始シタルトキハ前ノ相續額ニ對スル相續稅ニ相當スル相續稅ヲ免除ス 相續稅ヲ課セラレタル後七年以内ニ於テ更ニ相續開始シタルトキハ前ノ相續額ニ對スル相續稅ノ半額ニ相當スル相續稅ヲ免除ス

第十一條 相續人ハ相續開始ヲ知リタル日ヨリ遺言執行者又ハ相續財產管理人ハ就職ノ日ヨリ三箇月以内ニ相續財產ノ目錄及相續財產ノ價額中ヨリ控

除セラルヘキ金額ノ明細書ヲ政府ニ提出スヘシ 相續カ帝國外ニ於テ開始シタルトキ又ハ前項ノ書類ヲ提出スヘキ者カ帝國內ニ住所ヲ有セザルトキハ前項ノ期間ハ六箇月トス 相續人確定シタル時ハ前二項ノ書類ヲ提出スルト同時ニ又ハ其ノ確定ノ日ヨリ一箇月以内ニ相續人ノ相續關係ヲ記載シタル書面ヲ政府ニ提出スヘシ

第十二條 戶籍吏左ノ事項ニ關スル屆書ヲ受理シタルトキハ之ヲ收稅官廳ニ報告スヘシ 一 死亡又ハ失踪 二 戶主ノ隱居又ハ國籍喪失 三 戶主カ婚姻又ハ養子縁組ノ取消ニ因リテ其ノ家ヲ去リタルコト 四 入夫婚姻ニ因リ女戶主カ戶主權ヲ喪失シタルコト 五 戶主タル入夫ノ離婚

第十三條 課稅價格ハ政府之ヲ決定ス 課稅價格ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人ニ通知スヘシ

第十四條 相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人

前條ノ決定ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ申立テ再審査ヲ求ムルコトヲ得

相続人、遺言執行者又ハ相続財産管理人帝國内ニ住所ヲ有セサルトキハ前項ノ期間ハ之ヲ三箇月トス

第十五條 前條ノ請求アリタルトキハ相続税審査委員會ノ諮問ヲ經テ政府之ヲ決定ス
審査委員會ノ組織及會議ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 課税價格ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第十七條 相続税ハ一時ニ之ヲ納付スヘシ但シ税金額百圓以上ナルトキハ相続税ニ相當スル擔保ヲ提供シ五年以内ノ年賦延納ヲ求ムルコトヲ得

前項ニ依リテ年賦延納ヲ求ムトスル者ハ第十三條ノ通知ヲ受ケタル後二十日以内ニ政府ニ出願スヘシ

相続人、遺言執行者又ハ相続財産管理人帝國内ニ住所ヲ有セサルトキハ前項ノ期間ハ三箇月トス

前二項ノ場合ニ於テ相続人、遺言執行者又ハ相続財産管理人其ノ期間内ニ書類ヲ提出セサルトキハ政府ノ認ムル所ニ依リ課税價格ヲ決定シ催告ニ關スル費用及税金ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ相続人、遺言執行者又ハ相続財産管理人ヨリ徴收スルコトヲ得

相続人二人以上ナル場合ニ於テハ各相続人ハ前項ノ徴收金ニ付連帶納付ノ責ニ任ス

第三項ノ金額ノ徴收ニ關シテハ國稅徴收法ノ規定ヲ準用ス

第二十三條 左ニ掲グル場合ニ於テ本法施行地ニ在ル不動産及船舶以外ノ財産ニ付爲シタル贈與ノ價格カ五百圓以上ナルトキハ遺產相続開始シタルモノト看做シ其ノ財産ノ價額ヲ課税價格トシテ本法ニ依リ相続税ヲ課ス

一 被相続人カ推定家督相続人又ハ推定遺產相続人ニ贈與ヲ爲シタルトキル

二 分家ヲ爲スニ際シ若ハ分家ヲ爲シタル後本家ノ戸主又ハ家族カ分家ノ戸主又ハ家族ニ贈與ヲ爲シタルトキ

第十八條 審査ヲ求メ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲シタル場合ト雖相続人、遺言執行者又ハ相続財産管理人ハ通知ヲ受ケタル金額ニ依リ税金ヲ納付スヘシ

第十九條 相続人、遺言執行者又ハ相続財産管理人ハ相続税ヲ納付シ又ハ其ノ延期ノ許可ヲ受ケタル後ニ非サレハ遺贈ノ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 相続財産ヲ以テ相続税ヲ完納スルコト能ハサルトキハ相続開始前一年内ニ被相続人ヨリ本法施行地ニ在ル財産ノ贈與ヲ受ケタル者ハ其ノ限度ニ於テ不足額ヲ納付スヘシ但シ相続税ノ延納ヲ許可シタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 相続税ノ審査ニ參與シタル者ハ其ノ審査ニ關スル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二十二條 相続人、遺言執行者又ハ相続財産管理人期限内ニ第十一條ニ依ル書類ヲ提出セサルトキハ政府ハ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スコトヲ得

相続人二人以上ナル場合ニ於テハ政府ハ其ノ一人ニ對シテ前項ノ催告ヲナスコトヲ得

前項ノ遺產相続ニ關シテハ第十條ノ規定ヲ適用セス

第二十四條 第十一條ニ依リ提出シタル書類ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ相続税ノ遁脱ヲ圖リ又ハ遁脱シタル者ハ其ノ遁脱シ又ハ遁脱セムトシタル税金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者ハ其ノ税金ヲ徴收シ其ノ罪ヲ問ハス

第二十五條 第二十一條ニ違反シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ニ依リ處罰セラレタル者ハ其ノ職ヲ失フ

附則

第二十六條 府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ相続税ノ附加税ヲ課スルコトヲ得ス

本令ニ改正ヲ加ヘタル明治四十三年法律第四號ノ附則

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法施行前開始シタル相続ニ關シテハ仍舊法ヲ適用ス

●同 施行規則

明治三十八年三月勅令第六八號

朕相續稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
相續稅法施行規則

第一條 相續開始地ノ稅務署ヲ以テ相續稅ノ所轄稅
務署トス

相續開始地カ相續稅法施行地ニ在ラサルトキハ同
法施行地ニ在ル相續財產所在地ノ稅務署ヲ以テ所
轄稅務署トス相續財產カ二箇月以上ノ稅務署管内
ニ在ルトキハ其ノ主タル財產ノ所在地ノ稅務署ヲ
以テ所轄稅務署トス

第二條 相續開始シタルトキハ相續人、遺言執行者
又ハ相續財產管理人ハ相續稅法第十一條第一項ニ
定メタル期間内ニ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル書
面ニ相續財產目錄及相續財產ノ價格中ヨリ控除セ
ラルヘキ金額ノ明細書ヲ添附シ之ヲ所轄稅務署ニ
提出スヘシ但シ相續人二人以上ナル場合ニ於テ其
ノ一人ヨリ本條ニ依ル書類ヲ提出シタルトキハ他

ヲ以テ足ル

第三條 稅務署長ハ相續財產ノ價額ヲ評定シテ課稅
價格ヲ決定シ之ヲ相續人、遺言執行者又ハ相續財
產管理人ニ通知スヘシ

相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人ハ前項ノ
決定ニ對シ其ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

第四條 課稅價格ノ決定ニ對シ異議アル者再審査ヲ
求メムトスルトキハ其ノ理由ヲ詳記シ相續稅法第
十四條ニ定メタル期間内ニ所轄稅務署長ニ申出ツ
ヘシ

第五條 稅務署長再審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ相
續稅審查委員會ノ諮問ヲ經テ課稅價格ヲ決定シ之
ヲ異議申立人ニ通知スヘシ

第三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條 各稅務署所轄内ニ相續稅審查委員會ヲ置ク
但シ稅務署所轄内ニ在ル市又ハ北海道沖繩縣ノ區
ニ付テハ大藏大臣ハ特ニ審查委員會ヲ置クコトヲ
得

第七條 審查委員會ハ大藏大臣ノ命シタル收稅官吏
二名及直接國稅百圓以上ヲ納ムル者二名ヲ以テ之

ノ相續人ハ之ヲ提出スルコトヲ要セス

一 被相續人ノ氏名

二 相續開始地

三 相續開始ノ日

四 家督相續、遺產相續ノ區別

五 被相續人カ相續開始前一年内ニ相續稅法施
行地ニ在ル財產ニ付贈與ヲ爲シタルトキハ其
ノ財產ノ價額及受贈者ノ住所氏名

六 相續人ノ住所氏名

七 相續人ト被相續人トノ續柄

前項ノ書類ヲ提出スル場合ニ於テ相續人確定セザ
ルトキハ前項第六號及第七號ノ代リニ相續人ノ確
定セサル理由ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ相續人確定シタルトキハ相續人
遺言執行者又ハ相續財產管理人ハ第一項第六號及
第七號ニ掲グル事項ヲ記載シタル書類ヲ所轄稅務
署ニ提出スヘシ

相續稅法第二十三條ニ依リ遺產相續ノ開始ト看做
サルヘキ場合ニ於テハ第一項第一號乃至第三號第
六號及第七號ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ提出スル

ヲ組織ス

審查委員ノ任期ハ三年トス

第八條 審查委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開
ク

第九條 審查委員會ハ毎年最初ノ開會ノ時ニ於テ審
査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第十條 審查委員會ノ會長出席セサルトキハ出席シ
タル審查委員中ノ年長者之ヲ代理スヘシ

第十一條 審查委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出
席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナル
トキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第十二條 審查委員ハ自己又ハ自己ノ親族ノ相續ニ
關スル審查ノ議事ニ與ルコトヲ得ス

第十三條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ審查委員會ニ
出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第十四條 相續人二人以上ナル場合ニ於テ相續稅納
付前相續財產ノ分割ヲ爲スモ相續稅ハ各相續人連
帶シテ之ヲ納付スルコトヲ要ス

第十五條 相續稅ノ年賦延納ヲ求メムトスル者ハ擔

保ノ種類及延納期間ヲ記シ相續稅法第十七條ノ期間内ニ所轄稅務署ニ出願スヘシ

第十六條 擔保ノ種類ハ左ニ掲グルモノニ限ル

一 稅務署長ニ於テ確實ト認ムル有價證券

二 土地

三 建物

四 稅務署長ニ於テ納稅保證ニ堪フル資力アリト認ムル保證人

第十七條 擔保トシテ有價證券ヲ提供セムトスル者ハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

擔保トシテ土地建物ヲ提供シタル者アルトキハ稅務署長ハ抵當權ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第十八條 稅務署長ニ於テ擔保物ノ價格減少シタリト認ムルトキ又ハ保證人ノ資力納稅保證ニ堪ヘサルニ至リタリト認ムルトキハ增擔保ヲ提供セシメ又ハ保證人ヲ變換セシムルコトヲ得

第十九條 年賦延納金額ハ相續稅金額ヲ延納年間ニ平分シテ之ヲ定ム

第二十條 增擔保ヲ提供スヘキ場合ニ於テ之ヲ提供セス又ハ保證人ヲ變換スヘキ場合ニ於テ之ヲ變換

セサルトキハ稅務署長ハ年賦延納ノ許可ヲ受ケタル者相續稅ヲ完納シタルトキハ稅務署長ハ擔保解除ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十三條 相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人相續稅法第十一條ニ依ル書類ヲ期限迄ニ提供セサルトキハ所轄稅務署ハ期間ヲ定メテ之ヲ催告スヘシ

物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅額ニ相當スル金額ヲ交付ス

第四條 消費稅ハ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ織物ヲ引取ルトキ引取人之ヲ納付スヘシ但シ命令ノ定ムルニ依リ製造者ニ於テ織物ニ其ノ價格ヲ表記シ消費稅ニ相當スル印紙ヲ貼用シテ消費稅ノ納付ニ代フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ製造者ヲ以テ引取人ト看做ス

印紙ヲ貼用スル場合ニ於テ消費稅額一錢未滿ノ端數ハ總テ一錢トシテ計算ス

第五條 消費稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルトキハ政府ハ三月以内消費稅ノ徵收ヲ猶豫ス

第六條 消費稅ヲ納付シ又ハ消費稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタル者ハ其ノ織物ニ納稅濟證印ノ押捺ヲ受ケ又ハ納稅濟證ノ貼付ヲ受クルコトヲ得

第七條 左ニ掲グル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅ヲ納付セスシテ織物ヲ引取ルコトヲ得

一 他ノ製造場ニ移出シ又ハ藏置場ニ藏置スル爲織物ヲ引取ルトキ

二 染色、捺染、刺繡其ノ他ノ加工ヲ爲ス爲製

前項ノ期間内ニ書類ヲ提出セサルトキハ所轄稅務署長ハ其ノ認ムル所ニ依リ課稅價格ヲ決定スヘシ

附則

本令ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八章 織物消費稅法

明治四三年三月法律第七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル織物消費稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

織物消費稅法

第一條 織物ニハ本法ニ依リ消費稅ヲ課ス

第二條 消費稅ノ稅率ハ織物ノ價格百分ノ十トス

第三條 左ニ掲グルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅ヲ免除ス

一 外國ニ輸出スル織物又ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出セムトスル織物

二 製造者カ自己又ハ其ノ家族ノ用ニ供スル爲自ラ製造シタル織物

消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル

三 一定ノ場所ニ於テ消費稅ヲ納付スル爲政府ノ定メタル條件ニ從ヒ製造場又ハ藏置場ヨリ織物ヲ引取ルトキ

前項ノ場合ニ於テハ移出先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先ノ營業人ヲ以テ製造者ト看做ス

第八條 消費稅ヲ納付シ製造場ヨリ引取リタル織物ヲ再ヒ其ノ製造場ニ戻入シタル場合ニ於テ其ノ種類及數量ニ付政府ノ承認ヲ受ケタル時ハ其ノ織物ヲ製造場ヨリ引取ルモ更ニ消費稅ノ徵收ヲ爲サス

第九條 第四條第一項但書及第七條ノ場合ヲ除クノ外、製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ織物ヲ引取ル者ハ引取ノ際織物ノ價格ヲ政府ニ申告スヘシ前項ノ申告ヲ爲サス又ハ政府ニ於テ其ノ申告シタル價格ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ織物ノ價格ヲ評定ス

織物引取人前項ノ評定價格ニ不服アルトキハ即時異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

異議ノ申立アリタルトキハ二人以上ノ鑑定人ヲ選定シ其ノ意見ヲ徵シ政府之ヲ決定ス

販賣場又ハ織物ヲ原料トスル製品ノ製造場トテ區別シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 織物ノ製造者、販賣者及前條但書ニ該當スル製品ノ製造者ハ帳簿ヲ備ヘ織物又ハ製品ノ製造出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第十五條 收稅官吏ハ織物ノ製造場、販賣場、又ハ第十三條但書ニ該當スル製品ノ製造場ニ立入り織物、原料、織物ヲ原料トシテ製造シタル物品、器具、機械、建築物又ハ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得

收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ前項ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十六條 收稅官吏ハ運搬中ニ在ル織物ヲ検査シ其ノ出所及到著先ヲ質問スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ監督上必要ト認ムルトキハ收稅官吏ハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ消費稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ消費稅ヲ徵收ス但シ消費稅四圓未満ナルトキハ罰金額ハ二十圓トス

異議申立人ノ主張ニ依ル價格ト前項ノ決定價格トノ差カ第二項ノ評定價格ト前項ノ決定價格トノ差ヨリ大ナルトキハ鑑定ニ關スル費用ハ其ノ申立人ノ負擔トス

印紙ヲ貼用シタル織物ノ表記價格ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ織物ノ價格ヲ評定シ其ノ差額ニ對スル消費稅ヲ追徵ス此ノ場合ニ於テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

第十條 第五條又ハ第七條ニ該當スル場合ヲ除クノ外消費稅納付前ニ於テ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ織物ヲ引取ルコトヲ得ス

第十一條 織物製造者ハ第五條又ハ第七條ニ該當スル場合ヲ除クノ外消費稅納付前ニ於テ織物ヲ他ニ引渡スコトヲ得ス

第十二條 織物ヲ製造又ハ販賣セムトスル者ハ政府ニ申告スヘシ但シ第三條第一項第二號ニ該當スル織物ノミヲ製造セムトスル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 織物製造者ハ同一ノ場所ニ於テ織物ノ販賣業又ハ織物ヲ原料トスル製品ノ製造業ヲ兼營スルコトヲ得ス但シ政府ノ認許ヲ得織物ノ製造場ト

一 第十二條但書ニ該當スル場合ヲ除クノ外政府ニ申告セスシテ織物ヲ製造シタルトキ

二 外國ニ輸出スル爲若ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出シタル爲消費稅ヲ免除セラレタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ内地ニ於テ消費シ又ハ内地ニ於テ消費スル目的ヲ以テ之ヲ讓渡シタルトキ

三 消費稅納付前又ハ擔保提供前ニ於テ織物ヲ消費シタルトキ

四 第七條ニ依リ引取リタル織物ヲ其ノ定メラレタル場所ニ移入セサルトキ

五 第十條又ハ第十一條ノ規定ニ違反シタルトキ

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ第一號ノ場合ニ於テ織物ヲ原料トスル製品ヲ製造シタルトキハ前條ノ例ニ依ル

一 第十三條ノ規定ニ違反シタルトキ

二 織物ノ製造者、販賣者又ハ第十三條但書ノ場合ニ於ケル製品ノ製造者織物又ハ製品ノ製

造出入ニ關スル帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ詐リ若ハ怠リタルトキ

三 命令ノ定ムル方法ニ依リ織物ニ價格ヲ表記セス又ハ印紙ヲ貼用セサルトキ

四 收稅官吏ノ職務執行ヲ拒ミタルトキ

第十九條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニハ刑法ノ刑ノ減免及刑法第四十八條第二項ノ例ヲ用キス

第二十條 織物ノ製造者、販賣者又ハ第十三條但書ノ場合ニ於ケル製品ノ製造者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ本人ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 織物ノ製造者、販賣者又ハ第十三條但書ノ場合ニ於ケル製品ノ製造者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ織物ノ製造者、販賣者又ハ第十三條但書ノ場合ニ於ケル製品ノ製造者ヲ處罰ス

販賣場ヲ有セスシテ織物ヲ販賣セムトスル者ハ其ノ居所所轄稅務署ニ其ノ旨ヲ申告スヘシ

第三條 製造場ハ其ノ敷地ノ連續セサル場合ニ於テモ之ヲ一製造場ト認ムルコトヲ得

第四條 所轄稅務署ハ必要ト認ムルトキハ織物製造者ニ織物製造場ノ圖面又ハ製造用ノ器具、機械ノ目錄ヲ提出セシムルコトヲ得

第五條 織物製造者製造場ヲ移轉セムトスルトキハ其ノ製造場ヲ定メ移轉先ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

織物販賣場ニシテ販賣場ヲ有スル者販賣場ヲ移轉セムトスルトキハ其ノ販賣場ヲ定メ移轉先ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

織物販賣者ニシテ販賣場ヲ有セサル者其ノ居所ヲ移轉シタルトキハ其ノ旨移轉先ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第六條 織物製造者期間ヲ定メテ製造ヲ爲ストキハ著手及終了ノ時期ヲ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第七條 第二條若ハ前條ノ規定ニ依リ申告シタル事項又ハ第四條ノ規定ニ依リ提出シタル圖面若ハ目

附則

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス非常特別稅法中織物消費稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス但シ同規定ニ依リ爲シタル處分又ハ行爲ハ本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

同 施行規則

明治四十三年三月勅令第一八五號

朕織物消費稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

織物消費稅法施行規則

第一條 本令ニ於テ製造者又ハ製造セムトスル者ト稱スルハ自己又ハ其ノ家族ノ用ニ供スル織物ノミヲ製造シ又ハ製造セムトスル者ヲ包含セス

第二條 織物ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造ヘキ種類ヲ定メ其ノ製造場所所轄稅務署ニ申告スヘシ

販賣場ヲ有シテ織物ヲ販賣セムトスル者ハ販賣場ヲ定メ販賣場所所轄稅務署ニ申告スヘシ

錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第八條 織物製造業又ハ販賣業ヲ相續シタル者ハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

織物製造業又ハ販賣業ヲ讓渡シタル者ハ讓受人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第九條 織物製造者又ハ販賣者其ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十條 外國ニ輸出スル織物又ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出セムトスル織物ニ付消費稅ノ免除ヲ得ムトスル者ハ製造場ヨリ之ヲ引取ル都度所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ但シ輸出ノ目的ヲ以テ製造セラルル織物ノミヲ製造スル製造場ニシテ所轄稅務署ニ於テ取締上不都合ナシト認メタル場合ニ於テハ承認ノ省略ヲ爲スコトヲ得製品ト爲シテ外國ニ輸出セムトスル織物ノミヲ製造スル製造場ニシテ所轄稅務署ニ於テ取締上不都合ナシト認メタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ所轄稅務署カ織物又ハ其ノ製品

ノ運搬、藏置其ノ他ノ事項ニ付條件ヲ指定シタルトキハ其ノ條件ニ從フニ非サレハ消費税ノ免除ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條 消費税ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シ其ノ消費税ニ相當スル金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ消費税ヲ納付シタルコトノ證據ヲ具シ輸出港税關ニ、其ノ郵便ニ依リ輸出シタル場合ニ於テハ所轄稅務署ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ規定ニ依リ交付金ヲ受ケムトスル者ハ輸出ノ際豫メ輸出港税關ニ其ノ旨申告スヘシ但シ郵便ニ依リ輸出スルモノハ所轄稅務署ノ承認ヲ受ケヘシ此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第十二條 消費税額ニ相當スル擔保ヲ提供シタル者其ノ織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタル場合ニ於テ消費税ノ免除ヲ得ムトスルトキハ其ノ織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルコトノ證據ヲ具シ之ヲ所轄稅務署ニ申請スヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ消費税ノ免除ニ關シ之

印紙ヲ貼用シ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ之ニ消費税額ヲ得

第十八條 消費税ヲ納付シ又ハ消費税額ニ相當スル擔保ヲ提供シタル者其ノ織物ニ納稅濟證印ノ押捺ヲ受ケ又ハ納稅濟證ノ貼付ヲ受ケムトスル者ハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ此ノ場合ニ於テハ所轄稅務署ハ織物又ハ織物ニ縫著シタル紙片ニ納稅濟ノ旨ヲ記載シタル切符ヲ貼付シ又ハ納稅濟ノ證印ヲ押捺スヘシ

前項ノ規定ニ依リ納稅濟證印ノ押捺ヲ受ケ又ハ納稅濟證ノ貼付ヲ受ケタル織物ニ加工セムトスル場合ニ於テ所轄稅務署ノ承認ヲ受ケタルトキハ加工後更ニ納稅濟證印ノ押捺又ハ納稅濟證ノ貼付ヲ請求スルコトヲ得

第十九條 金庫所在地以外又ハ金庫閉鎖後ニ於テハ收稅官吏ハ消費税金ノ領收ヲ爲スコトヲ得

第二十條 擔保物ノ種類ハ金錢又ハ所轄稅務署ノ確實ト認メタル有價證券ニ限ル
擔保物ヲ提供セムトスル者ハ前項ノ擔保物ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

ヲ準用ス

第十三條 織物製造者自己又ハ其ノ家族ノ用ニ供スル織物ニ付消費税ノ免除ヲ得ムトスル場合ニ於テハ所轄稅務署ノ承認ヲ受ケヘシ

第十四條 織物消費税法第七條ノ規定ニ依リ織物ヲ引取ラムトスルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告シ承認ヲ受ケヘシ

第十五條 織物消費税法第九條第一項ニ依ル價格ノ申告ハ所轄稅務署ニ之ヲ爲スヘシ

第十六條 織物消費税法第四條第一項但書ノ規定ニ依リ織物ニ印紙ヲ貼用シテ消費税ノ納付ニ代ヘムトスル者ハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告シ承認ヲ受ケヘシ

第十七條 織物ニ印紙ヲ貼用スル場合ニ於テハ織物ニ其ノ價格及製造者ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ表記シ相當印紙ヲ貼用シ織物面ト印紙ノ彩紋トニカケテ之ニ消印スヘシ但シ印紙貼用者ハ結目ナキ紙ヲ以テ紙片ヲ織物ニ縫著シ紙片ニ價格及住所、氏名又ハ名稱ヲ表記シ其ノ絲ノ結束シタル場所ニ相當

第二十一條 擔保トシテ提供シタル有價證券、價格減少シタルトキハ所轄稅務署ハ更ニ相當ノ擔保物ノ提供ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ擔保物ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セサルトキハ所轄稅務署ハ直ニ消費税ヲ徵收ス

第二十二條 擔保物ヲ提供シタル場合ニ於テ消費税納付濟ニ至リタルトキ又ハ消費税免除ノ確定シタルトキハ所轄稅務署ハ擔保物返付ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十三條 消費税ヲ徵收スヘキ場合ニ於テ擔保物アルトキハ擔保物ヲ以テ税金ニ充ツ
前項ノ場合ニ於テ擔保物有價證券ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ順次ニ公賣ノ費用及税金ニ充ツ
前二項ノ場合ニ於テ不足アルトキハ之ヲ追徴シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第二十四條 織物製造者又ハ織物消費税法第十三條但書ニ該當スル製品ノ製造者ハ少クモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
一 原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタル者ニ

在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二 使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日

三 製造シタル種類、數量及製造ノ日

四 他ニ引渡シタル種類、數量、價額、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱

第二十五條 織物販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 引取リタル種類、數量、價格、引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二 販賣シタル種類、數量、價額、販賣ノ日及其ノ買受人ノ住所、氏名又ハ名稱

小賣人ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所氏名又ハ名稱ヲ記載スルコトヲ要セス

第二十六條 本令ニ依リ所轄稅務署ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受クヘキ場合ニ於テ製造場ニ出張シタル稅務官吏ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルトキハ稅務署ニ申告シ又ハ承認ヲ受ケタルモノト看做ス
第二十七條 稅務官吏ハ織物ノ製造者、販賣者、又

ハ織物消費稅法第十三條但書ニ該當スル製品ノ製造者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二十八條 本令中稅務署ニ屬スル事務ハ稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラル、織物ニ關シテハ稅關之ヲ行フ

附則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
非常特別稅法施行規則ニ依リ爲シタル處分又ハ行爲ハ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

第九章 通行稅法

明治四十三年三月法律第五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル通行稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

通行稅法

第一條 汽車、電車及汽船ノ乘客ニハ左ノ區別ニヨリ通行稅ヲ課ス

二百哩又ハ二百海里以上

第二條 通行稅ヲ課スヘキ場合ニ於テ汽車、電車又ハ汽船ニシテ等級ヲ分タサルモノニ在リテハ三等ノ稅率ヲ適用シ二等級ニ分チタルモノニ在リテハ二等ノ稅率ヲ適用シ一等級ノ上又ハ三等級ノ下ニ更ニ等級ヲ設ケタルモノニ在リテハ一等又ハ二等ノ稅率ヲ適用ス

第三條 左ノ場合ニ於テハ通行稅ヲ課セス
一 外國行ノ汽船ニ乗シ外國ニ赴クトキ
二 鐵道軍事供用令ニ依リ乘車スルトキ

第四條 通行稅ハ汽車、電車又ハ汽船營業者乘船車賃金ヲ領收スルトキ之ヲ徵收スヘシ
前項ニ依リ徵收シタル通行稅ハ毎月取纏メ翌月十日迄ニ之ヲ納付スヘシ

第五條 汽車、電車又ハ汽船營業者前條ニ依リ徵收スヘキ通行稅ヲ納付セサルトキハ國稅徵收法ニ依リ該營業者ヨリ之ヲ徵收ス

第六條 稅務官吏ハ汽車、電車又ハ汽船營業者ノ帳簿書類ヲ檢査スルコトヲ得

第七條 回數乘船車券ハ之ヲ分割販賣スルコトヲ得ス違反スル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

往復乘船車ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ往復ノ里程ヲ通算シテ之ヲ徵收ス
貸切、多人數、回數又ハ定期乘船車ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ第一項稅額ノ五倍ヲ徵收ス

一等	金五十錢
二等	金二十五錢
三等	金四錢
二百哩又ハ二百海里未滿	
一等	金四十錢
二等	金二十錢
三等	金三錢
百哩又ハ百海里未滿	
一等	金二十錢
二等	金十錢
三等	金二錢
五十哩又ハ五十海里未滿	
一等	金五錢
二等	金三錢
三等	金一錢

附則

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
非常特別稅法中通行稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

●同 施行規則

明治四十三年三月勅令第二九號

朕通行稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
通行稅法施行規則

汽車、電車又ハ汽船營業者ハ拂込書及計算書ヲ添附
シ毎月十日迄ニ前月分ノ通行稅ヲ各營業場所在地ノ
金庫ニ拂込ムヘシ但シ營業者カ本店所在地所轄稅務
署ノ許可ヲ得タルトキハ之ヲ本店所在地ノ金庫ニ拂
込ムコトヲ得

帝國鐵道ニ於テ通行稅ヲ金庫ニ拂込ムトキハ計算書
ノ添附ヲ省略スルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十章 酒造稅法

明治二十九年三月法律第二八號
改正 三十二年第三號、三十四年第二號、三十四年
第七號、三十八年第三號、四一年第一號、四一年

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル酒造稅法ヲ裁可シ茲ニ之
ヲ公布セシム
酒造稅法

第一條ノ一 此ノ稅法ニ於テ酒類ト稱スルハ清酒、
濁酒、白酒、味淋、燒酎ノ五種トス

第一條ノ二 此ノ稅法ニ於テ清酒ト稱スルハ米、米
麴及水ヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ
醱酵セシメ之ヲ濾過シタルモノヲ謂フ

左ニ掲グルモノハ清酒ト看做ス
一 前項原料ノ外麥、粟、玉蜀黍、稗、清酒粕
又ハ燒酎ヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ
加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過シタルモノ
二 清酒又ハ清酒ト看做シタルモノヲ粕漉シタ
ルモノ
三 清酒又ハ前二號ニ依リ清酒ト看做シタルモノ
ノニ其ノ容量百分ノ一以內ノ燒酎又ハ酒精ヲ

混和シタルモノ

第一條ノ三 此ノ稅法ニ於テ濁酒ト稱スルハ米、米
麴及水ヲ原料トシテ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘ
テ醱酵セシメ之ヲ濾過セサルモノヲ謂フ

前項原料ノ外麥、粟、玉蜀黍若ハ稗ヲ原料トシ醱
酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過
セサルモノハ濁酒ト看做ス

第一條ノ四 此ノ稅法ニ於テ白酒ト稱スルハ米又ハ
米麴ト清酒、濁酒、味淋、燒酎又ハ酒精トヲ混和
シテ碾碎シタルモノヲ謂フ

前項原料ノ外水ヲ混和シテ碾碎シタルモノハ白酒
ト看做ス

第一條ノ五 此ノ稅法ニ於テ味淋ト稱スルハ米及米
麴ト清酒、味淋、燒酎又ハ酒精トヲ混和シ濾過シ
タルモノヲ謂フ

前項原料ノ外味淋粕又ハ水ヲ混和シ濾過シタルモノ
ハ味淋ト看做ス

第一條ノ六 此ノ稅法ニ於テ燒酎ト稱スルハ清酒粕
ヲ蒸餾シタルモノヲ謂フ

左ニ掲グル物品ヲ原料トシテ蒸餾シタルモノハ燒

耐ト看做ス

一 清酒

二 濁酒

三 味淋粕

四 米、麥、粟、黍、稗若ハ甘藷ト麴及水トヲ
原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵
セシメタルモノ

第二條 酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎
ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトス
ルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第三條 其ノ年十月一日ヨリ翌年九月三十日マテヲ
以テ一酒造年度トス

第四條 酒類ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應シ左
ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課ス

第一種 酒精分二十度以下ノ清酒、濁酒、白酒
及酒精分三十度以下ノ味淋、燒酎

一石ニ付 金二十圓

第二種 酒精分三十五度以下ノ燒酎
一石ニ付 金二十五圓

第三種 酒精分四十度以下ノ燒酎

第四種 酒精分四十五度以下ノ燒酎 一石ニ付 金三十圓

第五種 酒精分二十度ヲ超ユル清酒、濁酒、白酒、酒精分三十度ヲ超ユル味淋分酒精分四十五度ヲ超ユル燒酎 一石ニ付 金三十五圓

前項ニ於テ酒精分ト稱スルハ攝氏驗温器十五度ノ時ニ於テ原容量百分中ニ含有スル〇、七九四七ノ比重ヲ有スル酒精ノ容量トス

第五條 政府ハ一酒造年度間清酒ハ百石濁酒ハ五十石燒酎ハ五十石以上ヲ製造スル者ニ非サレハ酒類製造ノ免許ヲ與ヘス但シ清酒又ハ濁酒制限石數以上ヲ製造スル者ニハ他ノ酒類ニ關スル制限ヲ適用セ

酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者本條ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲ササリシトキハ變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因ルコトヲ證明スルニ非サレハ制限石數ニ相當スル造石稅ヲ課ス但シ其ノ製造セサリシ石數ニ對シテハ其ノ年五月一日ヨリ九月二十日マテ

差押フルコトヲ得

第八條 酒類ノ造石數ハ製成ノ時之ヲ査定ス

酒類ノ造石數ヲ査定スルハ容器ノ容量ニ依ル但シ清酒ニ限り命令ノ定ムル所ニ依リ査定石數百分ノ二以内ノ率引減量ヲ控除スルコトヲ得

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前各項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ酒類又ハ證憑物件ニ就キ之ヲ査定ス

第九條 粕漉シタル酒類ハ粕漉ニ依リ増加シタル分ノミニ就キ其ノ造石數ヲ査定ス

第十條 酒類ヲ製造スル者ノ製造ニ係ル醗ハ左ノ場合ニ於テハ濁酒ヲ製成シタルモノトシテ其ノ造石數ヲ査定ス

- 一 他人ニ讓渡ストキ
- 二 公賣セラルルトキ
- 三 飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供スルトキ

第十一條 酒類ヲ製造スル者既ニ査定ヲ受ケタル酒類ノ造石數ニ對シテハ特ニ法律ヲ以テ定ムル場合ノ外其ノ造石稅ヲ免ルルコトヲ得ス

第十二條 左ノ酒類ハ其ノ造石稅ヲ免除スルコトヲ

ニ査定シタルモノト看做シ第四條第一項ノ稅率ニ依リ其ノ造石稅ヲ徵收ス

第六條 造石稅ノ納期ヲ分チテ左ノ四期トス

第一期 七月十六日ヨリ同三十一日限

前年十月一日ヨリ其ノ年四月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額四分ノ一

第二期 十月十六日ヨリ同三十一日限

同上

第三期 翌年二月十六日ヨリ同二十八日限

同上及其ノ年五月一日ヨリ九月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額二分ノ一

第四期 翌年三月十六日ヨリ同三十一日限

前納額ノ殘數

第七條 第三十三條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ取消シタルトキ又ハ酒類ヲ製造スル者納稅保證物ノ免除ヲ得スシテ保證物ノ提供ヲ爲ササルトキハ前條ノ納期ニ拘ラス造石稅ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ場合及國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ造石稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ納稅ノ擔保トシテ酒類ヲ

得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラ

一 災害ニ罹リ酒類ノ廢棄ニ屬シタルモノ

二 腐敗シタル酒類ニシテ政府ノ承認ヲ得酒類トシテ飲用スヘカラサル處置ヲ施シタルモノ

三 腐敗シタル酒類又ハ災害ニ罹リ飲用スヘカラサルニ至リタル酒類ニシテ燒酎ノ製造ニ供スルモノ

四 容器ノ損傷若ハ塞栓ノ自然ノ脫去ニ依リ酒類ノ亡失シタルモノ

第十三條 酒類ヲ製造スル者ハ納稅保證トシテ一酒造年度見込造石數一石ニ付金四圓ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ニ相當スル保證物ヲ豫メ提供スヘシ但シ政府ノ許可ヲ受ケ造石數査定ノ都度本條ノ割合ヲ以テ保證物ヲ提供スルコトヲ得

毎酒造年度ノ見込造石數又ハ査定石數前項ノ見込造石數ヨリ十石以上増加シタルトキハ其ノ石數ニ應シ前項ノ割合ニ依リ保證物ヲ増補スヘシ 毎酒造年度ノ見込造石數又ハ査定石數第一項ノ見込造石數ヨリ十石以上減少シタルトキハ其ノ石數

ニ應シ第一項ノ割合ニ依リ保證物ノ減少ヲ請フコトヲ得

酒類ヲ製造スル者此ノ法律ヲ犯シテ處罰セラレタルトキ又ハ造石税ニ關シテ滯納處分ヲ受ケタルトキハ爾後二年間政府ハ造石税全額マテノ保證物提供ヲ命スルコトヲ得

前三項ノ場合及保證物ノ價格ニ異動ヲ生シタル場合ヲ除クノ外保證物ノ増減ヲ爲サス

保證物ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 左ノ場合ニ於テハ保證物ヲ免除ス

一 相當ノ納稅保證人ヲ供シタルトキ

二 納稅保證トシテ造石税額ニ相當スル酒類ヲ保存スルトキ

三 造石税ヲ前納シタルトキ

四 酒類ヲ製造スル者ノ屬スル酒造組合ニ於テ納稅ヲ擔保シタルトキ

第十五條 酒類ヲ製造スル者造石税ヲ納メサルニ依リ滯納處分ヲ執行スルトキハ先ツ保證物又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ公賣シテ税金ヲ徵收スヘシ但シ保證物又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ノ價格徵

ハ三十圓以上五千圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ製造ニ係ル酒類及其ノ容器、器具、器械ヲ沒收ス
前項ノ酒類ニ付テハ第六條ノ納期ニ拘ハラズ其ノ造石税ヲ徵收ス

第二十三條第二十三條ノ二〔削除〕

第二十三條ノ三〔削除〕

第二十四條 酒類ヲ製造スル者詐欺其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ造石税ノ査定ヲ免カレ又ハ免カレムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石税五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第二十五條 酒類ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ造石税ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石税五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第二十六條 納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ他人ニ讓渡シタル者滯納處分ヲ受クルモ仍税金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ其ノ不足造石税ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第二十七條 酒類製造用ト否トヲ問ハズ其ノ製造シ

收スヘキ税金額及滯納處分費ニ對シ不足アリト認ムルトキハ同時ニ他ノ財産ニ就キ滯納處分ノ執行ヲ爲スコトヲ妨ケス

第十六條 酒類ヲ製造スル者造石税ヲ完納スル能ハサルトキハ納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ノ各組合員ハ納稅者トシテ其ノ義務ヲ負擔スルモノトス

第十七條 酒類ヲ製造スル者納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ハ之ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十八條 酒類ヲ製造スル者ハ造石税査定前ニ於テ其ノ酒類ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十九條 收稅官吏ハ酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ係ル酒類、其ノ製造出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及酒類製造又ハ販賣上必要ナル建築物、材料、器械其ノ他ノ物件ヲ検査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十條第二十一條〔削除〕

第二十二條 免許ヲ受ケスシテ酒類ヲ製造シタル者

タル酒母又ハ醪ノ検査ヲ免レ又ハ免レムトシタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 酒類ヲ製造スル者第十七條又ハ第十八條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ三十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者酒類ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 酒類ヲ製造スル者收稅官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタルトキハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第三十一條 此ノ税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ「不倫罪」及減輕、「再犯加重、數罪俱發」ノ例ヲ用キス但シ刑法「第七十五條第一項」ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條 酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ此ノ税法ヲ犯シタルト

キハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第三十三條 第二十四條乃至第二十八條ニ依リ處罰又ハ處分セラレタル者ニ對シテハ政府ハ酒類製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得

前項ニ依リ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間内製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本法ノ規定ヲ適用ス

第三十四條 酒類ヲ製造シタル者ハ其ノ製造ノ免許ヲ取消サレタル場合ニ於テモ造石稅完納期ニアリテハ總テ此ノ稅法ノ規程ニ從フモノトス

第三十五條 府縣及市町村ハ此ノ法律ニ依リ造石稅ヲ課スル酒類ニ對シ又ハ其ノ酒類ノ造石數若ハ造石稅ヲ標準トシテ府縣稅若ハ地方稅及市町村稅其ノ他如何ナル名義ヲ以テスルモ課稅スルコトヲ得ス

第三十五條ノ二 此ノ稅法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル酒類ハ此ノ稅法ト同一ノ稅率ヲ有スル法規ヲ其ノ地ニ於テ施行スル迄ハ此ノ稅法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯ス者ハ其ノ酒類ノ石數ニ應

シ第四條ノ稅率ニ從テ算出シタル稅額五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス
前項ノ酒類及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

附則

第三十六條 神社ニ於テ古例ニ依リ明治十三年以前ヨリ引續キ酒類ヲ製造スルトキハ一年ノ製造石數一石以下ノ場合ニ限リ總テ無稅トス

第三十七條 此ノ稅法ハ明治三十九年十月一日ヨリ施行ス但シ明治十三年布告第四十號同年布告第四十一號同十六年布告第四十二號及同二十二年法律第二十四號ハ此ノ稅法施行ノ日ヨリ廢止ス
明治二十九年九月三十日前檢査濟石數ニ係ル造石稅ニ關シテハ仍明治十三年布告第四十號ニ依ル

●同 施行規則

明治二十九年八月勅令第二八七號

改正 三〇年第三八號 三一年第三六二號 三三年第三〇號 三四年第三〇號 三五年第三〇號 三八年第三〇號 三九年第三〇號

朕酒造稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
酒造稅法施行規則

第一條 酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ酒類ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シタル免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ
酒類ノ製造場ヲ移轉セントスルトキ又ハ製造スヘキ酒類ヲ變更セムトスルトキハ稅務署長ニ申請シ其ノ免許ヲ受クヘシ

第一條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署ハ酒類製造ノ免許ヲ與ヘサルヘシ

一 市街地又ハ稅務署所在地ヨリ一里以上ノ距離アル場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ但シ稅務署ニ於テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 酒造稅法若ハ本令ニ違反シタル者又ハ其ノ戶主、家族、同居者若ハ雇人其ノ他從業者又ハ稅務署ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムル者カ免許ヲ申請シタルトキ

第二條 酒類ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第三條 酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場所毎ニ地所建物ノ詳細ナル圖面並ニ酒造用容器、

器具、器械ノ目錄ヲ調製シ事業著手前ニ稅務署長ニ提出スヘシ但シ酒類變更ノ場合ニ於テ製造場及容器、器具、器械ニ變更ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ容器、器具、器械ヲ修理シ又ハ前項ノ圖面目錄ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ
酒類製造主ノ居所氏名ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第四條 酒類製造主ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ稅務署長ハ其ノ容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ其ノ檢定後ニアラサレハ酒類製造主ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條 酒類製造主ハ每酒造年度ニ於テ製造スヘキ每酒類ノ見込數、製造著手ノ時期、製造方法及其ノ仕込數ヲ記載シ其ノ酒造年度開始前ニ稅務署長ニ申告スヘシ但シ新ニ免許ヲ受ケタル者ハ事業著手前ニ本項ノ申告ヲ爲スヘシ

前項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ都度申告スヘシ但シ製造方法ノ變更ニ係ル

モノハ承認ヲ受クヘシ

第六條 酒類製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

相續ノ場合ヲ除ク外酒類製造ノ事業ヲ引繼カムトスル者ハ總テ第一條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造主ハ酒造税法第二條ニ依リ其ノ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第六條ノ二 酒類製造主其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄稅務署ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ

第六條ノ三 酒類製造主其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第六條ノ四 變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ酒造税法第五條ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲サザリシ事由ノ證明ハ酒造年度終了後三箇月以内ニ之ヲ爲スヘシ

第七條 酒類ノ造石稅ハ其ノ製造場所在ノ地方ニ於テ之ヲ徵收ス

第八條 酒類ノ造石數ハ容器ノ容量ニ依リ一容器毎ニ其ノ現在スル酒類ノ總量ニ就キ之ヲ査定スヘシ

ノ原酒類ノ石數ヲ確證スル能ハサル場合ニ於テハ其ノ總石數ニ就キ造石數ヲ査定スヘシ

第十五條 酒滓、酒粕、蒸餾粕ヲ使用シテ製造スル酒類ハ割水其他如何ナル名稱ヲ附スルモ總テ其ノ造石數ヲ査定スヘシ

第十六條 酒類製造主其ノ製造用ニ供スル醪ヲ他人ニ讓渡シ若ハ飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供セントスルトキハ其ノ旨直ニ稅務署長ニ申告スヘシ

第十七條 酒母、醪又ハ原料用酒類ノ廢棄亡失若ハ腐敗シタルトキハ酒類製造主ハ其ノ旨直ニ稅務署長ニ申告スヘシ

第十八條 酒造税法第二條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ其ノ事實ノ生シタルトキ直ニ稅務署長ニ申請スヘシ

第十九條 前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ稅務署長ハ其ノ事實ヲ調査シ其ノ廢棄若ハ亡失ヲ認ムルトキ又ハ酒類トシテ飲用スヘカラサル處置ヲ施シタリト認ムルトキハ稅金ノ免除處分ヲ爲スヘシ
腐敗シタル酒類又ハ災害ニ罹リ飲用スヘカラサル

第八類 租稅 第十等 酒造税法 同施行規則

第九條 酒造税法第八條第二項但書ニ依リ滓引減量トシテ控除スルハ査定石數ノ百分ノ二トス

第十條 酒類製造主自己ノ製造シタル酒類若ハ製造場外ヨリ移入シタル酒類又ハ醪、酒精ヲ以テ酒類ヲ製造シタルトキハ其ノ製成酒類ノ總石數ニ就キ造石數ヲ査定スヘシ

第十一條 酒造原料用ノ爲メ酒類ヲ製造スルトキハ其ノ成功ノ時之ヲ検査スヘシ酒造用原料品トシテ酒類ヲ製造場内ニ移入シタルトキ亦同シ

收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ前項酒類ニ封緘ヲ附スルコトヲ得

第十二條 酒造用原料品トシタル酒類ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費スルトキ若ハ公賣セラルトキ又ハ製造場外ニ移出スルトキハ其ノ造石數ヲ査定スヘシ但シ他ヨリ讓受シタルモノニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 酒類製造主酒類ヲ粕漉セムトスルトキハ著手前ニ其ノ數量時期等ヲ稅務署長ニ申告スヘシ
第十四條 酒類製造主酒類ノ粕漉ヲ爲シタルトキ其

ニ至リタル酒類ヲ以テ燒酎ノ製造用ニ供セムトスルモノハ稅金ノ免除處分ヲ爲シ其ノ酒類ハ燒酎ノ原料品ノ取扱ヲ爲スヘシ

第二十條 酒類製造主ハ酒類製造著手前ニ保證物ヲ提供スヘシ但シ酒造税法第十三條第一項但書ニ依リ造石數査定ノ都度保證物ヲ提供セムトスル者ハ毎酒造年度製造著手前ニ其ノ旨稅務署長ニ申請スヘシ

保證物ヲ増補スヘキトキハ其ノ事由ノ生シタルトキ直ニ之ヲ提供スヘシ

酒類製造主保證物ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ酒造税法第十四條ノ一方法又ハ數方法ヲ選ミ之ヲ申請スヘシ

第二十一條 保證物ノ種類ハ左ニ掲グルモノニ限ル

- 一 金 錢
 - 二 稅務署長ニ於テ確實ト認ムル有價證券
 - 三 土 地
 - 四 火災保險ニ附シタル建物
- 第二十二條 保證物ノ保證價格ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外稅務署長ノ定ムル所ニ依ル

第二十三條 保證物中金錢、有價證券、提供者之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提出シ土地、建物ニ關シテハ稅務署ニ於テ抵當權ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第二十四條 保證物トシテ提供シタル有價證券ノ償却ヲ受クルニ至リタルトキ若ハ建物ノ壞倒亡失シタルトキ又ハ保險契約ノ消滅シタルトキハ酒類製造主ハ稅務署長ノ指定期限内ニ更ニ保證物ヲ提供スヘシ但シ建物ニ對スル保險金ヲ受領シタルトキハ其ノ保險物ヲ保證物トシテ供託スヘシ

第二十五條 酒造税法第十三條ノ保證物ヲ提供セサルトキハ收稅官吏ハ製造酒類ニ封緘ヲ附シ之ヲ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルヲ停止スルコトヲ得

第二十六條 納稅保證人ハ稅務署長ニ於テ納稅保證ニ堪フル資力アリト認ムル者ニ限ル

第二十七條 稅務署長ハ納稅保證人ノ資力納稅保證ニ堪ヘサルニ至リタリト認ムルトキハ之ヲ變換セシムルコトヲ得

第二十八條 收稅官吏ハ納稅保證トシテ保存ノ義務

シタルトキハ之ニ其ノ番號容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スルコトヲ得

第二十四條 收稅官吏ハ隨時酒類製造場又ハ酒類販賣場ニ就キ酒類、酒造用原料品、器具、器械、容器、帳簿又ハ書類ヲ檢査スヘシ

第三十五條 收稅官吏ハ搾器械、蒸餾器械ノ使用停止中ニ封緘ヲ附スヘシ但シ修理其ノ他必要ノ事故アルトキハ之ヲ解除スルコトヲ得

收稅官吏ハ必要ナシト認ムルトキハ前項ノ封緘ヲ爲ササルコトヲ得

收稅官吏ハ必要ト認ムルトキハ酒粕又ハ原料用酒類ニ封緘其ノ他監督上必要ナル方法ヲ施スコトヲ得

第三十六條 自己ノ所有ト否トヲ問ハス容器、器具、器械及酒造用原料品ハ收稅官吏ノ承認ヲ受クルニアラサレハ酒類製造中ハ之ヲ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第三十七條 收稅官吏カ必要ト認メテ酒造原料品ヲ指定シ其ノ使用前檢査ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒類製造主ハ其ノ檢査ヲ受クヘシ

ヲ有スル酒類ニ封緘ヲ附スルコトヲ得

第二十九條 稅務署長ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類納稅保證ニ適セサルニ至リタリト認ムルトキハ之ヲ變換セシムルコトヲ得

第三十條 酒類製造主ハ稅務署長ニ申出保證物、納稅保證人又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ノ變換ヲ求ムルコトヲ得

第三十一條 酒類製造主税金ヲ納メサルトキハ納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ニ通知シ其ノ税金ヲ納メシムヘシ

納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ニ於テ税金ヲ完納セサルトキハ酒類製造主ニ對シ滯納處分ヲ行フヘシ

前項滯納處分ノ後仍税金不足アルトキハ納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ノ各組合員ニ對シ滯納處分ヲ行フヘシ

第三十二條 同一製造場内ニ於テ清酒並ニ濁酒ヲ製造セムトスル者ハ其ノ釀造藏置ニ供スル場所ヲ酒類ニ特定シ稅務署長ノ認可ヲ受クヘシ

第三十三條 稅務署長容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲

第二十八條 酒類製造主ハ製造方法ノ異ナル毎ニ並ニ一仕込毎ニ酒母及醪ニ記號ヲ附シテ之ヲ區分シ收稅官吏ノ承認ヲ受クルニアラサレハ彼此混淆スルコトヲ得ス

第三十九條 左ニ掲グル場合ニ於テ收稅官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒類製造主ハ其ノ承認ヲ受クヘシ

一 熟成シタル酒母ヲ醪ニ仕込マムトスルトキ
二 熟成シタル醪ヲ酒母ニ代用シ添掛ヲ爲サムトスルトキ

三 酒母、醪又ハ原料用酒類ノ容器ヲ變換セムトスルトキ
四 仕込濟ノ醪ニ水ヲ混和セムトスルトキ

五 原料用酒類ノ用途ヲ變更セムトスルトキ
六 藏出前ニ於ケル自己製造ノ酒類ニ買入酒類ヲ混和シ又ハ割水ヲ爲サムトスルトキ

七 前各號ノ外收稅官吏カ指定シタル事項ヲ爲サムトスルトキ

長ニ申告スヘシ

第四十一條 二仕込以上ノ醗ヲ合併シテ清酒ヲ搾揚ケムトスルトキハ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ但シ七仕込以上ノ醗ハ之ヲ合併スルコトヲ得ス

第四十二條 酒粕ハ其ノ搾揚ケタル酒類ノ造石數査定ノ時之ヲ検査スヘシ

酒類製造主ハ前項検査後ニアラサレハ酒粕ヲ製造場外ニ移出シ又ハ使用シ若ハ他ノ酒粕ト混合スルコトヲ得ス

第四十二條ノ二 酒造稅法第三十三條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ酒母、醗其ノ他半製品現存スルトキハ稅務署長ハ酒類製造主ノ申請ニ依リ相當期間ヲ定メテ製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムヘシ

第四十三條 酒類製造主ハ酒造用原料品及酒粕ノ受拂、酒母及醗ノ仕込、燒酎又ハ酒精ノ造リ込、酒類ノ藏出、受拂、増減ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ但シ他ノ法律命令又ハ商業上ノ慣例ニ依リ設備スル帳簿ニシテ本文ノ事項ヲ明ニスルモノアルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條ノ二 收稅官吏ハ酒類製造主及販賣主ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

附則

第四十四條 酒造稅法施行前ニ於テ明治十三年布告第四十號ニ依リ酒造營業ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ尙ホ引續キ酒造稅法第二條ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ明治二十九年九月三十日迄ニ第三條ノ圖面目錄ヲ添ヘ其ノ旨地方長官ニ申請スヘシ

第四十五條 酒造稅法第三十六條ニ該當スル者ハ明治十三年以前ヨリ引續キ酒類ヲ製造スルコトノ事實ヲ具シ地方長官ニ免許ヲ申請スヘシ

第十一章 醬油稅則

明治二十一年六月勅令第四七號

改正 二九年勅令第四號、三二年勅令二五號、三七年勅令第七號、三九年勅令一六號

朕醬油稅則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

醬油稅則

第一條 醬油溜ヲ併稱スヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其製造ヲ廢止セム

トスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第二條 醬油製造人ハ左ノ造石稅ヲ納ムヘシ

一 醬油 諸味一石ニ付 金一圓七十五錢

二 溜 製成一石ニ付 金一圓六十五錢

第三條 (削除)

第四條 造石稅ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ納ムヘシ但シ

廢業スル者ハ其際之ヲ納ムヘシ

第一期 七月三十一日限

一月一日ヨリ四月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額

第二期 十一月三十日限

五月一日ヨリ八月三十一日マテ査定石數ニ係ル稅額

第三期 翌年三月三十一日限

九月一日ヨリ十二月三十一日マテ査定石數ニ係ル稅額

第五條 醬油ハ之ヲ製成スル前ニ溜ハ之ヲ製成シタル後十日以内ニ官廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受クヘシ

造石數査定済ノ醬油ト査定未済ノ醬油トヲ混和シ

第八類 租稅 第十一章 醬油稅則

タルトキハ其總石數ニ就キ更ニ査定ヲ受クヘシ

第六條 醬油製造人廢業ノ際査定未済ノ醬油ヲ所持スルトキハ官廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受ケ造石稅ヲ納ムヘシ但其醬油ヲ同業者ニ賣渡讓渡ス場合ニ

限リ官廳ニ申出検査ヲ受置キ其買受讓受人ニ於テ

第五條ノ査定ヲ受ケ及第四條ノ期限ニ從ヒ造石稅ヲ納ムルコトヲ得

製造場二箇所以上ニ於テ醬油製造ヲ爲ス者其一箇

所以上ヲ廢シ査定未済ノ醬油ヲ他ノ製造場ニ移ストキハ官廳ニ申出検査ヲ受クヘシ

第七條 醬油ヲ原料トシテ醬油ヲ製造スルトキハ原料醬油ニハ造石稅ヲ課セス

第八條 醬油製造人ハ同業者ニ非サル者ニ醬油ヲ製造スル爲メニ製造場ヲ貸渡スコトヲ得ス

第九條 醬油製造人ハ製造場ニ關シ修繕等已ムヲ得サル事故ニ因リ官廳ニ届出タル後ニ非サレハ造石

數査定未済ノ醬油ヲ其製造場外ニ移スコトヲ得ス

第十條 醬油製造人ハ造石數査定未済ノ醬油ヲ賣渡

貸渡讓渡又ハ自用スルコトヲ得ス但第六條但書ノ

場合ハ比限ニ在ラス

第十一條 造石稅ノ査定ヲ經タル醬油其造石稅納期
内ニ天災又ハ避ヘカラサル事故ニ因リ廢棄ニ屬シ
タルトキハ直チニ官廳ニ申出檢査ヲ受ケ該造石稅
ノ免除ヲ請フコトヲ得

第十二條 醬油製造人ハ營業ニ係ル要領ヲ帳簿ニ記
載スヘシ

第十三條 外國ニ輸出スル醬油ハ輸出ノ節稅關ノ檢
査ヲ受置キ輸入港稅關ノ陸揚免狀若クハ其他證憑
トナルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受
ケ之ヲ輸出港ノ稅關ニ差出シ造石稅ノ下戻ヲ請求
スルコトヲ得其下戻ノ歩合ハ大藏大臣ノ定ムル所
ニ依ルヘシ但造石稅ノ下戻ヲ受ケタル醬油ヲ本邦
ニ輸入スルトキハ其金額ヲ輸入港稅關ニ還納スヘ
シ

第十四條 [削除]

第十五條 [削除]

第十六條 [削除]

第十七條 醬油製造人ノ製造場倉庫其他ノ場所醬油
仕込高竝仕込ニ屬スル原品及營業ニ關スル帳簿ハ
當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ但當該官吏ハ

第二十四條 此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕

【再犯加重數罪俱發】ノ例ヲ用ヒス

第二十五條 醬油製造人ノ家屬雇人ニシテ此稅則ヲ
犯シタルトキハ其製造人ヲ處罰ス

醬油製造人十六歳未満ノ幼年者及癡癲白痴又ハ瘡
啞ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰
ス

第二十六條 此稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十七條 此稅則ハ明治二十一年九月一日ヨリ施
行ス

附則

第二十八條 沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島

ニハ當分此稅則ヲ施行セス但此稅則施行ノ地ニ輸

送スル醬油ヲ製造スル者ハ此稅則ニ從フヘシ

第二十九條 [削除]

本令ニ改正ヲ加ヘタル明治三十九年法律第十

六號ノ附則

醬油製造人カ本法施行前ニ買受ケタル鹽ヲ以テ仕込
ミタル醬油ニ關シテハ本法施行後ト雖舊稅率ニ依リ
造石稅ヲ課ス

其證票ヲ携帶スヘシ

第十八條 當該官吏ニ於テ此稅則ニ關シ犯罪アリト
認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入り證憑取
調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但當該官吏ハ其證票ヲ携
帶スヘシ

第十九條 免許ヲ受ケス醬油ヲ製造シタル者ハ五圓
以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其造石數ニ應シ
第二條ノ造石稅ヲ課ス

前項ノ造石稅ハ其際直ニ之ヲ納ムヘシ

第二十條 醬油製造人ニシテ醬油ヲ隱蔽シタル者ハ
其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第十條ヲ犯シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十一條 第五條第六條ノ査定ヲ受ケサル者、第
八條第九條ヲ犯シタル者又ハ通稅ヲ謀ル爲帳簿ノ
記載ヲ詐リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ
處ス

第二十二條 第六條ノ檢査ヲ受ケサル者及帳簿ノ記
載ヲ怠リタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處
ス

第二十三條 [削除]

改正稅率ニ依リ造石稅ヲ課セラルル醬油ニ付テハ非
常特別稅法ニ依ル醬油稅ノ増徴ヲ爲サス

同 施行規則

明治三十二年三月勅令第四六號
改正 三十五年第二五三號 三十七年第八八號
三十八年第六號

朕醬油稅則施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
醬油稅則施行規則

第一條 醬油ヲ製造セムトスル者ハ製造場ヲ定メ其
ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シタル免許申請書ヲ製
造場所轄稅務署長ニ提出スヘシ但シ自家用ノミノ
醬油ヲ製造セムトスル者ハ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署長ハ
醬油製造ノ免許ヲ與ヘサルヘシ

一 市街地又ハ稅務署所在地ヨリ一里以上ノ距
離アル場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ但シ
稅務署長ニ於テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリ
ト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 醬油稅則若ハ本令ニ違反シタル者又ハ其ノ
戶主、家族、同居者、雇人其ノ他從業者又ハ

稅務署長ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當

ト認ムル者カ免許ヲ申請シタルトキ

第三條 醬油製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハ
ス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第四條 醬油製造人ハ其ノ製造場毎ニ地所、建物ノ
詳細ナル圖面並醬油製造用容器ノ目錄ヲ調製シ事
業著手前ニ稅務署長ニ提出スヘシ

前項ノ容器ヲ修理シ又ハ前項ノ圖面目錄ニ記載シ
タル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ之ヲ申告スヘシ
醬油製造人ノ居所、氏名ニ異動ヲ生シタルトキ亦
同シ

第五條 醬油製造人ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ
又ハ容器ニ關シ同條第二項ノ申告ヲ爲シタルトキ
ハ稅務署長ハ其ノ容器ノ檢定ヲ爲スヘシ其ノ檢定
後ニ非サレハ醬油製造人ハ之ヲ使用スルコトヲ得
ス

稅務署長容器ノ檢査ヲ爲シタルトキハ之ニ番號其
ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スヘシ

第六條 醬油製造人ハ毎年見込込込石數、見込查定
石數及製造方法ヲ記シ前年十二月中ニ稅務署長ニ

テ之ヲ徵收ス

第九條 醬油ノ造石數ハ容器ノ容量ニ依リ一容器毎
ニ其ノ現在スル醬油ノ總量ニ就キ之ヲ查定スヘシ

前項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ醬油又ハ證憑
物件ニ就キ之ヲ查定スヘシ

第十條 醬油ヲ醬油製造ノ原料ニ供セムトスルトキ
ハ醬油ハ製成前溜ハ製成ノ際其ノ石數ノ檢査ヲ受
クヘシ

前項ニ依リ檢定ヲ受ケタル醬油ヲ製造場外ニ移サ
ムトスルトキハ稅務署長ニ申告スヘシ

第十一條 前條第一項ニ依リ檢定ヲ受ケタル醬油ヲ
賣渡、貸渡、讓渡、又ハ自用シ若ハ前條第二項ノ
申告ヲ爲サスシテ其ノ製造場外ニ移シタルトキハ
檢定石數ニ依リ其ノ造石數ヲ查定スヘシ

第十二條 左ニ掲グル場合ニ於テ收稅官吏カ必要ト
認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ醬油
製造人ハ其ノ承認ヲ受クヘシ

- 一 自己ノ所有ト否トヲ問ハス容器ヲ製造場外
ニ移出セムトスルトキ
- 二 原料用醬油ヲ使用セムトスルトキ

申告スヘシ但シ前年ノ製造方法ニ依ルモノハ其ノ
旨ヲ申告シ別ニ製造方法ヲ記載スル事ヲ要セス」
新ニ免許ヲ受ケタル者ハ事業著手前ニ前項ノ申告
ヲ爲スヘシ

前二項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルト
キハ之ヲ申告スヘシ

第七條 醬油製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ
其ノ旨所轄稅務署長ニ申告スヘシ

相續ノ場合ヲ除クノ外醬油製造業ノ引繼ヲ受ケム
トスル者ハ第一條ニ依リ醬油製造ノ免許申請書ヲ
所轄稅務署長ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テハ前製
造人ハ醬油稅則第一條ニ依リ其ノ免許ノ取消ヲ求
ムヘシ

第七條ノ二 醬油製造人其ノ製造場ヲ移轉セムトス
ルトキハ移轉先ノ所轄稅務署長ニ申請シ其ノ許可
ヲ受クヘシ

第七條ノ三 醬油製造人其ノ製造ヲ廢止セムトスル
トキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出スヘ
シ

第八條 醬油ノ造石稅ハ其ノ製造場所在ノ地方ニ於

三 諸味又ハ原料用醬油ノ容器ヲ變換セムトス
ルトキ

四 前各號ノ外收稅官吏カ指定シタル事項ヲ爲
サムトスルトキ

第十三條 造石數查定未濟ノ醬油漏溢其ノ他ノ事故
ニ依リ減量又ハ廢棄ニ屬シタルトキハ直ニ稅務署
長ニ申告スヘシ

第十四條 醬油稅則第十一條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ
請ハムトスル者ハ其ノ事實ノ生シタルトキ直ニ稅
務署長ニ申請スヘシ

第十五條 前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ稅務署長ハ
其ノ事實ヲ調査シ其ノ廢棄ヲ認ムルトキハ稅金ノ
免除處分ヲ爲スヘシ

第十六條 外國ニ輸出シタル醬油ノ造石稅下戻ヲ請
求セムトスル者ハ輸出港稅關ノ檢査濟證明書並輸
入港稅關ノ陸揚免狀若ハ其ノ他ノ證憑書類ヲ當初
ノ輸出港稅關ニ提出スヘシ

第十七條 醬油ヲ製成シタル後其ノ諸味造石數ノ算
出ヲ要スルトキハ所轄稅務署管内ニ於ケル前年中
ノ製成醬油一石ニ對スル諸味石數ノ平均歩合ニ依

ル但シ輸出醬油ノ造石稅下戻ノ場合ニ於テハ全國ニ於ケル前年中ノ製成醬油一石ニ對スル諸味石數ノ平均歩合ニ依ル

第十八條 溜粕ハ其ノ製成シタル溜ノ造石數査定ノ時之ヲ檢査スヘシ

第十九條 醬油製造人ハ毎年一月三十一日限り前年中ニ製成シタル醬油石數及其ノ諸味石數ヲ稅務署長ニ申告スヘシ

醬油製造ヲ廢止シタルトキハ其ノ年一月一日ヨリ廢止ノ日ニ至ルマテニ製成シタル醬油石數及其ノ諸味石數ヲ其ノ際申告スヘシ

第二十條 醬油製造人ハ醬油製造用原料品ノ受拂、醬油ノ仕込、製成、出入、消費ニ關シ詳細ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第二十條ノ二 收稅官吏ハ醬油製造人ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス
第二十一條 本令ニ於テ醬油製造人ト稱スルハ醬油製造ノ免許ヲ受ケタル者ヲ謂フ

造シタルモノヲ除ク

百斤ニ付 金二圓五十錢

丙 其ノ他ノモノ百斤ニ付 金三圓

第二種 砂糖色相和蘭標本第十五號未滿ノ砂糖 百斤ニ付 金五圓

第三種 砂糖色相和蘭標本第十八號未滿ノ砂糖 百斤ニ付 金七圓

第四種 砂糖色相和蘭標本第二十一號未滿ノ砂糖 百斤ニ付 金八圓

第五種 砂糖色相和蘭標本第二十一號以上ノ砂糖 百斤ニ付 金九圓

第六種 氷砂糖、角砂糖、棒砂糖其ノ他類似ノモノ 百斤ニ付 金十圓

二 糖蜜

第一種 氷砂糖ヲ製造スルトキニ生スル糖蜜

甲 糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ七十ヲ超エサルモノ 百斤ニ付 金三圓

乙 其ノ他ノモノ

糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量百斤

第十二章 砂糖消費稅法

明治三十四年三月法律第一三號

改正 三十五年第三號、三十八年第二六號、四十二年第二〇號、四十四年第五七號、四十四年第五七號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル砂糖消費稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

砂糖消費稅法

第一條 内地消費ノ目的ヲ以テ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラルル砂糖、糖蜜及糖水ニハ本法ニ依リ消費稅ヲ課ス

第二條 製品ノ原料トシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ使用スルハ其ノ消費ト看做ス

第三條 消費稅ノ割合左ノ如シ
一 砂糖

第一種 砂糖色相和蘭標本第十一號未滿ノ砂糖 百斤ニ付 金二圓

甲 樽入白糖 百斤ニ付 金二圓
乙 樽入白下糖但シ分蜜シタルモノ、白下糖以外ノ砂糖ニ加工シテ製造シタルモノ及全部又ハ一部ノ新式機械ニ依リ製

ニ付金九圓ノ割合ヲ以テ算出シタル金額

第二種 其ノ他ノ糖蜜

甲 糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ六十ヲ超エサルモノ 百斤ニ付 金二圓

乙 其ノ他ノモノ百斤ニ付 金三圓

丙 其ノ他ノモノ百斤ニ付 金八圓

三 糖水 百斤ニ付 金八圓

第四條 前條ノ消費稅ハ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルトキ之ヲ徵收ス但シ政府ニ於テ相當ト認ムル擔保ヲ提供スルトキハ六箇月以内消費稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ其ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ見本ヲ採取スルコトヲ得

前項ニ依リ擔保ヲ提供シタル者期限内ニ税金ヲ納付セサルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ消費稅及公賣ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ擔保提供者ニ還付ス

擔保物ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第五條 内地消費ノ目的ニ非スシテ製造場、稅關又

ハ保税倉庫ヨリ引取ラルル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ付テハ消費税ニ相當スル擔保ヲ提供スルコトヲ要ス擔保物ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ニ依リ擔保ヲ供シタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニシテ引取後六箇月内ニ外國ニ輸出セラレタルノ證明ナキモノハ内地消費ニ供セラレタルモノト看做シ擔保ヲ以テ消費税ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ消費税及公賣ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ擔保提供者ニ還付ス

第六條 消費税納付前又ハ擔保提供前ニ於テハ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルコトヲ要ス

第七條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ消費税納付前又ハ擔保提供前ニ於テ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ他ニ引渡シ又ハ政府ノ承認ヲ得スシテ之ヲ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ得テ消費税納付前又ハ擔保提供前砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造場外ニ移出シタル場合ニ於テハ移出先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先ノ營業人ヲ以テ製造者ト看做ス

查シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條ノ一 政府ノ承認ヲ受ケ砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ引取ラル、砂糖及糖蜜ニハ消費税ヲ課セス

前項ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ引取ルトキハ其ノ税金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第一項ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ引取リタル後六箇月以内ニ砂糖、糖水又ハ酒精ヲ製造セサルトキハ消費税ヲ徴收ス但シ災害ニ因リ亡失シタルモノニシテ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條第二項及第三項ノ規定ハ本條ノ場合ニ之ヲ適用ス

第十一條ノ二 第六條及第七條ノ規定ハ前條ノ砂糖又ハ糖蜜ノ引取及引渡ニ之ヲ適用セス

第十一條ノ三 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ砂糖ヲ製造シタルモノト看做ス

一 砂糖ニ加工ヲ爲シテ其ノ種別ヲ上昇シタルトキ

二 砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ砂糖、糖蜜又ハ糖水以外ノ物品ヲ混和シ其ノ種別ヲ上昇シ又ハ其

第八條 砂糖 糖蜜又ハ糖水ヲ製造セムトスル者ハ政府ニ申告スヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ

第八條ノ二 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ同一ノ場所ニ於テ砂糖、糖蜜若ハ糖水ノ販賣業又ハ砂糖、糖蜜若ハ糖水ヲ原料トスル砂糖、糖蜜若ハ糖水以外ノ物品ノ製造業ヲ兼營スルコトヲ得ス但シ政府ノ認許ヲ得砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造場ト販賣場又ハ砂糖、糖蜜若ハ糖水ヲ原料トスル砂糖、糖蜜若ハ糖水以外ノ物品ノ製造場トヲ區別シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者之ヲ販賣スル者又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ハ帳簿ヲ備ヘ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造、出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第十條 收税官吏ハ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者之ヲ販賣スル者又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ノ所持ニ係ル砂糖、糖蜜、糖水其ノ製造、出入ニ關スル帳簿書類及其ノ製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ檢

ノ數量ヲ増加シタルトキ但シ其ノ種別ヲ下降シタルトキ又ハ水ノミヲ混和シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

三 第八條ノ規定ニ依リ申告ヲ爲シタル製造場ニ於テ砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ混和シタル時但シ糖蜜又ハ糖水ニ同種ノ糖蜜又ハ糖水ヲ混和シタル時ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 第六條又ハ第七條ノ禁令ヲ犯シタル者ハ消費税五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十三條 政府ニ申告セスシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條ノ二 第八條ノ二ノ禁令ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ原料トスル物品ヲ製造シタルトキハ第十二條ノ例ニ依ル

第十四條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者之ヲ販賣スル者又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者、砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造、出入ニ關シ

帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十五條 收稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十六條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ【不論罪】及【再犯加重、數罪俱發】ノ例ヲ用キス但シ刑法【第七十五條第一項】ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者之ヲ販賣スル者又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ義務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第十八條 本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條 本法施行前ヨリ引續キ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ本法施行後一箇月以内ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スヘシ

ヲ命シタルトキハ砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者ハ之ヲ提出スルコトヲ要ス

第四條 砂糖、糖蜜、糖水製造者ハ製造著手ノ時期ヲ定メ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ製造休止後更ニ著手セムトスルトキ亦同シ

第五條 第一條及第四條ニ依リ申告シタル事項又ハ第三條ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度所轄稅務署ニ申告スヘシ

第六條 砂糖、糖蜜、糖水製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第七條 收稅官吏ハ隨時砂糖、糖蜜、糖水ノ製造場ニ就キ砂糖、糖蜜、糖水其ノ原料品、製造用器具、器械又ハ帳簿、書類ヲ檢査スヘシ

第八條 收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ砂糖、糖蜜、糖水製造者ノ貯藏ニ係ル砂糖、糖蜜、糖水其ノ貯藏場又ハ其ノ製造用器具、器械ニ封印ヲ施スコトヲ得

第九條 砂糖消費税法第七條第二項ニ依リ砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造場外ニ移出セムトスル者ハ砂糖消

前項ニ違反シタル者ニハ第十三條ヲ適用ス
本令ニ改正ヲ加ヘタル明治三十五年法律第二十一號ノ附則
本法施行前ニ於テ消費稅ヲ課セラレタル砂糖及糖蜜ヲ本法施行後ニ於テ砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ使用スルトキハ仍從前ノ規定ニ依ル

●同 施行規則

明治三十四年八月勅令第一六九號

改正 三十五年法律第二十一號、三十七年法律第一〇八號、三十八年法律第七〇號、三十九年法律第三十四號、大正三年法律第三十四號

朕砂糖消費税法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ種類ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第二條 製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第三條 所轄稅務署ニ於テ必要ト認メ砂糖製造場ノ圖面又ハ製造用器具器械ノ目錄ヲ提出スヘキコト

費稅法第三條ノ種別、斤數、移出ノ日、移出先及出移先到達豫定日ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

前項ノ申告アリタルトキハ取締上支障ナシト認ムル場合ニ限り移出ノ承認ヲ爲スヘシ

前項ノ承認ヲ爲シタル場合ニ於テ收稅官吏必要ト認ムルトキハ砂糖、糖蜜、糖水ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトヲ得

第九條ノ二 内地移入糖ハ砂糖消費税法第七條第二項ニ依リ大藏大臣ノ指定シタル移入場ニ移入スヘシ

第九條ノ三 移入場ノ指定ハ移入場主ノ申請ニ因リ之ヲ爲ス

前項ノ指定ヲ受ケムトスル者ハ倉庫ノ所在地、名稱、所有者ノ住所氏名又ハ名稱其ノ他必要ナル事項ヲ記載シタル申請書ニ土地、建物ノ詳細ナル圖面ヲ添附シ大藏大臣ニ提出スヘシ

大藏大臣ハ必要アリト認ムルトキハ移入場主ニ對シ内地移入糖ノ藏置ニ關シ條件ヲ指定シ又ハ收稅官吏ノ職務執行ニ關シ相當ナル設備ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ條件ニ從ハス又ハ設備ヲ爲ササルトキハ移入場ノ指定ヲ取消シ又ハ内地移入糖ノ移入ヲ停止スルコトヲ得

第九條ノ四 内地移入糖ヲ積載シタル船舶移入地ニ到達シタルトキハ船長ハ到達ノ時ヨリ二十四時間内ニ其ノ旨移入地所轄稅務署ニ申告シ且當該官廳ノ證明シタル積載明細書ヲ提出スヘシ

第九條ノ五 移入地ニ到達シタル内地移入糖ハ收稅官吏ノ指揮ニ從ヒ積卸ヲ爲シ移入場ニ庫入スヘシ

第九條ノ六 移入場庫入前内地移入糖ニ付砂糖消費税法第十一條ノ一項ニ依ル原料引取ノ申告ヲ爲シ移入地所轄稅務署ノ承認ヲ受ケタルトキハ移入場ニ庫入ヲ爲サスシテ直ニ之ヲ砂糖、糖水又ハ酒精ノ製造場ニ引取ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ移入場ニ庫入アリタルモノト看做シ引取ノ承認ヲ爲シタルトキヲ以テ移入場ヨリ引取リタルモノト看做ス

第九條ノ七 内地移入糖ノ移入者ハ當該官廳ノ下付シタル移出承認書ノ回付ヲ受ケ置キ内地移入糖ヲ移入シタルトキ直ニ之ヲ所轄稅務署ニ提出シ移入

ノ證明ヲ受クヘシ

第九條ノ八 内地移入糖ヲ船積シタル後移入者ニ於テ其ノ移入地ヲ變更セムトスルトキハ其ノ旨新移入地所轄稅務署ニ申告シ其ノ承認ヲ受クヘシ

第九條ノ九 内地移入糖ヲ船積シタル後移入地到達前ニ於テ内地移入糖ノ積換ヲ爲サムトスルトキハ船長ハ其ノ旨最寄稅務署ニ申告シ當該官廳ノ證明シタル積載明細書ヲ提出シ其ノ承認ヲ受クヘシ

前項ニ依リ積換ヲ爲シタルトキハ船長ハ前項積載明細書ニ準シ更ニ積載明細書ヲ作成シ當該稅務署ニ提出シテ其ノ證明ヲ受クヘシ

第九條ノ十 船積シタル内地移入糖災害ニ因リ亡失シタルトキハ船長ハ直ニ最寄稅務署ニ其ノ事實ヲ申告シ證明書ノ下付ヲ受クヘシ

前項ノ證明書ハ當該官廳ノ下付シタル亡失證明書ハ第九條ノ四ノ規定ニ依ル積載明細書ノ提出ト同時ニ移入地所轄稅務署ニ之ヲ提出スヘシ

第九條ノ十一 移入場ニ於ケル内地移入糖ノ藏置ニ關シテハ收稅官吏ノ指揮ニ從フヘシ

第九條ノ十二 所轄稅務署ニ於テ必要アリト認ムルハ砂糖消費税法第三條ノ種別及斤數ヲ査定シ其ノ直ニ消費稅ヲ徵收スヘキモノハ其ノ徵收ノ手續ヲ爲シ其ノ擔保ノ提供ヲ要スルモノハ提供スヘキ擔保額ヲ指定スヘシ但シ豫メ納稅擔保ヲ提供シタルモノニ付テハ其ノ都度擔保額ノ査定ヲ要セス

第十三條 收稅官吏ハ金庫所在地外ニ限り自ラ消費稅金ノ領收ヲ取扱フコトヲ得

納稅義務者ハ金庫所在地外ニ在ル製造場ヨリ千斤未滿ノ第一種若ハ第二種砂糖又ハ糖蜜ヲ引取ル場合ニ限り收入印紙ヲ以テ砂糖消費稅ヲ納ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ砂糖消費稅査定書ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ニ消印スヘシ

東京府管下、鹿兒島縣管下ノ島嶼及沖繩縣ニ於テハ前項斤數ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第十四條 收稅官吏ハ口頭ヲ以テ納稅告知ヲ爲スコトヲ得

第十五條 擔保物ノ種類ハ左ニ掲グルモノニ限ルトヲ得

- 一 金錢
- 二 稅務署長ニ於テ確實ト認ムル有價證券
- 三 工場財團

トキハ移入場ニ於ケル藏置期間ヲ指定スルコトヲ得

第十條 製造場又ハ保税地域ヨリ砂糖、糖蜜、糖水ヲ引取ラムトスル者ハ引取ノ目的及砂糖消費税法

第三條ノ種別斤數ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十一條 砂糖消費税法第四條ノ一項但書及同法第十一條ノ一項ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ前條

ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ

砂糖消費税法第十一條ノ一項ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ前項申請ノ際砂糖又ハ糖蜜ノ種類、量

目、引取ノ場所及時期、製造スヘキモノノ種類、製造ノ場所及時期ヲ申出ツルコトヲ要ス

砂糖消費税法第十一條ノ一項ニ依リ收稅官吏ノ承認シタル砂糖又ハ糖蜜ニ付テハ第九條第三項ヲ準用ス

第十一條ノ二 砂糖消費税法第十一條ノ一項ニ依リ原料引取ノ承認ヲ請フ者アル場合ニ於テ所轄稅務署ニ於テ必要ト認ムルトキハ毎回ノ引取斤數ヲ制限スルコトヲ得

第十二條 第十條ノ申告アリタルトキハ所轄稅務署

第十五條ノ二 擔保物ノ價格ニ特別ノ規定アルモノ
ヲ除クノ外稅務署長ノ定ムル所ニ依ル
第十五條ノ三 擔保トシテ金錢、有價證券ヲ提供セ
ムトスル者ハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出ス
ヘシ
擔保トシテ工場財團ヲ提供シタル者アルトキハ稅
務署長ハ抵當權ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ但シ
臺灣ニ於ケル工場財團ヲ提供シタルトキハ胎權設
定ノ手續ヲ爲スヘシ
第十六條 稅務署長ニ於テ擔保物ノ價格減少シタリ
ト認ムルトキハ増擔保ヲ提供セシムルコトヲ得
擔保トシテ提供シタル有價證券ノ償却ヲ受クルニ
至リタルトキハ所轄稅務署ハ擔保提供者ヲシテ直
ニ之ニ代ルヘキ擔保ヲ提供セシムヘシ
前二項ニ依リ擔保ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提
供セサルトキハ所轄稅務署ハ直ニ消費稅ヲ徵收ス
第十七條 砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者又ハ稅關砂糖、
糖蜜、糖水ノ引渡ヲ爲ストキハ引取者ヲシテ消費
稅納付濟、擔保提供濟又ハ無擔保引取承認濟ナル
コトヲ證明セシムルコトヲ要ス

第十八條ノ一 砂糖消費税法第五條ニ依リ提供シタ
ル擔保ノ解除ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ左ノ
書類ヲ添附シテ所轄稅務署ニ提出スヘシ
一 輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類
二 外國輸入港稅關ノ輸入免狀又ハ其ノ他外國
ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類
第十八條ノ二 砂糖消費税法第十一條ノ一ニ依リ提
供シタル擔保ノ解除ヲ請求セムトスル者ハ申請書
ニ擔保提供濟ナルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附シ擔
保ヲ提供シタル稅務署ニ申請スヘシ
前項ノ場合ニ於テ其ノ申請スヘキ稅務署カ製造場
所轄稅務署ト異ルトキハ砂糖、糖水又ハ酒精ヲ製
造シタルコトヲ證スヘキ書類ヲモ添附スルコトヲ
要ス
第十九條 砂糖消費税法第四條第二項、第五條第二
項及第十一條ノ一第四項ニ依リ擔保物ヲ公賣ニ付
スヘキトキハ之ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ少クトモ
三日ヲ經過シタル後之ヲ公賣スヘシ
第二十條 前條ノ公告ニハ擔保提供者ノ住所、氏名
又ハ名稱、公賣財產ノ種類、金額、公賣ノ場所及

時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ
第二十一條 公賣決行前ニ消費稅及費用ヲ完納シタ
ルトキハ公賣ヲ中止スヘシ
第二十二條 砂糖消費税法第四條第二項但書、第五
條第二項但書及第十一條ノ一第四項ニ依リ擔保提
供者ニ還付スヘキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコ
トヲ得
第二十三條 砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ
引取リタル砂糖、糖蜜ハ他ノ砂糖又ハ糖蜜ト區別
シテ之ヲ藏置スヘシ
第二十四條 砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ
引取リタル砂糖又ハ糖蜜ヲ使用セムトスルトキハ
豫メ收稅官吏ニ申告シテ其ノ検査ヲ受クヘシ
第二十五條 前條砂糖、糖水又ハ酒精ノ製造ヲ終リ
タルトキハ相當期間内ニ其ノ使用シタル原料ノ種
類、量目及製造シタルモノノ種類、量目ヲ收稅官吏
ニ申告スヘシ
第二十五條ノ二 收稅官吏職務ノ爲内地移入糖ヲ積
載スル船舶ニ乗込ムトキハ船長ハ相當ノ便宜ヲ與
フヘシ

第二十五條ノ三 收稅官吏ハ内地移入糖ヲ積載スル
船舶ニ就キ内地移入糖又ハ之ニ關スル帳簿書類等
ヲ検査スルコトヲ得
收稅官吏必要ト認ムルトキハ内地移入糖ニ封印ヲ
施シ又ハ護送スルコトヲ得
第二十六條 砂糖、糖蜜、糖水製造者又ハ砂糖消費稅
法第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ハ
少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
一 原料ノ種類、量目、他ヨリ引取リタルモノ
ニ在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏
名又ハ名稱
二 使用シタル原料ノ種類、量目及其ノ使用ノ
日
三 製造シタル砂糖、糖蜜、糖水又ハ砂糖、糖
蜜、糖水ヲ原料トスル物品ノ種類、量目及其
ノ製造ノ日
四 他ニ引渡シタル砂糖、糖蜜、糖水、又ハ砂
糖、糖蜜、糖水ヲ原料トスル物品ノ種類、量
目、價額、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏
名又ハ名稱

第二十七條 砂糖、糖蜜、糖水ヲ販賣スル者ハ少ク

トモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 引取リタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目、價額、引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二 販賣シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目、價額、販賣ノ日及其ノ買受人ノ住所、氏名又ハ名稱

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所、氏名又ハ名稱ノ記載ヲ要セス

第二十八條 收稅官吏ハ砂糖、糖蜜、糖水製造者及販賣者並砂糖消費稅法第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二十八條ノ二 本令ニ於テ内地移入糖ト稱スルハ臺灣ヨリ移出シ内地又ハ樺太ニ移入スル砂糖、糖蜜、糖水ヲ謂フ

第二十九條 本令中稅務署ニ屬スル事務ハ保稅地域ヨリ引取ラルル砂糖ニ關シテハ稅關之ヲ行フ

附則

定價總額三千圓未滿ノモノ 金十二圓

定價總額五千圓未滿ノモノ 金十七圓

定價總額一萬圓未滿ノモノ 金二十二圓

定價總額二萬圓未滿ノモノ 金三十二圓

定價總額三萬圓未滿ノモノ 金四十二圓

定價總額五萬圓未滿ノモノ 金五十七圓

定價總額七萬圓未滿ノモノ 金七十二圓

定價總額十萬圓未滿ノモノ 金八十七圓

定價總額十萬圓以上ノモノ 金百二圓

前項ノ定價總額ハ前年中ノ總額ニ依ル但シ前年又ハ其ノ年免許ヲ受ケタル者ニ付テハ其ノ年製造高ノ豫算定價額ニ依ル

外國ニ輸出スル賣藥ニ付テハ外國ニ輸出セサル賣藥ニ準シ定メタル價格ヲ以テ定價ト看做ス

第一條ノ三 賣藥營業者ニ箇所以上ニ於テ營業スルトキハ營業場毎ニ前條ノ賣藥營業稅ヲ納ムヘシ

第一條ノ四 賣藥營業者ハ毎年一月十五日迄ニ課稅標準額ヲ所轄收稅官廳ニ申告スヘシ但シ其ノ年免許ヲ受ケタル者ハ免許ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ申告スヘシ

第三十條 砂糖消費稅法第十九條ニ依リ政府ニ申告スヘキ場合ニ於テハ第一條ニ準シテ所轄稅務署ニ申告スヘシ

附則 (大正三年三月十八日)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十三章 賣藥稅法

明治三八年五月法律第七一號

改正 四三年第八號四年第四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル賣藥稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

賣藥稅法 第一條 本法ニ於テ賣藥營業者ト稱スルハ賣藥規則ニ依ル賣藥營業者ヲ謂フ

第一條ノ二 賣藥營業者ニハ藥劑一方毎ニ一年間製造高ノ定價總額ニ應シ毎年左ノ賣藥營業稅ヲ課ス

定價總額三百圓未滿ノモノ 金三圓

定價總額五百圓未滿ノモノ 金五圓

定價總額千圓未滿ノモノ 金七圓

定價總額二千圓未滿ノモノ 金九圓

第一條ノ五 賣藥營業稅ハ年額ヲ二分シ一月及七月之ヲ徵收ス但シ納期限ヲ經過シテ免許ヲ受ケタル場合ニ於テハ當該納期ニ納ムヘキ税金ハ即納トス

賣藥營業者六月以前ニ廢業シ又ハ賣藥ノ發賣ヲ禁止セラレタルトキハ七月ニ納ムヘキ税金ハ之ヲ免除ス

第一條ノ六 北海道及府縣ハ賣藥營業稅ニ對シ本稅百分ノ三以內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

市町村及北海道沖繩縣ノ區ハ賣藥營業稅ニ對シ本稅百分ノ五以內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

第二條 賣藥ニハ定價一割ノ賣藥印紙稅ヲ課ス

定價一錢未滿ナルトキ又一錢未滿ノ端數アルトキハ一錢未滿ノ金額ハ總テ之ヲ一錢トシテ賣藥印紙稅ヲ計算ス

賣藥印紙稅ハ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス

第一條 賣藥ニハ定價一割ノ賣藥稅ヲ課ス

定價一錢未滿ナルトキ又一錢未滿ノ端數アルトキハ一錢未滿ノ金額ハ總テ之ヲ一錢トシテ賣藥稅ヲ計算ス

第二條 賣藥稅ハ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス

第三條 賣藥營業者ハ賣藥ノ容器又ハ包紙等ニ定價ヲ附記シ其ノ賣藥印紙稅ニ相當スル印紙ヲ貼用シテ印紙面ヨリ他所ニカケ消印スヘシ

第四條 賣藥營業者ハ賣藥ノ容器又ハ包紙等ニ貼用印紙ヲ破毀スルニ非サレハ賣藥ヲ取出スコトヲ得サルノ裝置ヲ爲スヘシ

第五條 賣藥營業者定價ヲ増加シテ賣藥ヲ販賣セムトスルトキハ其ノ定價ヲ改記シ其ノ賣藥印紙稅ニ相當スル印紙ヲ増貼スヘシ

第六條 賣藥營業者、請賣者及行商者ハ帳簿ヲ調製シ賣藥ノ製造出入ニ關スル事實ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第七條 賣藥營業者ハ相當印紙ノ貼用ナキ賣藥、第三條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル賣藥又ハ第四條ノ裝置ヲ爲ササル賣藥ヲ販賣スル事ヲ得ス

第八條 賣藥請賣者又ハ行商者ハ相當印紙ノ貼用ナキ賣藥、第三條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル賣藥又ハ第四條ノ裝置ヲ爲ササル賣藥ヲ所持スルコトヲ得ス

第八條 收稅官吏ハ前條ニ違反シタル賣藥ヲ發見ス

賣藥營業者定價ヲ附記セサル賣藥ヲ販賣シタルトキハ二圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス因リテ脫稅ヲ爲シタル者ハ前項ニ依リテ處斷ス

第十三條 賣藥營業者第三條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル賣藥又ハ第四條ノ裝置ヲ爲ササル賣藥ヲ販賣シタルトキハ三圓以上五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

賣藥請賣者又ハ行商者相當印紙ノ貼用ナキ賣藥ヲ所持又ハ販賣シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ第三條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル賣藥又ハ第四條ノ裝置ヲ爲ササル賣藥ヲ所持又ハ販賣シタルトキハ三圓以上五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十三條ノ二 第一條ノ四ノ申告ヲ爲サス又ハ虛偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ一圓以上ノ科料ニ處ス因リテ賣藥營業稅ヲ通脫シタル者ハ脫稅金額三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス

第十四條 賣藥營業者、請賣者又ハ行商者賣藥ノ製造出入ニ關スル帳簿書類ヲ隱匿シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ帳簿ヲ調製セ

ルトキハ處罰セラレタルト否トヲ問ハス賣藥營業者ノ費用ヲ以テ印紙ヲ貼用シ、貼用印紙ニ消印シ又ハ相當ノ裝置ヲ爲スコトヲ得

第九條 收稅官吏ハ賣藥ノ所在ニ就キ檢査ヲ爲シ又ハ賣藥營業者、請賣者及行商者ノ帳簿書類ヲ檢閲スルコトヲ得

第十條 外國ニ輸出スル賣藥ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ賣藥印紙稅ヲ免除ス

前項ノ賣藥ニ付テハ第二條乃至第五條、第六條第八條及第十一條乃至第十三條ヲ適用セス

第十一條 賣藥營業者ニシテ所持ノ賣藥中性效ヲ失シタルモノヲ廢棄セムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ既貼印紙ト新印紙トノ交換ヲ請求スルコトヲ得

第十二條 賣藥營業者相當印紙ノ貼用ナキ賣藥ヲ販賣シ又ハ附記定價以上ニ賣藥ヲ販賣シタルトキハ脫稅高二十倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ脫稅高二十倍ノ金額五圓ニ達セサルトキハ五圓ノ科料ニ處ス

又ハ其ノ記載ヲ怠リ若シクハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十五條 收稅官吏ノ尋問ニ對シ虛偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ收稅官吏ノ職務執行ヲ拒ミ、之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十六條 本法ノ規定ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕【再犯加重】及【數罪俱發】ノ例ヲ用キス

第十七條 賣藥營業者、請賣者及行商者カ未成年者又ハ禁治產者ナル時ハ本法ノ規定ニ依リ賣藥營業者、請賣者及行商者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 賣藥營業者、請賣者及行商者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十九條 賣藥類似品及其ノ營業者、請賣者及行商者ニ關シテハ本法ノ規定ヲ準用ス

賣藥類似品ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 本法ニ依リ賣藥營業稅ヲ課セラレタル者ニハ營業稅ヲ課セス

附則

賣藥印紙稅規則ハ之ヲ廢止ス

本法施行ノ際販賣ノ爲賣藥類似品ヲ所持スル者ハ本法施行ノ日ヨリ三十日以内ニ本法第三條及第四條ニ依リ印紙ヲ貼用スヘシ

本令ニ改正ヲ加ヘタル明治四十三年法律第八號ノ附則

本法ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

賣藥規則中及非常特別稅法中賣藥營業稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

同 施行規則

明治三十八年五月勅令第一五五號
改正 四三年第四五號

朕賣藥稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

ヲ爲シタルトキハ調書ヲ作り違反ニ係ル賣藥ヲ所持スル者ト共ニ署名捺印スヘシ

前項ノ場合ニ於テ違反ニ係ル賣藥ヲ所持スル者署名捺印ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ之ヲ拒ミタルトキハ收稅官吏ハ其ノ旨ヲ調書ニ記載スヘシ

第五條 賣藥ヲ外國ニ輸出シ賣藥印紙稅ノ免除ヲ得ムトスル者ハ收稅官吏ノ承認ヲ受ケ他ノ賣藥ト區別シテ之ヲ藏置スヘシ

前項ノ賣藥ヲ運搬セムトスル時ハ運搬線路及運搬先又ハ輸出港ヲ定メ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

前二項ノ場合ニ於テ收稅官吏必要ト認ムルトキハ其ノ賣藥ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトアルヘシ

第六條 前條第一項ノ承認ヲ受ケタル後六箇月ヲ過キ賣藥ヲ輸出セサル時ハ承認ハ其ノ效力ヲ失フ

前條第一項ノ承認カ效力ヲ失ヒタルトキ又ハ輸出ノ目的ヲ廢止シタルトキハ賣藥營業者又ハ輸出者ニ於テ其ノ賣藥ニ印紙ヲ貼用シ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ但シ收稅官吏ノ承認ヲ受ケ賣藥ヲ廢棄スルトキハ印紙ノ貼用ヲ要セス

賣藥稅法施行規則

第一條 賣藥營業者ハ賣藥ノ容器又ハ包紙等ニ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記載スヘシ

第二條 賣藥營業者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 製造又ハ輸入シタル賣藥ノ品名、數量、定價及其ノ製造又ハ輸入ノ日
- 二 他ニ引渡シタル賣藥ノ品名、數量、價額、引渡ノ日及其引渡先
- 三 買入レタル印紙ノ數量、金額及其買入先
- 四 貼用シタル印紙ノ數量、金額

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號引渡先ノ記載ヲ要セス

第三條 賣藥請賣者及行商者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 引取リタル賣藥ノ品名、數量、價額、引取ノ日及引取先
- 二 他ニ引渡シタル賣藥ノ品名、數量、價額及引渡ノ日

第四條 收稅官吏賣藥稅法第八條第一項ニ依ル處分

前項輸出者ニ關シテハ賣藥營業者ノ例ニ依ル

第六條 二 第五條ノ藏置又ハ運搬中賣藥ノ裝置ノ變更ヲ要スルニ至リタルトキハ收稅官吏ノ承認ヲ受ケ製造場へ戻入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第五條第三項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ賣藥ヲ輸出セントスルトキハ更ニ第五條ノ承認ヲ受クヘシ

第七條 賣藥稅法第十一條ニ依リ印紙ノ交換ヲ請求セムトスル者ハ賣藥ノ品名、數量、定價及交付ヲ受クヘキ印紙各種枚數ヲ記載シタル書面ニ其ノ賣藥ヲ添へ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第八條 左ノ場合ニ於テハ所轄稅務署ハ印紙ノ交換ヲ爲サス

- 一 既貼印紙ノ金額一口十圓未滿ナルトキ
- 二 賣藥ノ裝置又ハ印紙ノ貼用不完全ナルトキ
- 三 既貼印紙汚染又ハ毀傷ニ係ルトキ

第九條 印紙ノ交換ハ左ノ割合ニ依ル

- 一 既貼印紙 二十圓未滿一圓ニ付
新印紙 八十錢
- 二 既貼印紙 二十圓以上一圓ニ付

新印紙 八十五錢

第十條 所轄稅務署ニ於テ印紙ノ交換ヲ爲スヘキモノト認メタルトキハ既貼ノ印紙ニ消印シ又ハ之ヲ切斷シタル後其ノ賣藥ヲ下戻シ同時ニ新印紙ヲ交付スヘシ

第十一條 藥品ヲ用キ又ハ之ヲ配伍シテ製造シタル物品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル效驗アリトシテ發賣スルモノハ賣藥稅法第十九條ニ依ル賣藥類似品トス但シ醫藥又ハ單ニ滋養若ハ消毒ノ效驗アリトスルモノ及大藏大臣ノ特ニ認許シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 疾病ヲ豫防スルコト

二 治病ニ效驗アリト謂フニ非サルモ心身ヲ爽快ニシ音聲ヲ改善シ又ハ精氣ヲ増進スルコト

三 皮膚毛髮ノ色澤組織ヲ變更シ又ハ身體ノ惡臭ヲ去ルコト

四 疥癬其ノ他皮膚ノ障害ヲ除去スルコト

第十二條 前條但書ニ依リ大藏大臣ノ認許ヲ得ムトスル者ハ其ノ物品ノ製造方法及效驗ヲ記載シ見本ヲ添ヘ所轄稅務署ヲ經由シテ大藏大臣ニ申請スヘシ

以上ノモノニ限り記載金高一萬分ノ五ノ割合ヲ以テ印紙稅ヲ納ムヘシ但シ印紙稅額五十圓トナルトキハ五十圓ニ止メ一錢未滿トナリ又ハ一錢未滿ノ端數ヲ生スルトキハ一錢ニ切上タルモノトス金高記載ナキモ證書面ニ標記シアル價額ノ單位又ハ其ノ他ノ記載事項ニ依リ其ノ金高ヲ算出スルコトヲ得ルモノハ其ノ總金額ヲ以テ記載金高ト看做ス

第三條 約束手形ニ關シテハ一通毎ニ其ノ記載金高ニ應シ左ノ印紙稅ヲ納ムヘシ

金高二百圓以下ノモノ	印紙稅	三錢
金高千圓以下ノモノ	印紙稅	五錢
金高五千圓以下ノモノ	印紙稅	十錢
金高一萬圓以下ノモノ	印紙稅	二十錢
金高二萬圓以下ノモノ	印紙稅	五十錢
金高三萬圓以下ノモノ	印紙稅	一圓
金高五萬圓以下ノモノ	印紙稅	二圓
金高十萬圓以下ノモノ	印紙稅	四圓
金高十萬圓ヲ超ユルモノ	印紙稅	七圓

第四條 左ニ掲グル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一

第十三條 收稅官吏ハ賣藥營業者、請賣者及行商者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第十四條 本令中賣藥營業者、請賣者及行商者ニ關スル規定ハ之ヲ賣藥類似品營業者ニ準用ス

附則

本令ハ賣藥稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十四章 印紙稅法

明治三十二年三月法律第五四號
改正
三十四年第一次改正、四〇年第三次改正、
四四年第四次改正

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル印紙稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

印紙稅法

第一條 財產權ノ創設、移轉、變更若ハ消滅ヲ證明スヘキ證書、帳簿及財產權ニ關スル追認若ハ承認ヲ證明スヘキ證書ヲ作成スル者ハ此ノ法律ニ依リ印紙稅ヲ納ムヘシ

第二條 證書ニ關シテハ一通毎ニ其ノ記載金高五圓

通毎ニ帳簿ハ一冊一年以内ノ附込ニ對シ下ニ定ムル所ノ印紙稅ヲ納ムヘシ

一 委任狀	印紙稅	二錢
一 爲替手形	印紙稅	三錢
一 銀行預金證書	印紙稅	三錢
一 船荷證券	印紙稅	三錢
一 運送貨物引換證	印紙稅	三錢
一 倉荷預證券	印紙稅	三錢
一 倉荷買入證券	印紙稅	三錢
一 保險證券	印紙稅	三錢
一 債券	印紙稅	三錢
一 株式申込證	印紙稅	三錢
一 地上權、永小作權、地役權ニ關スル證書	印紙稅	三錢
一 使用貸借、質貸借、質借、寄託、定期金ニ關スル契約證書	印紙稅	三錢
一 定款及組合契約書	印紙稅	三錢
一 權利ノ變更ニ關スル證書	印紙稅	三錢
一 追認、承認ニ關スル證書	印紙稅	三錢
一 物品切手	印紙稅	三錢
一 賣買仕切書	印紙稅	三錢

- 一 送狀 印紙稅 三錢
 - 一 受取書 印紙稅 三錢
 - 一 金高記載ナキ證書 印紙稅 三錢
 - 一 擔保品差入證書、擔保品預證書 印紙稅 三錢
 - 一 通帳 印紙稅 三錢
 - 一 判取帳 印紙稅 二十五錢
- 第五條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス
- 一 官廳又ハ公署ヨリ發スル證書、帳簿
 - 一 官廳又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル證書、帳簿
 - 一 國庫金ノ取扱ニ關シ發スル證書
 - 一 慈善又ハ公共事業ノ爲ニスル金員物件ノ寄附ニ關シ人民ヨリ官廳若ハ公署ニ提出スル證書
 - 一 俸給、給料、歳費、手當金、賞與金、年金、恩給金、扶助料、旅費及救恤金ノ受取書
 - 一 小切手
 - 一 金高一圓未滿ノ物品切手
 - 一 金高五圓未滿若ハ金高記載ナキ又ハ運送契約ニ依ラサル送狀

- 一 金高五圓未滿若ハ金高記載ナキ又ハ營業ニ關セサル受取書
 - 一 金高五圓未滿若ハ金高記載ナキ又ハ非營業者ニ發スル賣買仕切書
 - 一 主タル債務ノ證書ニ併記シタル擔保契約
 - 一 證券ノ裏書及手形ノ裏面ニ記載シタル受取書
 - 一 株券、債券ノ讓渡ヲ證明スヘキ裏面記載
 - 一 手形ノ引受、保證
 - 一 手形及證券ノ拒絕證書
 - 一 手形及證券ノ複本、謄本
- 第六條 印紙稅ハ證書、帳簿ニ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス但シ印紙稅額ニ相當スル現金ヲ政府ニ納付シテ稅印ノ押捺ヲ受ケ印紙貼用ニ代フルコトヲ得
- 第七條 一冊ノ帳簿ヲ一年以上使用スルトキハ別帳簿ヲ調製シタルモノト看做ス
- 第八條 證書ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ內國貨幣ニ換算シタル金高ニ相當スル印紙ヲ貼用スヘシ
- 第九條 印紙ヲ貼用スルトキハ證書又ハ帳簿ノ紙面

- ト印紙ノ彩紋トニカケテ證書又ハ帳簿作成者ノ印章又ハ署名ヲ以テ判明ニ之ヲ消スヘシ
- 第十條 印紙ヲ貼用スヘキ帳簿、賣買仕切書、送狀ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ
- 第十一條 證書、帳簿ニ相當印紙ヲ貼用セス又ハ第六條但書ニ依リ稅印ノ押捺ヲ受ケサル者ハ脫稅高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス
- 第十二條 第十條ノ檢査ヲ拒ミタル者ハ二圓以上ノ科料ニ處ス
- 第十三條 第九條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第十四條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ【不論罪】、減輕、【再犯加重、數罪俱發】ノ例ヲ用キス
- 第十五條、此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス
- 第十六條 明治十七年第十一號布告證券印稅規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス
- 第十七條 明治十七年第十一號布告證券印稅規則ニ依ル手形用紙ニシテ此ノ法律施行ノ際自用者ノ所

第十五章 關稅定率法

明治四十四年四月法律第五四號

改正 四十五年第八、第九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル關稅定率法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

關稅定率法

持ニ係ルモノハ此ノ法律施行後ニ於テモ仍之ヲ使用スルコトヲ得但シ手形用紙記載ノ稅金高以上ニ之ヲ使用セムトスルトキハ其ノ不足額ハ印紙ヲ貼用シテ之ヲ補足スヘシ

本令ニ改正ヲ加ヘタル明治四十四年法律第二十七號ノ附則

本法ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法中約束手形及小切手ノ印紙稅ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

本法ニ改正ヲ加ヘタル明治四十三年法律第十四號ノ附則

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法中印紙稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

- 第一條 外國ヨリ輸入スル物品ニハ別表ニ依リ關稅ヲ課ス
- 第二條 從價稅品ハ輸入港ニ到著シタルトキノ價格ニ依リテ課稅ス
- 第三條 條約ニ依ル特別協定ノ便益ヲ受ケサル地域ノ生産品ニ對シ必要アルトキハ勅令ヲ以テ地域及物品ヲ指定シ該協定ノ限度ヲ超エサル便宜ヲ與フルコトヲ得
- 第四條 本邦ノ船舶又ハ生産品ニ對シ他國ノ船舶又ハ生産品ヨリモ不利益ナル取扱ヲ爲ス國ノ生産品ニ對シテハ勅令ヲ以テ物品ヲ指定シ別表ニ定メタル關稅ノ外其ノ物品ノ價格ト同額以下ノ關稅ヲ課スルコトヲ得
- 第五條 外國ニ於テ輸出獎勵金ヲ受クル物品ニ對シテハ別表ニ定メタル關稅ノ外勅令ヲ以テ獎勵金ト同額ノ關稅ヲ課スルコトヲ得
- 第六條 米及粃ノ輸入稅ハ凶作ノ場合ニ於テハ勅令ヲ以テ期間ヲ指定シ每百斤四十錢ヲ限度トシ之ヲ低減スルコトヲ得
- 第七條 左ノ物品ニハ輸入稅ヲ免ス

- 一 御料品
- 二 本邦ニ來遊スル外國ノ元首及其ノ一族並其ノ從者ニ屬スル物品
- 三 陸海軍ノ輸入ニ係ル兵器、彈藥及爆發物
- 四 陸海軍ニ於テ燃料トシテ輸入スル原油以外ノ礦油ニシテ攝氏十五度ニ於ケル比重〇、八七五ヲ超エタルモノ
- 五 軍艦
- 六 本邦ニ派遣セラレタル外國ノ大使又ハ公使ニ屬スル自用品並在本邦外國大使館又ハ公使館ニ屬スル公用品
- 七、本邦大使館又ハ公使館ノ館員ニ屬スル自用品ニ對シ關稅ヲ免除スル國ノ在本邦大使館又ハ公使館ノ館員ニ屬スル自用品及本邦領事館ニ屬スル公用品ニ對シ關稅ヲ免除スル國ノ在本邦領事館ニ屬スル公用品
- 八 本邦在任者ニ贈與スル勳章、賞牌及記章
- 九 記錄文書其他ノ書類
- 十 官立公立ノ學校、博物館、物品陳列所其ノ他ノ營造物及私立ノ專門學校ニ陳列スル標本

又ハ參考品トシテ輸入スル物品

- 十一 慈善又ハ救恤ノ爲ニ寄贈シタル物品
- 十二 政府ノ輸入ニ係ル政府ノ專賣品
- 十三 商品ノ見本但シ見本用ニノミ適スルモノニ限ル
- 十四 旅客ノ用品及旅客ノ職業上必要ナル器具但シ旅客ノ身分ニ相當スルモノニシテ稅關カ適當ト認メタルモノニ限ル
- 十五 在外軍隊及軍艦ヨリ送還シタル物品
- 十六 個人ニ屬スル引越荷物但シ既ニ使用セラレタルモノニ限ル
- 十七 輸出シタル物品ニシテ五年以内ニ輸入セラレ輸出ノ時ノ性質及形狀ヲ變セサルモノ但シ酒精、酒類、砂糖第八條又ハ第九條ニ依リ輸入稅ノ免除又ハ拂戻ヲ受ケタル物品ヲ除ク
- 十八 命令ヲ以テ指定シタル輸出貨物ノ容器ニシテ再輸入スルモノ
- 十九 本邦ヨリ出漁セル船舶ヲ以テ捕獲採取シ魚介類、海獸、海藻其ノ他ノ水產物及其ノ製品ニシテ工程ノ簡單ナルモノ但シ當該船舶又

ハ之ニ附屬セル船舶ヲ以テ輸入シタルモノニ限ル

- 二十 外國航行ノ艦船ニ船用ノ爲開港内ニ於テ引渡ス物品
 - 二十一 難破シタル本邦船舶ノ解體材及機裝品
 - 二十二 本邦ヨリ出港シタル船舶ニ搭載シタル輸出貨物ニシテ該船舶難破シタル爲積戻リタルモノ
 - 二十三 國、道、府縣ノ輸入スル種馬、種牛、種豚、種羊、種禽、獸疫免疫血清及獸疫豫防接種液並產牛馬組合、產馬組合又ハ產牛組合ノ輸入スル種馬、種牛
- 第八條 左ノ物品ニシテ輸入ノ日ヨリ一年以内ニ再ヒ輸出スルモノニハ輸入稅ヲ免ス但シ輸入ノ際稅金ニ相當スル擔保ヲ提供スルコトヲ要ス
- 一 加工ノ爲輸入スル物品ニシテ命令ヲ以テ指定シタルモノ
 - 二 輸入貨物ノ容器ニシテ命令ヲ以テ指定シタルモノ
 - 三 修繕ノ爲輸入スル物品

四 學術研究ノ爲輸入スル物品

五 試験品トシテ輸入スルモノ

六 註文取集ノ爲輸入スル見本品

七 演劇其ノ他興行用ノ爲輸入スル物品

第九條 輸入原料品ヲ用キ命令ヲ以テ指定シタル物品ヲ製造シ之ヲ外國ヘ輸出シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ輸入税ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ爲スコトヲ得

輸入原料品ヲ用キ命令ヲ以テ指定シタル肥料ヲ製造シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ輸入税ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ爲スコトヲ得

詐偽又ハ不正ノ所爲ヲ以テ前二項ノ拂戻金ヲ得又ハ得ムトシタル者ハ關稅法第七十五條ノ例ニ依リ處分ス

第十條 輸入製品ニシテ内國ニ於テ製造スル船舶ニ備付ケ又ハ取付ケ輸入ノ日ヨリ二年以内ニ該船舶ト共ニ輸出スルモノハ輸入税ヲ免ス但シ輸入ノ際税金ニ相當スル擔保ヲ提供スルコトヲ要ス

第十一條 左ニ掲グル物品ハ輸入ヲ禁ス

一 阿片及阿片吸煙具但シ政府ノ輸入スルモノ

第三條 煙草ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ耕作スルコトヲ得ス

第四條 煙草耕作者ノ收穫シタル葉煙草ハ政府之ヲ收納ス

第五條 煙草ノ耕作區域ハ政府之ヲ定ム

第六條 政府ハ毎年耕作スヘキ煙草ノ種類、耕作段別及葉煙草ノ賠償價格ヲ定メ之ヲ公示ス

第七條 煙草ヲ耕作セムトスル者ハ毎年煙草苗床ノ位置及坪數、煙草耕作地ノ位置及段別、煙草ノ種類、本數、乾燥場及藏置場ヲ定メ政府ニ申請シ許可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更シ又ハ耕作ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ

第八條 相續ニ因ルノ外煙草ノ耕作ヲ承繼セムトスルトキハ政府ノ許可ヲ受クヘシ

相續ニ因リ煙草ノ耕作ヲ承繼シタルトキハ政府ニ届出ヘシ

第九條 煙草耕作者ニ非サレハ煙草苗ヲ育成スルコトヲ得ス

煙草苗ノ讓渡及讓受ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クヘシ

- ヲ除ク
- 二 偽造、變造又ハ模造ノ貨幣、紙幣、銀行券及有價證券
- 三 公安又ハ風俗ヲ害スヘキ書籍、圖畫、彫刻物其ノ他ノ物品
- 四 特許權、實用新案權、意匠權、商標權及著作權ヲ侵害スル物品

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (別表ハ略ス)

第十六章 煙草專賣法

明治三十七年四月法律第一四號

改正 四〇年第二號第五〇號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル煙草專賣法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

煙草專賣法

第一條 煙草ノ製造ハ政府ニ專屬ス

第二條 煙草ハ政府及政府ノ命ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ輸入スルコトヲ得ス

第十條 煙草耕作者ハ政府ノ定ムル方法及手續ニ依リ其ノ耕作ヲ完成スル義務ヲ負フ

第十一條 政府ハ收穫前ニ於テ葉煙草ノ收穫量目又ハ葉數ヲ査定ス

前項査定ノ場合ニ於テハ煙草耕作者ハ之ニ立會フヘシ若立會ハサルトキハ其ノ査定ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十二條 煙草耕作者前條ノ量目又ハ葉數ノ査定ニ不服ナルトキハ即時異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得異議ノ申立アリタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ二人以上ノ鑑定人ヲ選定シ其ノ意見ヲ徵シ政府之ヲ決定ス

異議申立人ノ主張ニ係ル葉煙草ノ量目又ハ葉數ト前項決定額トノ差カ前條ノ査定額ト前項決定額トノ差ヨリ大ナルトキハ鑑定ニ關スル費用ハ異議申立人ノ負擔トス

第十三條 煙草耕作者ハ政府ノ許可ヲ受クルニ非サレハ第十一條ノ査定前ニ於テ葉煙草ヲ採取シ又ハ幹根ヲ拔除スルコトヲ得ス第十二條ニ依リ異議ノ申立ヲ爲シタル者其ノ決定前ニ於テ亦同シ

第十四條 煙草耕作者一番葉ノ收穫ヲ終リタルトキハ直ニ其ノ幹根ヲ拔除シ其ノ幹ニ附著スル葉煙草ハ之ヲ廢棄スヘシ

種子ノ採取又ハ二番葉ノ收穫ヲ爲サムトスル者ハ政府ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ採取又ハ收穫ヲ終リタルトキハ第一項ノ處置ヲ爲スヘシ

第十五條 煙草耕作者ノ收穫シタル葉煙草ハ乾燥調理ノ後政府ニ納付スヘシ

納付ノ期日及場所ハ政府之ヲ定ム

煙草耕作者ノ收穫シタル葉煙草ニシテ政府ノ收納ニ適セサルモノハ政府ノ承認ヲ經テ之ヲ廢棄スヘシ

第十六條 煙草耕作者ノ納付シタル葉煙草ハ鑑定人ヲシテ之ヲ鑑定セシメ其ノ等級ニ依リ賠償金ヲ交付ス

煙草耕作者前項ノ鑑定ニ不服ルトキハ再鑑定ヲ求ムルコトヲ得但シ賠償金ノ請求ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

再鑑定申立人ノ主張ニ係ル葉煙草ノ等級ト再鑑定

第二十條 煙草耕作者ノ葉煙草ハ其ノ耕作地、乾燥場、藏置場又ハ其ノ收納官署ノ外他ニ之ヲ運送スルコトヲ得ス

政府ハ必要ト認ムルトキハ葉煙草運送ノ通路及時間ヲ指定スルコトヲ得

第二十一條 公共團體又ハ私人ニ於テ試作場ヲ特設シ煙草ノ試作ヲ爲サムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ試作ニ關シテハ第四條、第七條、第九條、第十五條、第十六條第一項及第十九條ノ規定ヲ準用ス

第二十二條 製造煙草ハ政府又ハ政府ノ指定シタル煙草元賣捌人若ハ煙草小賣人ニ非サレハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

煙草賣捌人及煙草ノ販賣ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條 煙草小賣人ハ政府ノ定メタル價格ヲ以テスルニ非サレハ製造煙草ヲ消費者ニ販賣スルコトヲ得ス

第二十四條 煙草賣捌人ハ政府ノ封緘ヲ施シタル製

等級トノ差カ第一項ノ鑑定等級ト再鑑定トノ差ヨリ大ナルトキハ再鑑定ニ關スル費用ハ其ノ申立人ノ負擔トス

再鑑定ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 煙草耕作者正當ノ事由ナクシテ政府ノ査定若ハ決定シタル量目又ハ葉數以上ノ葉煙草ヲ納付セサルトキハ政府ハ其ノ不足額ニ對シ第十八條第二項ノ規定ニ準シテ算定シタル金額ノ三倍以下ヲ納付セシムルコトヲ得

第十八條 煙草耕作者私ニ耕作段別ヲ減少シ又ハ耕作ヲ廢止シタルトキハ政府ハ其ノ減作地又ハ廢作地ニ生産スヘキ葉煙草ノ價格ニ相當スル金額ヲ納付セシムルコトヲ得

前項葉煙草ノ價格ハ其ノ年ニ於ケル近傍類似煙草耕作地ノ葉煙草生産額及之ニ對スル賠償金額ヲ標準トシテ之ヲ算定ス

第十九條 煙草耕作者其ノ耕作段別ヲ減少シ又ハ耕作ヲ廢止シタル場合 於テ其ノ耕作ヲ承繼スル者ナキトキハ政府ハ其ノ現存スル煙草又ハ煙草苗ヲ廢棄セシムルコトヲ得

造煙草ノ包裹ヲ開披シ若ハ之ヲ改装シ又ハ包裹ノ破損シタル製造煙草ヲ販賣スルコトヲ得ス

第二十五條 輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ノ賣渡ヲ請求スル者アルトキハ政府ハ特ニ定メタル價格ヲ以テ賣渡スコトヲ得

前項煙草ノ賣渡ヲ受ケタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ帳簿ヲ調製シ其ノ營業ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

輸出ニ供スル煙草ヲ製造セムトスル者ノ爲政府ハ一定ノ地域ニ於テ煙草自由倉庫ヲ設置シ又ハ其ノ設置ヲ特許スルコトヲ得

煙草自由倉庫及其ノ特許ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條 前條ニ依リ輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ヲ買受ケタル者ハ政府ノ指定シタル期間内ニ輸出免狀ニ外國仕向港ニ陸揚ヲ爲シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添ヘ政府ニ差出スヘシ

正當ノ事由ナクシテ前項ノ免狀及書類ヲ差出ササルトキハ政府ハ葉煙草ニ付テハ第二十九條製造煙草ニ付テハ第三十條ノ規定ニ依リ相當金額ヲ納付

セシム

第二十七條 輸出ノ爲政府ヨリ買受ケタル葉煙草又ハ製造煙草ハ輸出前之ヲ他ニ讓渡シ又ハ消費スルコトヲ得ス但シ其 使用ニ適セサルニ至リタルモノハ政府ノ許可ヲ受ケテ之ヲ廢棄スルコトヲ得

第二十八條 輸出ノ爲政府ヨリ買受ケタル葉煙草又ハ製造煙草ノ輸出ヲ廢止シタルトキ又ハ買受ノ日ヨリ一箇年ヲ過キテ之ヲ輸出セザルトキハ其ノ使用ニ適スルモノニ限り政府之ヲ收納シ其ノ他ハ之ヲ廢棄セシム

前項ノ收納ヲ爲ストキハ鑑定人ヲシテ鑑定セシメ賠償金ヲ交付ス但シ其 賠償金ハ第二十五條ニ依ル賣渡價格ニ超過スルコトヲ得ス

第二十九條 本法ノ規定ニ依リ輸出シ、廢棄シ及收納セラレタル葉煙草並現在煙草ノ總量目カ政府ヨリ買受ケタル葉煙草ノ總量目ニ比シ正當ノ事由ナクシテ不足シタルトキハ政府ハ輸出者ヲシテ其ノ不足額ニ對シ第二十五條ノ賣渡價格ニ相當スル金額ノ四倍以下ヲ納付セシム

第三十條 本法ノ規定ニ依リ輸出シ、廢棄シ及收納

セラレタル製造煙草並現在製造煙草ノ總量目カ政府ヨリ買受ケタル製造煙草ノ總量目ニ比シ正當ノ事由ナクシテ不足シタルトキハ政府ハ輸出者ヲシテ其ノ不足額ニ對シ第二十三條ノ賣渡價格ト第二十五條ノ賣渡價格トノ差額ニ相當スル金額ノ二倍以下ヲ納付セシム

第三十一條 政府ハ標本ニ供スルモノニ限り葉煙草ヲ交付シ又ハ煙草ノ輸入ヲ許可スルコトヲ得標本ニ供スル煙草ハ政府ノ許可ヲ受ケ標本トシテ他ニ讓渡シ又ハ試驗ノ用ニ供シ又ハ廢棄スルノ外之ヲ處分スルコトヲ得ス

第三十二條 健康上若ハ習慣上缺クヘカラサル製造煙草ハ自用ニ供スルモノニ限り自用者ニ於テ政府ノ許可ヲ受ケ之ヲ輸入スルコトヲ得

第三十三條 輸出ノ爲買受ケタル煙草ハ政府ノ許可ヲ受ケタル場合ニ非サレハ之ヲ藏置スルコトヲ得ス

第三十四條 何人ト雖本法ニ於テ認メタル場合ノ外葉煙草、政府ノ證票ヲ附セサル製造煙草又ハ煙草製造専用ノ器具機械及卷紙ヲ所持シ、讓渡シ若ハ

讓受ケルコトヲ得ス

前項ノ物件ハ本法ニ依リ沒收スル場合ノ外政府ニ於テ之ヲ處分ス

第三十五條 何人ト雖營業ノ目的ヲ以テ煙草ニ代用スヘキ物品ヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

第三十六條 煙草製造専用ノ器具機械及卷紙ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ製作シ、販賣シ又ハ藏置スルコトヲ得ス

第三十七條 煙草耕作者、試作者又ハ煙草製造専用ノ器具機械及卷紙ノ製作者、販賣者若ハ藏置者本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ政府ハ耕作、試作、藏置又ハ營業ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第三十八條 政府ハ煙草ノ苗床、耕作地、試作地、乾燥場、藏置場又ハ煙草苗、煙草若ハ煙草製造器具機械及卷紙ノ所在ト認ムル場所又ハ煙草苗煙草若ハ煙草製造器具機械及卷紙ヲ検査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

當該官吏ハ前項ノ検査ニ際シ必要ト認ムルトキハ關係人ヲシテ之ニ立會ハシムルコトヲ得

第三十九條 行政執行ノ手續ニ依リ費用ヲ納付セシムル場合ニ於テ義務者ニ交付スヘキ金額アルトキハ之ヲ差引スルコトヲ得

第四十條 本法ノ規定ニ依リ納付セシムヘキ金額ノ徵收ニ關シテハ國稅徵收法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第四十一條 政府ノ命令又ハ許可ヲ受ケスシテ煙草ノ輸入ヲ圖リ若ハ其ノ輸入ヲ爲シタル者ハ其ノ煙草ノ價格ノ十倍ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ煙草ヲ沒收ス但シ其ノ罰金額ハ百圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ價格ハ其ノ煙草ノ生産地又ハ仕入地ニ於ケル原價ニ荷造費、運送費、保險料其ノ他輸入地ニ到着スル迄ノ諸費及輸入稅ニ相當スル金額ヲ加ヘタルモノトス

第四十二條 煙草耕作者許可ヲ受ケサル土地ニ煙草ヲ耕作シ若ハ煙草苗ヲ育成シ又ハ許可ヲ受ケサル

種類ノ煙草ヲ耕作シ又ハ許可ヲ受ケスシテ煙草苗ヲ讓渡シ若ハ讓受ケタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草又ハ煙草苗ハ之ヲ沒收ス

第四十三條 煙草耕作者許可ヲ受ケタル場所ニ葉煙草ヲ乾燥シ又ハ藏置シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草ハ之ヲ沒收ス

情ヲ知リテ前項ノ場所ヲ供與シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條 第十三條ニ違反シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草ハ之ヲ沒收ス

第四十五條 第十四條及第十九條ニ依リ葉煙草ヲ廢棄スヘキ者其ノ葉煙草ヲ收穫シ又ハ種子ヲ採取シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草又ハ種子ハ之ヲ沒收ス

第四十六條 天災其ノ他避クヘカラサル事變ニ依ルニ非スシテ第二十條第一項ニ違反シ又ハ政府ノ指定シタル通路若ハ時間ニ依ラスシテ葉煙草ヲ運送

シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草ハ之ヲ沒收ス

第四十七條 煙草耕作者正當ノ事由ナクシテ政府ノ指定シタル納付期日ニ葉煙草ヲ納付セサルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條 政府ニ納付スヘキ葉煙草ヲ他ニ讓渡シ又ハ消費シ又ハ隱蔽シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草ハ之ヲ沒收ス之ヲ讓受ケタル者亦同シ

情ヲ知リテ葉煙草隱蔽ノ場所ヲ供與シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十九條 煙草賣捌人ニ非スシテ製造煙草ヲ販賣シ又ハ販賣ノ準備ヲ爲シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル製造煙草ハ之ヲ沒收ス

第五十條 第二十三條又ハ第二十四條ニ違反シタル者ハ五圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十一條 煙草輸出者帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ怠リ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十二條 第二十七條ニ違反シタル者ハ三十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收ス之ヲ讓受ケタル者亦同シ

第五十三條 第三十一條第二項ニ違反シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ煙草ヲ讓受ケタル者亦同シ

第五十四條 第三十二條ニ依リ輸入シタル煙草ヲ他ニ讓渡シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收ス

第五十五條 第三十三條ニ違反シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス情ヲ知リテ藏置ノ場所ヲ供與シタル者亦同シ

第五十六條 許可ヲ受ケサル者ノ耕作若ハ試作シタル葉煙草又ハ煙草耕作者、試作者ニ非サル者ノ育成シタル煙草苗又ハ權利者ノ不明ナル煙草若ハ煙草苗ヲ所持スル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草若ハ煙草苗ハ之ヲ沒收ス

第五十七條 第二十四條第一項ニ違反シテ製造煙草ヲ所持シ、讓渡シ又ハ讓受ケタル者ハ煙草賣捌人

ニ在リテハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ他ノ者ニ在リテハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル製造煙草ハ之ヲ沒收ス

第五十八條 私ニ煙草ヲ製造シ又ハ製造ノ準備ヲ爲シタル者ハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草及煙草製造器具機械及卷紙ハ之ヲ沒收ス

第五十九條 第三十五條ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル物品並其ノ原料、製造器具機械及卷紙ハ之ヲ沒收ス

第六十條 第三十六條ニ違反シタル者又ハ權利者不明ノ煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ヲ所持シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ハ之ヲ沒收ス

第六十一條 本法ノ犯罪ニ係ル物件ヲ他ニ讓渡シ若ハ消費シタルトキ又ハ其ノ物件ニシテ他ニ所有者アル爲沒收スルコトヲ得サルトキハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徴ス

第六十二條 當該官吏ノ尋問ニ對シ虛偽ノ答辯ヲ爲

シ又 當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第六十三條 煙草耕作者、試作者、煙草賣捌人、煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ノ製作者、販賣者若ハ

藏置者又ハ煙草輸出者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定

ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有

第六十四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、【再犯加重】及【數罪

俱發】ノ例ヲ用キス

第六十五條 煙草耕作者、試作者、煙草賣捌人、煙草製造專用ノ器具及機械及卷紙ノ製作者、販賣者

若ハ藏置者又ハ煙草輸出者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人、其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ

業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ

處罰ヲ免カラルコトヲ得ス

第六十六條 明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス
第六十七條 間接國稅犯則者處分法ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ違反事件ニ之ヲ準用ス但シ同法ニ定メタル職務ヲ行フ官吏ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第六十八條 本法ハ明治三十七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二十二條第二項及第七十三條ハ本法發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際ニ於ケル煙草製造業者ハ明治三十八年三月三十一日迄刻煙草ノ製造ニ限り其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得

前項刻煙草ノ製造及其ノ原料ニ供スル葉煙草ノ賣買ニ關シテハ明治三十八年三月三十一日迄本法ノ規定ヲ適用セス仍葉煙草專賣法ヲ適用ス

第六十九條 本法施行ノ際ニ於ケル葉煙草耕作者ハ本法ニ依ル煙草耕作者ト看做ス

第七十條 左記ノ物件ハ政府之ヲ徵收シ之ニ對シ補償金ヲ交付ス

一 明治三十七年七月三十日ニ現在スル煙草製造專用ノ器具機械及卷紙但シ刻煙草製造專用ノモノヲ除ケ

二 明治三十八年三月三十一日ニ現在スル刻煙草製造專用ノ器具機械

三 明治三十八年三月三十一日ニ現在スル葉煙草

第七十一條 本法施行ノ際政府ノ保管ニ係ル輸出葉煙草ニ關シテハ本法施行後ト雖仍葉煙草專賣法ヲ適用ス

第七十二條 明治三十七年六月三十日ニ現在スル刻煙草以外ノ煙草製造業者ノ所有ニ係ル葉煙草ハ明治三十八年三月三十一日迄ハ刻煙草製造業者若ハ

業煙草賣買業者ニ限り之ヲ讓渡シ又ハ之ヲ所有スル事ヲ得但シ外國產葉煙草ニ限り明治三十七年七月二十日迄ニ其ノ買上ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

第七十三條 本法發布ノ際ニ現在スル煙草製造用ノ建物、其ノ敷地及其ノ製造場備附ノ煙草製造用ノ器具機械ハ政府ニ於テ之ヲ徵收スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ニ對シ補償金ヲ交付ス

政府ハ本法發布ノ後煙草製造業者ノ營業場ニ就キ前項ニ依リ徵收スヘキ物件ヲ調査シ徵收目錄ヲ調査シ

徵收目錄ハ本法發布後六十日以内ニ之ヲ所有者ニ告知ス

前項ノ告知後ハ所有者ハ政府ノ承認ヲ受クルニ非サレハ徵收目錄ニ記載シタル物件ヲ處分スルコトヲ得ス

第七十四條 煙草製造業者ノ所有ニ係ル煙草ノ製造及裝置ニ使用スヘキ物件其ノ現ニ使用スル煙草製造及裝置用器具機械ニシテ第七十條ノ規定ニ該當セサルモノハ其ノ買上ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

但シ刻煙草以外ノ煙草製造業者ニ在リテハ明治三十七年六月三十日ニ現在スルモノニ限り刻煙草製造業者ニ在リテハ明治三十八年三月三十一日ニ現在スルモノニ限ル

前項ニ依リ買上ヲ請求シ得ヘキ物件ノ種類數量並器具機械ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十五條 政府ハ煙草製造業者ニ對シ其ノ請求ニ依リ煙草賣渡代金ノ二割ニ相當スル金額ヲ交付シ

其ノ額金五百圓ニ滿タサル者ニ對シテハ金五百圓ヲ交付ス但シ煙草製造用ノ建物及其ノ敷地ヲ所有スル者ニシテ其ノ建物及敷地ノ全部ノ徵收又ハ買上ヲ受ケサル者ニ對シテハ尙交付金ニ相當スル金額ノ六分ノ一ヲ増給ス

政府ハ葉煙草賣買業者又ハ外國產原料ヲ以テ外國若ハ內地ニ於テ製造シ且商標ヲ有スル煙草ノ全國一手販賣業者ニ對シ其ノ請求ニ依リ煙草賣渡代金ノ一割ニ相當スル金額ヲ交付シ其ノ額金二百五十圓ニ滿タサル者ニ對シテハ金二百五十圓ヲ交付ス但シ煙草製造業ヲ兼ネタル葉煙草賣買業者カ自己ノ製造用ニ供シタル葉煙草ノ代金ハ本項ノ煙草賣渡代金中ニ算入スルコトヲ得サルモノトス

煙草製造業者ニシテ煙草元賣捌人ニ指定セラレタルモノニ對シテハ前項ノ規定ヲ適用セス
第一項ニ依リ交付スヘキ金額ハ總計金九百十萬圓ヲ以テ限度トス若此ノ金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ各自ニ按分シテ之ヲ減少ス
第二項ニ依リ交付スヘキ金額ハ總計金二百萬圓ヲ以テ限度トス若此ノ金額ヲ超過スルトキ其ノ超過

金額ヲ各自ニ按分シテ之ヲ減少ス
第一項及第二項ノ賣渡代金ハ明治三十五年ヨリ明治三十六年ニ至ル二箇年間ノ賣渡代金ノ平均高ニ依リ明治三十五年二月以後ニ其ノ營業ヲ開始シタル者ハ明治三十六年ノ賣渡高ニ依ル

第一項ニ煙草製造業者トアルハ刻煙草以外ノ煙草製造業者ニ在リテハ明治三十六年一月三十一日以前ヨリ明治三十七年六月三十日ニ至ル迄、刻煙草製造業者ニ在リテハ明治三十六年一月三十一日以前ヨリ明治三十八年三月三十一日ニ至ル迄其ノ營業ヲ繼續シタルモノニ限ル但シ家督相續人カ被相續人ノ營業ミタル葉煙草製造業ヲ繼續シタル場合ニ於テ被相續人ノ營業期間ハ家督相續人ノ營業期間ト看做ス

第二項ニ葉煙草賣買業者又ハ外國產原料ヲ以テ外國若ハ內地ニ於テ製造シ且商標ヲ有スル煙草ノ全國一手販賣業者トアルハ明治三十六年一月三十一日以前ヨリ明治三十八年三月三十一日ニ至ル迄其ノ營業ヲ繼續シタルモノニ限ル但シ家督相續人カ被相續人ノ營業ミタル葉煙草賣買業又ハ外國產原料

ヲ以テ外國若ハ內地ニ於テ製造シ且商標ヲ有スル煙草ノ全國一手販賣業ヲ繼續シタル場合ニ於テ被相續人ノ營業期間ハ家督相續人ノ營業期間ト看做ス

第七十六條 第七十五條第一項及第二項ノ賣渡代金ハ確實ナリト認ムル帳簿書類ニ依リ政府之ヲ決定ス

第七十七條 第七十條、第七十三條ノ補償價格及第七十二條、第七十四條ノ買上價格ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議整ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ政府之ヲ決定ス

前項ノ決定ニ對シ不服アル者ハ十日以内ニ其ノ申立ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ更ニ鑑定人ノ意見ヲ徵シ之ヲ裁定ス

第七十八條 第七十條第一號ノ物件ヲ所有スル者ハ明治三十七年七月五日迄ニ、同條第二號ノ物件ヲ所有スル者ハ明治三十八年四月五日迄ニ其ノ種類數量ヲ政府ニ申告スヘシ此ノ期限ヲ過キ申告ヲ爲ササルトキハ其ノ物件ノ藏置ニ關シテハ第三十六

條及第六十條ヲ適用ス

前項ニ依リ申告ヲ爲シタル物件ノ藏置ニ關シテハ之カ徵收ヲ終ル迄第三十六條ヲ適用セス

第七十九條 第七十條第三條ノ物件ヲ所有スル者ハ明治三十八年四月五日迄ニ其ノ種類數量ヲ政府ニ申告スヘシ此ノ期限ヲ過キ申告ヲ爲ササルトキハ其ノ物件ノ藏置ニ關シテハ第五十六條ノ例ニ依リ處分ス

第八十條 第七十四條ニ依ル物件買上ノ請求ハ刻煙草以外ノ煙草製造業者ニ在リテハ明治三十七年七月五日迄ニ、刻煙草製造業者ニ在リテハ明治三十八年四月五日迄ニ之ヲ爲スヘシ

第八十一條 第七十五條ニ依ル交付金ノ請求ハ刻煙草以外ノ煙草製造業者ニ在リテハ明治三十七年九月三十日迄ニ、刻煙草製造業者ニ在リテハ明治三十八年六月三十日迄ニ葉煙草賣買業者又ハ外國產原料ヲ以テ外國若ハ內地ニ於テ製造シ且商標ヲ有スル煙草ノ全國一手販賣業者ニ在リテハ明治四十年十二月三十一日迄ニ之ヲ爲スヘシ

第八十二條 本法施行ノ際現在スル製造煙草又ハ刻

煙草製造業者ノ明治三十八年三月三十一日迄ニ製造シタル刻煙草ハ本法ノ規定ニ依ラス之ヲ所持シ讓渡シ又ハ讓受タルコトヲ得

政府ハ必要ト認メタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ製造煙草ニ包裹ヲ施サシメ並一定ノ證票ヲ貼附セシムルコトヲ得

前項ニ依ル命令ニ違反シ包裹ヲ施サス又ハ證票ヲ貼附セサル製造煙草ニ關シテハ第二十四條及第五十七條ヲ準用ス

第八十三條 煙草製造業者又ハ製造煙草ヲ販賣スル者ハ明治三十七年六月三十日ニ於テ現ニ其ノ所持ニ係ル刻煙草以外ノ製造煙草ノ種類數量ヲ明治三十七年七月十日迄ニ政府ニ申告スヘシ

刻煙草製造業者ハ明治三十八年三月三十一日ニ於テ現ニ其ノ所持ニ係ル刻煙草ノ種類數量ヲ翌月十日迄ニ政府ニ申告スヘシ

第八十四條 本法施行後政府ノ賣渡ササル製造煙草ヲ販賣スル者ハ營業ニ關スル帳簿ヲ調製シ明治三十七年七月以後毎月末日ニ於ケル製造煙草ノ種類數量及其ノ月ノ受拂高ヲ翌月五日迄ニ政府ニ申告

金ニ充ツル爲政府ハ國庫債券ヲ發行スル事ヲ得
第七十五條ノ交付金ハ國庫債券ヲ以テ之ヲ給付ス但五十圓未満ノ端數ハ現金ヲ以テ之ヲ給付ス第七十條第七十二條ノ補償金及第七十二條第七十四條ノ買上金ハ本人ノ請求ニ依リ國庫債券ヲ以テ納付スルコトアルヘシ
國庫債券ニ對シテハ一箇年百分ノ五ノ利子ヲ附シ發行ノ年ヨリ七箇年以内ニ之ヲ償還ス
國庫債券ニ關シテハ本條ニ規定スルモノノ外整理公債條例ニ準據ス但シ第七十五條第二項ニ依リ交付スル國庫債券ニ限り發行ノ年ヨリ十箇年以内ニ之ヲ償還ス

●同 施行細則

明治三十七年五月大藏省令第一九號
改正 三十七年第四四號、四〇年第一九號、四一年第三三號、四二年第四五號、四三年第三三號、四四年第三三號

煙草專賣法施行細則左ノ通相定ム
煙草專賣法施行細則

第一條 煙草ヲ耕作セムトスル者ハ專賣支局長ノ定ムル期間内ニ第一號書式ノ申請書ヲ所管專賣支局

スヘシ

第八十五條 第八十三條及第八十四條ノ規定ニ違反シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十六條 葉煙草專賣法ニ違反シタル者ニハ本法施行後ト雖仍同法ヲ適用ス

第八十七條 本法ハ勅令ヲ以テ指定シタル島嶼ニハ之ヲ施行セス

本法ヲ施行セサル地ト本法施行地トノ間ニ於ケル煙草ノ移入移出ニ關シテハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ム

政府ノ外本法ヲ施行セサル地ヨリ煙草ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯シタル者ハ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收ス

第八十八條 明治三十八年ニ於テハ煙草製造業者及葉煙草賣買業者ニ係ル免許料ハ之ヲ徵收セス明治三十七年ニ於ケル刻煙草以外ノ製造業者ニ係ル免許料ハ其ノ十二分ノ六ヲ還付ス

第八十九條 第七十條、第七十三條ノ補償金、第七十二條、第七十四條ノ買上金及第七十五條ノ交付

ニ差出シ許可ヲ受ケヘシ

前項耕作ノ許可ヲ受ケタル者ニハ第二號書式ノ許可證ヲ交付スヘシ

第二條 專賣支局長ハ左ノ順序ニ依リ煙草ノ耕作ヲ許可スヘシ

一 前年ニ於テ煙草ノ耕作、乾燥、調理、包裝、品質等他ノ模範トナルヘキモノト認メラレタル者

二 前年迄煙草ノ耕作ヲ繼續シタル者

三 本年新規耕作ヲ申請セル者
第三條 專賣支局長ハ耕作許可申請ニ係ル段別カ申請者ノ資力及其ノ耕作上ノ設備ニ比シテ適當ナリト認ムルトキハ其ノ段別ヲ減少シテ許可スルコトアルヘシ

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ煙草耕作者タルコトヲ得ス

- 一 煙草賣捌人
- 二 煙草製造専用ノ器具機械又ハ卷紙ノ製作者、販賣者又ハ藏置者
- 三 煙草ノ輸出又ハ移出ヲ業トスル者

四 前各號ノ一ニ該當スル者ト同一ノ家ニ在ル者又ハ其ノ同居者

第五條 專賣支局長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ

ハ煙草耕作ヲ許可セサルコトアルヘシ

一 煙草ニ關スル法令ニ違反シタル者

二 煙草耕作ノ成績不良ナリシ者

三 不適當ト認ムル場所ニ煙草ヲ耕作セントスル者

四 取締上不便ト認ムル煙草ノ耕作、乾燥又ハ藏置ヲ爲サムトスル者

五、段別五畝歩未滿ノ土地ニ煙草ヲ耕作セムトスル者

六 其ノ他煙草耕作者タルニ不適當ナリト認ムル者

第六條 煙草耕作者苗床ノ場所、坪數、煙草耕作地ノ場所、段別、煙草ノ種類、本數、乾燥場及藏置場ヲ變更増減シ又ハ耕作ヲ廢止セムトスルトキハ第一號書式ニ準シ所管專賣支局ニ申請シ許可ヲ受ケヘシ

第七條 相續ニ因ルノ外煙草ノ耕作ヲ承繼セムトス

三 播種期

四 移植期

五 畦間株間ノ距離

六 腋芽ノ摘搔

七 心止

八 其ノ他ノ耕作方法

九 葉分ノ選別

十 乾燥方法

十一 葉製ノ方法

十二 一把ノ葉數

十三 一包ノ把數又ハ量目

十四 結束材料

十五 包裝ノ方法

第十二條 煙草ノ移植ヲ了シタルトキハ殘存セル煙草苗ハ直ニ廢棄スヘシ但シ移植後三週間ヲ限リ豫備苗トシテ必要ノ本數ヲ保存スルコトヲ得

第十三條 煙草耕作者ハ其ノ耕作地一箇所毎ニ字、地番、氏名及許可番號ヲ記シタル目標ヲ設ケヘシ

第十四條 煙草專賣法第十一條ニ依リ葉煙草ノ量目又ハ葉數ヲ査定セムトスルトキハ專賣支局長ハ其

ル者ハ其ノ耕作許可證並第三號書式ノ申請書ヲ所管專賣支局ニ差出シ許可ヲ受ケヘシ

ル者ハ其ノ耕作許可證並第三號書式ノ申請書ヲ所管專賣支局ニ差出シ許可ヲ受ケヘシ

相續ニ因リ其ノ耕作ヲ承繼シタルトキハ其ノ耕作許可證並第四號書式ノ申告書ヲ所管專賣支局ニ差出シ耕作許可證ノ交付ヲ受ケヘシ

第八條 煙草耕作者其ノ耕作段別ノ減少又ハ耕作廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ其ノ現存スル煙草又ハ煙草苗ハ當該官吏ノ承認ヲ受ケ相當ノ處置ヲ爲スヘシ煙草專賣法第三十七條ニ依リ耕作ノ許可ヲ取消サレタルトキ亦同シ

第九條 煙草耕作苗ノ讓渡又ハ讓受ヲ爲サムトスルトキハ第五號書式ノ申請書ヲ所轄專賣支局ニ差出シ許可ヲ受ケヘシ

第十條 煙草耕作者其ノ許可證ヲ亡失シタルトキハ直ニ事由ヲ具シ之カ再交付ヲ所轄專賣支局ニ申請スヘシ

第十一條 左ニ掲グル事項ハ專賣支局長ノ指示スル所ニ從フヘシ

- 一 種土ノ採收
- 二 苗床ノ設備及其ノ管理

ノ期日ヲ定メ豫メ之ヲ公告スヘシ

第十五條 煙草耕作者當該官吏ノ査定シタル量目又ハ葉數ニ對シ異議ノ申立ヲ爲サムトスルトキハ即時異議申立簿ニ其ノ不服ノ要領ヲ記入シ捺印スヘシ

第十六條 煙草專賣法第十二條第二項ニ依リ選定スヘキ鑑定人ハ專賣支局長ニ於テ少クトモ其ノ半數ヲ專賣局以外ヨリ選定スルモノトス

第十七條 專賣支局長煙草專賣法第十二條第二項ニ依リ決定ヲ爲シタルトキハ第六號書式ノ決定書ヲ異議申立人ニ交付スヘシ

第十八條 煙草耕作者災害其ノ他ノ事故ニ因リ其ノ耕作煙草ニ損害ヲ受ケタルトキハ其ノ事由ヲ具シ所管專賣支局ニ届出ツヘシ

第十九條 枯葉、不熟葉、蝕損葉、立枯等アルトキハ煙草耕作者ハ當該官吏ニ申出テ其ノ指揮ヲ受ケ相當ノ處置ヲ爲スヘシ

第二十條 煙草耕作者稱子採取ノ爲母木ヲ保存セムトスルトキハ其ノ種類、本數ヲ定メ豫メ所管專賣支局長ノ許可ヲ受ケヘシ

第二十一條 葉煙草ハ其ノ種類、乾燥法、葉分、品質、葉並ニ依リ區分調理スヘシ

第二十二條 前條ノ葉分ハ總テ左ノ區分ニ依ルヘシ

- 一 土葉
- 二 中葉
- 三 本葉
- 四 天葉

前項ノ葉分ニ依リ難キモノハ難葉トスヘシ

第二十三條 乾燥調理ノ際生シタル葉屑等ニシテ收納ニ適セサルモノハ當該官吏ノ承認ヲ經テ之ヲ廢棄スヘシ

第二十四條 葉煙草納付ノ場所及期日ハ專賣支局長之ヲ定メ豫メ公示スヘシ

第二十五條 煙草耕作者納付ノ爲葉煙草ヲ運送スルトキハ耕作許可證ヲ携帶スヘシ

前項ノ許可證ハ納付ノ際之ヲ所管專賣支局ニ提出シ葉煙草ノ納付量目、賠償金等ノ記入ヲ受クヘシ

第二十六條 煙草耕作者ノ納付セムトスル葉煙草ニシテ乾燥、調理、包裝ノ不完全ナルモノハ耕作者ヲシテ更ニ相當ノ處理ヲ爲サシムヘシ

第二十七條 煙草耕作者煙草專賣法第十六條ニ依リ再鑑定ヲ求メムトスルトキハ賠償金ノ請求前ニ於テ第七號書式ニ依リ其ノ不服ノ要領ヲ所管專賣支局長ニ申出ツヘシ

第二十八條 第二十七條ニ依リ再鑑定ノ申立アリタルトキハ專賣支局長ハ二人以上ノ鑑定人ヲ選定シ其ノ意見ヲ徵シ之ヲ決定シ第八號書式ノ決定書ヲ申立人ニ交付スヘシ

前項ノ鑑定人ハ少クトモ其ノ半數ヲ專賣局員以外ヨリ選定スヘシ

第二十九條 專賣支局長ハ取締上必要ト認メタルトキハ煙草耕作者ニ對シ葉煙草運送ノ通路及時間ヲ指定スルトコトヲ得

第三十條 公共團體又ハ私人ニ於テ試作場ヲ特設シ煙草ノ試作ヲ爲サムトスルトキハ第一號書式ニ準シタル申請書ヲ所管專賣支局ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

前項試作ノ許可ヲ受ケタル者ニハ第二號書式ニ準シタル許可證ヲ交付スヘシ

第三十一條 輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ノ賣渡ヲ

請求セントスル者ハ第九號書式ノ輸出煙草賣渡申請書ヲ專賣支局長ニ差出シ其ノ指定スル煙草專賣官署ニ代金ヲ納付シ現品ヲ引取ルヘシ若シ十日以内ニ現品ヲ引取ラサルトキハ相當保管料ヲ徵ス

輸出ノ爲買受ケル葉煙草又ハ製造煙草ノ代金一回三千圓以上ニ達スル者ハ代金納付ノ擔保トシテ國債證券ヲ提供シテ代金ノ延納ヲ請求スル事ヲ得

輸出ノ爲當時葉煙草又ハ製造煙草ノ買受ヲ爲ス者代金納付ノ擔保トシテ豫メ國債證券ヲ提供シ置クトキハ其ノ證券ノ價格ニ達スル迄代金ノ延納ヲ請求スルトコトヲ得但シ毎回ノ買受代金三千圓ヲ下ラサルコトヲ要ス

葉煙草又ハ製造煙草ノ代金納付ノ擔保トシテ提供スヘキ國債證券ハ提供者之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ差出スヘシ

第二項及第三項ノ場合ニ於テ其ノ買受代金ハ現品領收濟ノ日ヨリ起算シ三箇月以内ニ完納スヘシ

輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ノ買受ヲナシタル者代金納付期日迄ニ買受代金ヲ納付セサルトキハ年五分ノ割合ヲ以テ遅延利息ヲ徵スルトコトアルヘシ

第八類 租稅 第十六類 煙草專賣法 同施行細則

輸出ノ爲煙草ヲ買受ケタル者煙草ノ藏置場ノ變更セムトスルトキハ所管【煙草收納所】ニ申出テ許可ヲ受クヘシ

第三十二條 輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ヲ買受ケタル者ハ輸出後專賣支局長ノ指定シタル期間内ニ輸出免狀並外國仕向港ニ陸揚ヲ爲シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ專賣支局長ニ差出スヘシ

第三十三條 輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ヲ買受ケタル者ハ帳簿ヲ調製シ少クトモ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 葉煙草ノ買入年月日、拂出^{輸出、納付}年月日、包裝番號、種類、葉分、量目、代金及仕向先
- 二 葉煙草ノ改裝年月日、元包裝番號、元量目改裝番號及改裝量目
- 三 製造煙草ノ買受年月日、拂出^{輸出、納付}年月日、種類、名稱、數量^{本數別又ハ廢棄}代金及仕向先

第三十四條 輸出ノ爲買受ケタル葉煙草又ハ製造煙草ニシテ其ノ使用ニ適セサルニ至リ之ヲ廢棄セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ所管專賣支局ニ申出

テ許可ヲ受クヘシ

第三十四條ノ二 輸出ノ爲買受ケタル葉煙草又ハ製造煙草ニシテ仕向地ニ陸揚前盜難火災等ニ因リテ滅滅シタルトキハ直ニ所管專賣支局ニ届出ツヘシ
第三十五條 標本ニ供スル爲葉煙草ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ第十號書式ノ申請書ヲ所管專賣支局ニ差出スヘシ

第三十六條 標本ニ供スル爲葉煙草又ハ製造煙草ノ輸入ヲ爲サムトスル者ハ第十一號書式ノ申請書ヲ專賣局ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

第三十七條 第三十五條及第三十六條ノ標本煙草ヲ標本トシテ他ニ讓渡サムトスルトキハ第十二號書式ノ申請書ヲ所管專賣支局ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

第三十八條 煙草專賣法第三十二條ニ依リ製造煙草ヲ輸入セムトスル者ハ第十三號書式ノ申請書ヲ專賣局ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

第三十九條 煙草專賣法ヲ施行セサル地ニ移出スル爲葉煙草又ハ製造煙草ノ賣渡ヲ請求スル者アルトキハ專賣局長官ハ特ニ定メタル價格ヲ以テ之ヲ賣

渡スコトヲ得

第四十條 第三十一條ノ規定ハ移出ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十條ノ二 移出ノ爲買受ケタル葉煙草又ハ製造煙草ハ移出前之ヲ他ニ讓渡シ又ハ消費スルコトヲ得ス但シ其ノ使用ニ適セサルニ至リタルモノハ政府ノ許可ヲ受ケテ之ヲ廢棄スルコトヲ得前項ニ違反シタル者ハ三十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條ノ三 移出ノ爲買受ケタル葉煙草又ハ製造煙草ノ移出ヲ廢止シタルトキ又ハ買受ノ日ヨリ一箇年ヲ過キ之ヲ移出セサルトキハ其ノ使用ニ適スルモノニ限リ政府之ヲ收納シ其ノ他ハ之ヲ廢棄セシム

前項ノ收納ヲ爲ストキハ鑑定人ヲシテ鑑定セシメ賠償金ヲ交付ス但シ其ノ賠償金ハ第三十九條ニ依ル賣渡價格ニ超過スルコトヲ得ス
鑑定人ハ專賣局長官之ヲ選定ス

第四十條ノ四 移出ノ爲買受ケタル葉煙草又ハ製造煙草ハ政府ノ許可ヲ受ケタル場所ニ非サレハ之ヲ藏置スルコトヲ得ス

第四十三條 煙草製造専用ノ器具機械又ハ卷紙ヲ製作シ販賣シ又ハ藏置セムトスル者ハ第十四號又ハ第十五號ノ書式ノ申請書ヲ所管專賣支局ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル者其ノ業ヲ廢セムトスルトキハ其ノ旨所管專賣支局ニ届出ツヘシ

第四十四條 煙草、製造専用ノ器具機械又ハ卷紙ノ製作者又ハ販賣者ハ帳簿ヲ調製シ少クトモ器具機械又ハ卷紙、種類、數量、代金、製作月日又ハ買受月日、買受先、賣渡月日、賣渡先ヲ記載スヘシ

第四十五條 煙草、煙草製造専用ノ器具機械又ハ卷紙ノ運送ヲ委託セラレタル者ハ其ノ運送中ハ委託者ノ代理人トナリタルモノト看做ス

附則

第四十六條 本省令ハ煙草專賣法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十七條 明治三十年大藏省令第十六號葉煙草再鑑定規程及明治三十四年大藏省令第四號葉煙草專賣法施行細則ハ本省令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但シ煙草專賣法附則第六十八條第二項ニ依リ刻煙草

前項ニ違反シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス情ヲ知リテ藏置ノ場所ヲ供與シタル者亦同シ

第四十一條 移出ノ爲ニ葉煙草又ハ製造煙草ヲ買受ケタル者ハ仕向地ニ陸揚ヲ爲シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ買受後專賣局長官ノ指定シタル期間内ニ其ノ買受ヲ爲シタル煙草專賣官署ニ差出スヘシ
正當ノ事由ナクシテ仕向地ニ陸揚ヲ爲シタル數量カ買受ヲ爲シタル數量ヨリ少キトキハ移出者ヲシテ其ノ不足額ニ對シ葉煙草ニ付テハ第三十九條ノ賣渡價格ニ相當スル金額ノ四倍以下製造煙草ニ付テハ其ノ定價ト第三十九條ノ賣渡價格トノ差額ニ相當スル金額ノ二倍以下其ノ煙草ノ代金ヲ納付シタル專賣官署ニ納付セシム

第四十二條 移出者ハ第三十三條ノ規定ニ準シ帳簿ノ調製記載ヲ爲スヘシ
移出者帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ怠リ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十二條ノ二 第三十四條及第三十四條ノ二ノ規定ハ移出ノ場合ニ之ヲ準用ス

ノ製造ヲ業トスル者及葉煙草ノ賣買ヲ業トスル者ニ對シテハ仍葉煙草專賣法施行細則ヲ適用ス

第四十八條 煙草專賣法第八十三條ニ依ル申告書ハ第十六號書式ニ依リ所管專賣支局ニ差出スヘシ

第四十九條 煙草專賣法第八十四條ニ依リ調製スヘキ帳簿ニ關シテハ第三十三條ノ規定ヲ準用ス明治三十七年七月以後ニ於ケル毎月末日現在製造煙草ノ種類、數量及其ノ月ノ受拂高ハ第十七號書式ニ依リ翌月五日迄ニ所管專賣支局ニ申告スヘシ

第十七章 鹽專賣法

明治三十八年一月法律第一一號
改正 三十九年第一五號、四一年五九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル鹽專賣法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鹽專賣法

第一條 政府ハ鹽ノ專賣權ヲ有ス

第二條 政府ハ便宜ノ地ニ鹽取扱所ヲ設置シ鹽ノ收納及賣渡ヲ取扱ハシム

第三條 鹽及鹹水ハ政府又ハ政府ノ命ヲ受ケタル者

前項ニ依ル制限ハ鹽ノ試製ニ之ヲ適用セス

第七條 鹽製造者ノ製造シタル鹽ハ政府之ヲ收鹽ス但シ命令ノ定ムル制限數量以内ノ鹽ニシテ鹽製造者ノ自家用ニ供スル者又ハ政府ヨリ賣渡シタル鹽ニ依リ再製シタル鹽ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 鹽ノ賠償價格ハ政府之ヲ定メ豫メ公示スヘシ

第九條 鹽ヲ製造セムトスル者ハ製鹽ノ方法、採鹹地名、地番、製鹽段別、製鹽場、貯藏場及一年ノ生産見込高ヲ定メ政府ニ申請シ許可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第十條 鹽ノ製造業ト鹽ノ賣捌業トハ同一ノ場所ニ於テ相兼ヌルコトヲ得ス但シ政府ノ賣渡シタル鹽ニ依リ再製スルハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 相續ニ因リ鹽ノ製造ヲ承繼シタルトキハ其ノ旨政府ニ届出ツヘシ

相續ニ因ルノ外鹽ノ製造ヲ承繼セムトスルトキハ政府ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條 鹽製造者鹽ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ少クトモ一箇月前ニ政府ニ申告スヘシ但シ政府ノ許可ヲ受ケテ製造ヲ廢止スルハ此ノ限ニ在ラス

ニ非サレハ之ヲ外國ヨリ輸入シ又ハ本法ヲ施行セサル地ヨリ移入スルコトヲ得ス

智利硝石、「カイニツト」、「シルヴァイニツト」、「ポリハリツト」、「キーゼリツト」、「カルナリツト」、「ハルトザルツ」其ノ他ノ礦物ニシテ其ノ百分中四十以上ノ鹽化曹達ヲ含有スルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ變性ヲ施スニ非サレハ之ヲ外國ヨリ輸入シ又ハ本法ヲ施行セサル地ヨリ移入スルコトヲ得ス

第四條 鹽及鹹水ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ製造スルコトヲ得ス

第五條 政府ヨリ賣渡シタル鹽ニ非サレハ所有シ所持シ、讓渡シ、質入シ又ハ消費スルコトヲ得ス但シ納付期日若ハ正當ノ事由ニ由リ納付ヲ遅延シタル場合ニ於テ又ハ製造者ノ自家用ノ爲所有、所持スルハ此ノ限ニ在ラス

鹹水ハ之ヲ讓渡シ、質入シ又ハ鹽製造以外ノ用途ニ使用スルコトヲ得ス但シ鹽製造者ニ讓渡スルハ此ノ限ニ在ラス

第六條 政府ハ製鹽地ノ區域又ハ鹽ノ製造期間若ハ生産高ヲ制限スルコトヲ得

第十三條 鹽製造者本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ政府ハ製造ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十四條 鹽製造者鹽ヲ製造シタルトキハ總テ之ヲ政府ニ納付スヘシ但シ第七條但書ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

政府ハ鹽製造者ヲシテ前項ニ依リ納付スヘキ鹽ヲ其ノ指定シタル者ニ引渡スヘキ事ヲ命スル事ヲ得此ノ場合ニ於テハ政府カ鹽ノ數量ヲ定メ引渡シタルトキ製造者之ヲ政府ニ納付シタルモノト看做ス

第十五條 鹽製造者鹽ヲ納付シタルトキハ政府ハ鑑定人ヲシテ其ノ品質ヲ鑑定セシメ相當ノ賠償金ヲ交付スヘシ

製造者前項ノ鑑定ニ不服アルトキハ再鑑定ヲ求ムルコトヲ得但シ賠償金ノ請求ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

再鑑定ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 鹽製造者ノ納付セムトスル鹽ニシテ其ノ品質甚シク粗惡ナルモノニ付テハ政府ハ更ニ相當ノ處理ヲ爲シタル上納付スヘキ事ヲ命スル事ヲ得

第十七條 政府ハ鹽ノ製造又ハ包裝ノ方法、納付場所納付期日及其ノ運搬通路ヲ定ムルコトヲ得

第十七條ノ二 鹽ハ政府又ハ政府ノ指定シタル鹽元賣捌人若ハ鹽小賣人ニ非サレハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

鹽賣捌人及鹽ノ販賣ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 政府ハ定價ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ爲スヘシ前項ノ定價ハ賠償金ヲ交付シテ收納シタル鹽ニ付テハ賣渡當時ノ品質ニ相當スル賠償金ニ一石ニ付金二圓五十錢又ハ百斤ニ付金一圓四十八錢ノ割合ノ金額ヲ加算シタルモノヲ超エテ之ヲ定ムルコトヲ得ス

第十九條 左ニ掲グル場合ニ於テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ特ニ定メタル價格ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ爲スコトヲ得

- 一 外國ニ輸出シ又ハ本法ヲ施行セサル地ニ移出スル爲賣渡ヲ請求スル者アリタルトキ
- 二 命令ヲ以テ指定スル用途ニ使用スル爲賣渡ヲ請求スル者アリタルトキ

トキハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得

第二十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル鹽ハ之ヲ沒收ス既ニ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ第十八條ノ賣渡定價ニ相當スル金額ヲ追徵ス

- 一 第三條、第四條又ハ第五條ニ違反シタル者
- 二 許可ヲ受ケサル土地ニ於テ鹽ヲ製造シタル者
- 三 情ヲ知リテ政府ヨリ賣渡ササル鹽ヲ讓受ケタル者

第二十六條 鹽製造者正當ノ事由ナクシテ政府ノ指定シタル者ニ引渡ヲ爲ササルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス政府ノ指定シタル運搬通路ニ依ラスシテ鹽ヲ運搬シタルトキ亦同シ

第二十七條 鹽製造者政府ノ定メタル製造期間外ニ於テ鹽ヲ製造シ又ハ政府ノ許可シタル場所以外ニ於テ鹽ヲ製造シ若ハ貯藏シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル鹽ハ之ヲ沒收ス情ヲ知リテ其ノ場所ヲ供與シタル者亦同シ

三 前各號ノ外特ニ命令ヲ以テ定メタル場合ニ該當スルトキ

前條又ハ前項第三號ニ依リ賣渡シタル鹽ニシテ外國ニ輸出シ、本法ヲ施行セサル地ニ移出シ又ハ命令ノ定ムル用途ニ使用セラレタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ下付ス

第二十條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ鹽賣捌人ノ販賣スル鹽ノ價格ヲ制限スルコトヲ得

第二十一條 鹽賣捌人ハ鹽ニ他物ヲ混和シテ販賣スルコトヲ得ス

第二十二條 鹽製造者及鹽賣捌人ハ帳簿ヲ調製シ政府ノ指示ニ從ヒ營業ニ關スル要件ヲ記載スヘシ

第二十三條 當該官吏ハ探鹹地、製鹽場、貯藏場其ノ他鹽ノ所在ト認ムル場所ニ立入り鹹水、鹽、器具、器械、建築物又ハ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得當該官吏監督上必要ト認ムルトキハ前項ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得

第二十四條 當該官吏ハ運搬中ニ在ル鹽ヲ検査シ其ノ出所及到着先ヲ質問スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該官吏監督上必要ト認メタル

第二十八條 前條ニ該當スル場合ヲ除クノ外鹽製造者許可ヲ受ケスシテ第九條ニ依リ許可ヲ受ケタル事項ヲ變更シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第十條ニ違反シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第十一條又ハ第十二條ニ違反シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條ノ二 鹽賣捌人第二十條ノ二ノ制限ヲ超エテ鹽ヲ販賣シタルトキハ五圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條ノ三 鹽賣捌人ニ非スシテ鹽ヲ販賣シ又ハ販賣ノ準備ヲ爲シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル鹽ハ之ヲ沒收ス

第三十一條 鹽賣捌人第二十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ犯罪ニ係ル物件ハ之ヲ沒收ス

第三十二條 鹽製造者又ハ鹽賣捌人其ノ營業ニ關スル帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ怠リ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金

ニ處ス

ニ處ス

第三十三條 當該官吏ノ尋問ニ對シ虛偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ業務執行ヲ拒ミ之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモハ刑法ニ依ル

第三十四條 政府ヨリ賣渡ササル鹽ニシテ犯人以外ノ所有ニ係ルモノハ政府之ヲ收納ス此ノ場合ニ於テハ他物ヲ混和シタル鹽ヲ除クノ外第十五條ニ準シ賠償金ヲ交付ス

第三十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、【再犯加重】及【數罪俱發】ノ例ヲ用ユ

第三十六條 鹽製造者、鹽賣捌人カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ當業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラ

第三十七條 鹽製造者又ハ鹽賣捌人ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ

施行ス但シ第四十四條第四項及第四十五條ハ此ノ限ニ在ラス

第四十二條 本法ハ勅令ヲ以テ指定シタル地方ニ之ヲ施行ス

第四十三條 本法施行ノ際鹽消費者ノ所有ニ係ル鹽ニ關シテハ第五條ヲ適用セス

第四十四條 本法施行ノ際製造者ノ所有又ハ所持スル鹽ハ政府ニ納付スヘシ此ノ場合ニ於テハ第十五條ニ準シ賠償金ヲ交付ス

本法施行ノ際販賣ノ目的ヲ以テ所持シ又ハ所持スル鹽ニ付テハ百斤ニ付金一圓三十錢ノ割合ニ依リ鹽稅ヲ納ムヘシ

前項ノ鹽ヲ所有シ又ハ所持スル者ハ其ノ數量及所在ヲ政府ニ申告スヘシ申告ヲ怠リ又ハ不正ノ申告ヲ爲シタルトキハ其ノ數量ニ對スル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處ス

鹽稅ノ徵收ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム第二項ニ依ル納稅濟ノ鹽ハ政府ノ賣渡シタル鹽ト看做ス

納稅期日前ニ於ケル鹽ノ所有又ハ所持ニ關シテハ

其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルコトヲ得ス

第三十八條 間接國稅犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第三十九條 鹽製造者其ノ製造ノ許可ヲ取消サレ又ハ鹽製造者若ハ鹽賣捌人其ノ業務ヲ廢止スルモ製鹽場、貯藏場又ハ販賣場ニ鹽ノ現在スル間ハ仍本法ノ規定ヲ適用ス

第四十條 本法ニ依リ收納シタル鹽ノ賠償金ノ仕拂ニ關シテハ主任ノ官吏ニ現金前渡ヲ爲スコトヲ得第四十條ノ二 鹹水ニ關シテハ第六條、第九條乃至第十三條、第二十二條、第二十四條、第二十五條、第二十七條乃至第三十條、第三十二條、第三十六條、第三十七條及第三十九條ノ規定ヲ準用ス

第四十一條 本法ハ明治三十八年六月一日ヨリ之ヲ

附則

第五條ヲ適用セス

第四十五條 製法發布前ヨリ鹽ヲ製造スル者ハ本法發布ノ日ヨリ三箇月以内ニ命令ノ定ムル所ニ依リ許可ヲ受クヘシ

前項ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ第九條ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第四十六條 本法施行ノ際鹽ヲ製造スル者ハ本法施行ノ日ヨリ一箇月以内ニ本法ニ依リ許可ヲ受クヘシ其ノ期間内ハ鹽ノ製造ヲ爲スコトヲ得

本法ニ改正ヲ加ヘタル明治四十一年法律第五十九號ノ附則

本法ハ明治四十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十七條ノ二第二項ハ本法發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス鹽賣業者ハ明治四十七年六月三十一日ニ於テ現ニ其ノ所持ニ係ル鹽ノ種類、等級、數量ヲ明治四十一年七月十日迄ニ政府ニ申告スヘシ

鹽賣捌人ノ指定ヲ受ケサル者本法施行前ヨリ所持スル本法施行後一年ヲ限リ之ヲ販賣スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ販賣者ハ其ノ販賣ニ關スル帳簿ヲ調製シ明治四十一年七月以後毎月末日ニ於ケル鹽ノ種

類、等級、數量及其ノ月ノ受拂高ヲ翌月五日迄ニ政府ニ申告スヘシ
前二項ノ規定ニ違反シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

●同 施行細則

明治三十八年四月大藏省令第二二號
改正 三十八年第三六號、三十九年第九號第一二號
四〇年第二號第三九號、四一年第二二號

鹽專賣法施行細則左ノ通相定ム

鹽專賣法施行細則

第一條 鹽ヲ製造セムトスル者ハ製鹽ノ方法、採鹹地名、地番、製鹽段別、製鹽場、鹼水又ハ鹹砂貯藏場、製鹽貯藏場及一箇年ノ生産見込數量ヲ定メ所轄專賣局收納所ニ製造ノ許可ヲ出願スヘシ
鹽ノ試製ヲ爲サムトスル者及政府ヨリ賣渡シタル鹽ヲ再製セムトスル者ハ其ノ旨ヲ記シ第一項ニ準シ所轄專賣局收納所ニ製造ノ許可ヲ出願スヘシ
新ニ鹽田ヲ作り鹽ヲ製造セムトスル者ハ鹽田ヲ作ラムトスル際鹽田ニ依ラスシテ鹽ヲ製造セムトスル者ハ其ノ設備ニ著手セムトスル際第一項ノ出願

ヲ爲スヘシ

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ專賣局收納所ハ鹽ノ製造ヲ許可セサルコトヲ得

一 採鹹セムトスル場所カ製鹽ニ適當ナラスト認ムルトキ

二 鹽專賣法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者カ出願シタルトキ

三 取締上不便ト認ムル場所ニ於テ製鹽セムトスルトキ

第四條 鹽ノ生産高ヲ制限スル必要アルトキ

第三條 所轄專賣局收納所ニ於テ必要ト認メ製鹽場鹼水又ハ鹹砂貯藏場、製鹽貯藏場ノ圖面又ハ製造用器具、器械ノ目錄ヲ提出スヘキコトヲ命シタルトキハ鹽製造者ハ之ヲ提出スルコトヲ要ス

前項ノ圖面又ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度所轄專賣局收納所ニ申告スヘシ

第四條 鹽製造者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ具シ所轄專賣局收納所ニ出願シ許可ヲ受クヘシ

テハ所轄專賣局收納所ニ申告スヘシ

一 製鹽場、鹼水又ハ鹹砂貯藏場、製鹽貯藏場ヲ改築又ハ増築シタルトキ

二 災害ニ因リ採鹹地、製鹽場、鹼水又ハ鹹砂貯藏場、製鹽貯藏場ニ異動ヲ生シタルトキ

第三條 住所又ハ氏名若ハ名稱ヲ變更シタルトキ

第八條 鹽製造者鹽ノ製造ヲ廢止シ又ハ休止シタルトキ現存スル鹼水又ハ鹹砂ハ專賣官吏ノ承認ヲ受ケ之ヲ處分スヘシ

第九條 鹽製造者製鹽場所在市町村ニ現住セザルトキハ鹽專賣法ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ鹽製造者及管理人連署シ所轄專賣局收納所ニ申告スヘシ

第十條 鹽製造者ハ製鹽場ニ一箇年ノ製鹽見込數量製造者又ハ管理人ノ住所、氏名、許可ノ年月日ヲ記載シタル標札ヲ掲クヘシ

第十一條 一 鹽ノ賠償價格ハ毎年十二月ニ於テ其ノ翌年ニ適用スヘキモノヲ定メ之ヲ告示スヘシ但シ翌年中ニ於テ特殊ノ事情アリタルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

一 製鹽ノ方法ヲ變更セムトスルトキ
二 採鹹地ヲ變更シ又ハ製鹽所ヲ増減セムトスルトキ
三 製鹽場、鹼水又ハ鹹砂貯藏場、製鹽貯藏場ヲ新設又ハ移轉セムトスルトキ
四 一箇年ノ生産見込數量ヲ變更セムトスルトキ

第五條 相續ニ因リ鹽ノ製造ヲ承繼シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄專賣局收納所ニ申告スヘシ
相續ニ因ルノ外鹽ノ製造ヲ承繼セムトスルトキハ製造者及承繼者連署シ所轄專賣局收納所ニ出願シ許可ヲ受クヘシ但シ專賣局收納所ニ於テ正當ノ事由アリト認メタルトキハ製造者ノ連署ヲ要セス

第六條 鹽製造者鹽ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ少クトモ一箇月前ニ所轄專賣局收納所ニ申告スヘシ

前項ノ期間ヲ經過セスシテ鹽ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ所轄專賣局收納所ニ廢止ノ許可ヲ出願スヘシ

第七條 鹽製造者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於

第十一條ノ二 鹽專賣法第六條第一項ニ依リ鹽ノ製造期間又ハ生産高ヲ制限スル必要アルトキハ專賣局收納所長ハ鹽ノ製造期間又ハ生産高ヲ定メ之ヲ鹽製造者ニ通知スヘシ

第十二條 鹽製造者鹽ヲ製造シタルトキハ少クトモ二日ヲ經過シタル後之ヲ所轄專賣局收納所ニ納付スヘシ

第十三條 專賣局收納所長ハ特ニ鹽製造者ヲ指定シ一定ノ期間毎ニ其ノ製造シタル鹽ノ數量ヲ專賣局收納所ニ申告セシムルコトヲ得

第十四條 鹽製造者前條ニ依リ專賣局收納所長ノ定メタル期日又ハ場所ニ於テ鹽ノ引渡ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ具シ所轄專賣局收納所ニ出願シ許可ヲ受クヘシ

第十五條 鹽製造者ハ代理人ヲ以テ鹽ノ納付ヲ爲ス

コトヲ得
運送業者カ鹽製造者又ハ其ノ代理人ヨリ納付ノ爲鹽ノ運送ヲ委託セラレタルトキハ運送中ハ其ノ代理人ト爲リタルモノト看做ス

第十六條 鹽製造者ノ納付スヘキ鹽ニハ一定ノ包裝ヲ施スヘシ但シ專賣局收納所長ハ包裝ヲ施ササル鹽ノ納付ヲ許可スルコトヲ得

第十七條 鹽ノ品質ハ其ノ含有スル鹽化曹達ノ量ニ依リテ之ヲ定メ左ノ五等ニ區別ス

一等 含有鹽化曹達量百分ノ九十以上
二等 含有鹽化曹達量百分ノ八十五以上
三等 含有鹽化曹達量百分ノ八十以上
四等 含有鹽化曹達量百分ノ七十五以上
五等 含有鹽化曹達量百分ノ七十以上

前項鹽化曹達ノ量ハ可檢物ノ量ヨリ其ノ含有スル水及夾雜物ノ量ニ左ノ係數ヲ乘シタルモノヲ控除シテ之ヲ定ム

一 水

一、一

一六六

二 夾雜物

一、二

第十八條 鹽製造者ノ納付セムトスル鹽ニシテ前條五等ノ品質ニ達セサルトキハ專賣局收納所長ハ製造者ヲシテ更ニ相當ノ處理ヲ爲サシムヘシ但シ第十三條第二項ノ場合ニ於テ專賣局收納所長ノ指定シタル者カ引取ヲ承諾シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條 鹽製造者鹽ヲ納付シタルトキハ專賣局收納所ハ其ノ品質ヲ鑑定シ相當ノ賠償金ヲ交付ス

第二十條 鹽製造者前條ノ鑑定ニ不服アルトキハ其ノ要領ヲ具シ即時再鑑定ヲ求ムルコトヲ得

再鑑定ノ申立アリタルトキハ專賣局收納所長ハ二人以上ノ鑑定人ヲシテ分析鑑定ヲ爲サシメ之ヲ決定スヘシ

再鑑定決定シタルトキハ其ノ決定書ヲ作り再鑑定申立人ニ交付スヘシ

再鑑定ノ結果ニ依ル品質ノ等級カ最初鑑定シタル等級ヨリ上進セサルトキハ再鑑定ニ關スル費用ハ申立人ノ負擔トス

第二十一條 鹽製造者災害ニ依リ納付前ノ鹽ニ損害

ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ事由ヲ具シ所轄專賣局收納所ニ申告スヘシ

第二十二條 鹽製造者ノ自家用ニ供スル鹽ニシテ政府ニ納付スルコトヲ要セサルモノハ一箇年一人ニ付二十斤以內トス但シ一家ヲ通シテ一箇年三百斤ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十三條 鹽製造者其ノ製造シタル鹽ノ一部ヲ自家用ニ供セムトスルトキハ豫メ申告シテ專賣官吏ノ檢査ヲ受ケ政府ニ納付スヘキ鹽ト區別シテ貯藏スヘシ

第二十四條 鹽製造者政府ヨリ賣渡シタル鹽ヲ鹹水ニ混和シテ鹽ヲ製造シタルトキハ其ノ製造シタル鹽ノ全部ヲ政府ニ納付スヘシ但シ專賣官吏ノ檢査ヲ受ケ混和鹽及製造鹽ノ數量ニ付其ノ承認ヲ得タルトキハ混和鹽ノ數量ニ相當スル製造鹽ハ政府ニ納付スルコトヲ要セス

第二十五條 鹹水ノミヲ以テ鹽ヲ製造スル者政府ヨリ賣渡シタル鹽ノ再製ヲ兼營スルトキハ政府ヨリ賣渡シタル鹽、之ヲ以テ製造シタル鹽及鹹水ノミヲ以テ製造シタル鹽ヲ各別ニ區分シテ貯藏スヘシ

一六七